



沖縄県薬剤師会報

No.331. 2026(令和8年) 1・2月号



沖縄県薬剤師会

目次

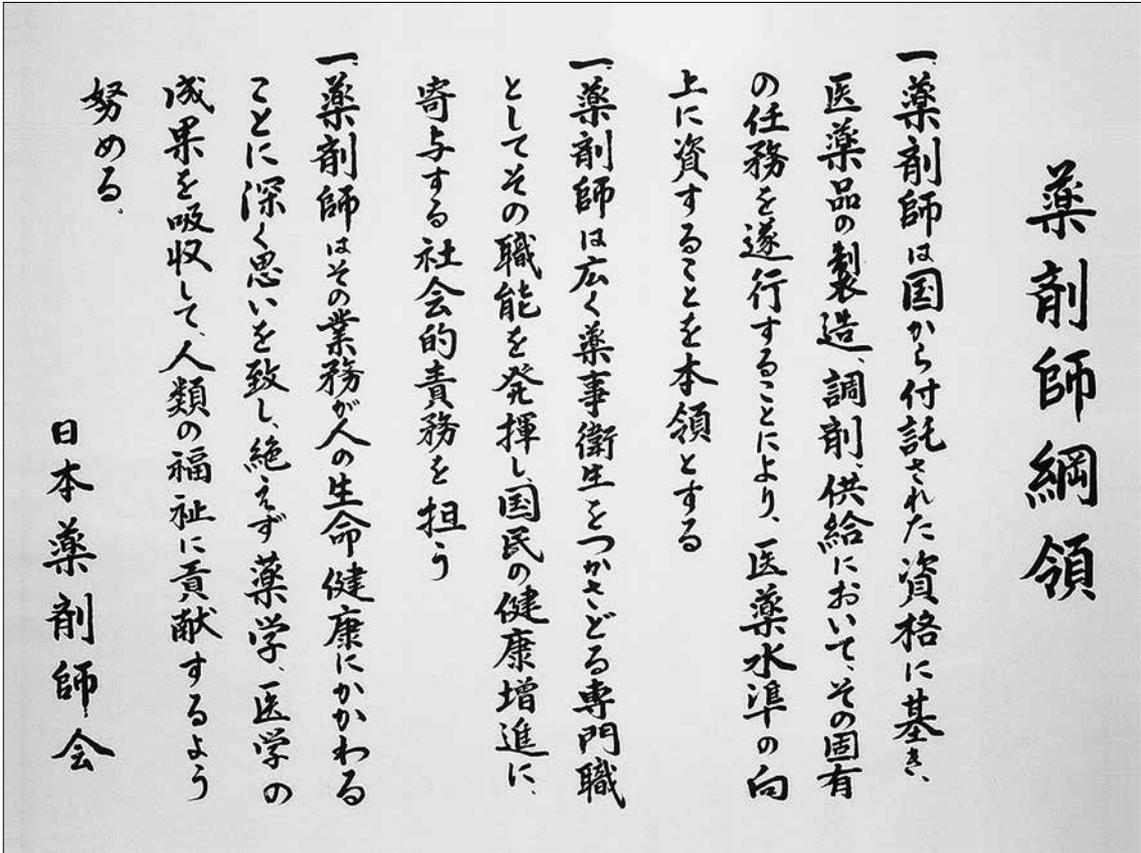
| | |
|-----------------|--|
| 表彰 | 令和7年度薬事功労者厚生労働大臣表彰 村田美智子先生…………… 大城 喜仁 (2) |
| | 令和7年度学校保健功労者文部科学大臣表彰 我喜屋美香先生…………… 平安山 丈継 (3) |
| 年頭挨拶 | 令和八年 新年のご挨拶…………… 前濱 朋子 (4) |
| | 新年のご挨拶…………… 岩月 進 (5) |
| | 新年のあいさつ…………… 糸数 公 (6) |
| | 新年にあたって…………… 神谷 政幸 (7) |
| | 年頭所感…………… 本田 顕子 (8) |
| | 年頭ご挨拶…………… 國場 幸之助 (9) |
| | ご挨拶…………… 宮崎 政久 (10) |
| | 新年のご挨拶…………… 島尻 安伊子 (11) |
| | 年頭のご挨拶…………… 西銘 恒三郎 (12) |
| | 新年のご挨拶…………… 島袋 大 (13) |
| | 新年のご挨拶…………… 新垣 淑豊 (14) |
| 祝賀会 | 令和7年度薬事功労受賞者合同祝賀会開催…………… 川平 真央 (16) |
| | 令和7年度受賞者プロフィール…………… (20) |
| 薬と健康の週間 | 令和7年度薬と健康の週間 くすりと健康フェア…………… 松本 圭五 (24) |
| | 薬剤師になろう！こども調剤体験…………… 佐合 ひかる (26) |
| | 健康とおくすり相談会…………… 金城 明日見 (27) |
| | 薬祖祭…………… 大城 喜仁 (28) |
| | 広報活動…………… 川平 真央 (29) |
| | 論壇 地域住民の健康支える薬剤師「かかりつけ薬剤師」を持とう… 喜屋武 芳美 (30) |
| | 論壇 地域医療進展へ活用必要 かかりつけの薬剤師…………… 知念 大輔 (31) |
| | くすりと健康フェア告知チラシ…………… (32) |
| 沖縄学術大会 | 第38回沖縄県薬剤師会学術大会開催…………… 中尾 滋久 (36) |
| | 第38回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム…………… (37) |
| | 会員発表審査報告…………… 名嘉 紀勝 (43) |
| | 第38回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会…………… 川平 真央 (44) |
| | 奨励賞受賞発表要旨…………… (45) |
| 災害対策 | 令和7年度沖縄県総合防災訓練…………… 春田 崇彰 (47) |
| | 令和7年度那覇市総合防災訓練…………… 西澤 香織 (48) |
| 医療保険 | 調剤報酬請求業務Q&A…………… 医療保険委員会 (49) |
| 学術研修 | 令和7年度第2回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会「慢性腎臓病診療における薬剤師への期待」… 日高 久美子 (50) |
| 学薬部会 | 令和7年度第2回学校薬剤師部会研修会…………… 新垣 紀子・前野 こずえ (52) |
| 卸薬部会 | 卸勤務薬剤師部会研修会 国の災害時医療活動訓練における医薬品供給訓練の最新情報… 山城 聖子 (56) |
| 女性薬部会 | 令和7年度第2回女性薬剤師部会研修会「小児の食物アレルギー・アトピー性皮膚炎～最近の話題～」… 佐邊 真理 (58) |
| 九山薬学大会 | 第84回九州山口薬学大会参加報告…………… 鈴鹿 玲子 (59) |
| ぶれいくたいむ | 夫婦げんか…………… 大城 尚美 (63) |
| 月例相談会 | 第203回健康とおくすり相談会…………… 佐藤 俊吾 (64) |
| | 第204回健康とおくすり相談会…………… 大塚 成一郎 (65) |
| 県民の皆様へ | あまくま薬立つ情報…………… 薬達ちゃー (66) |
| D I | 薬事情報おきなわNo. 288…………… 薬事情報センター (67) |
| 試験検査センター | 試験検査センターからのお知らせ…………… (79) |
| リレー随筆 | 「落語」…………… 備瀬 愛美 (81) |
| 薬草学 | 身近な薬草を知ろう 第73回暮らしの中の薬草学 イシャナカシグサ… 狩俣 イソ (82) |
| 薬連だより | 第47回自由民主党沖縄県支部連合会女性局大会参加…………… 鈴鹿 玲子 (84) |
| | 政幸だより「日新製薬の山形工場を視察」…………… 神谷 政幸 (85) |
| | オレンジ日記「『強い経済』の実現と国民のいのちと暮らしを守るために」… 本田 顕子 (86) |

・表紙

題字：豊平峰雲

「幸せは雲の上に」 photo by 伊集 智英 (くはら薬局)

| | |
|------|--|
| 転載記事 | 薬剤師の役割紹介「くすりと健康フェア」…………… (26) |
| | 毎日新聞「薬と健康の週間」紙面 |
| | 対談 健康づくりのパートナー一人一人に寄り添う薬剤師…………… 日本薬剤師会 (33) |
| | VOL.1 薬剤師・薬局は健康な生活を薬で支えるパートナー…………… 日本薬剤師会 (34) |
| | VOL.2 在宅療養に寄り添う薬剤師という身近な存在…………… 日本薬剤師会 (34) |
| | VOL.3 マイナ保険証×お薬手帳の利用でより安全・安心な医療を… 日本薬剤師会 (35) |
| | VOL.4 正しく使おうOTC医薬品…………… 日本薬剤師会 (35) |
| | 日薬会員数、沖縄で2桁増 若手病薬向けキャンペーンなど実施…………… (80) |
| | 古謝氏が立候補へ 知事選 保守系、先行委が擁立…………… (87) |
| | 沖縄県知事選、那覇副市長の古謝氏が出馬へ 県薬副会長、保守系先行委が擁立… (88) |
| | 玉城氏と一騎打ちへ 選挙協力拡大へ動き活発化…………… (89) |
| | 古謝玄太氏に出馬要請 知事選へ「次世代のつどい」…………… (90) |
| | 厚生省事業で地域フォーミュラ普及へ 沖縄県北部地区薬、他職種研修会やGL配布… (91) |
| | 日本発の医療NGO活躍 希望と活気に満ちた国民…………… (92) |
| | オンラインで服薬指導 南大東・与那国に連携店舗…………… (93) |
| | 許田千恵子さん(89) 寄贈 戦火越え、たんす「里帰り」90年ぶり沖縄刑務所へ 母の婚礼家具、歴史と共に… (94) |
| 会務報告 | 令和7年12月～令和8年1月分…………… (95) |
| 編集後記 | …………… (98) |
| 会員作品 | 誌上ギャラリー(裏表紙)について…令和7年度誌上ギャラリー大賞&優秀賞決定! …… (98) |
| お知らせ | Facebookをご覧ください!…………… (3) |
| | 地区・部会からの原稿をお寄せ下さい!…………… (51) |
| | 保険薬局におけるBCP(業務継続計画)の策定について…………… (57) |
| | 沖縄県薬剤師連盟の各SNSをご覧ください!…………… (88) |
| | 会報原稿募集のご案内…………… 広報委員会 (90) |
| | 会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について…………… (97) |



令和7年度薬事功労者厚生労働大臣表彰



村田 美智子先生、おめでとうございます



令和7年度薬事功労者厚生労働大臣表彰の受賞者として、本会から、村田美智子氏が選ばれた。これは多年にわたり、医薬関係事業の発展向上に貢献し、医薬行政の推進に顕著な功績があった者及び団体を薬と健康の週間（10月17日～10月23日）に併せて表彰するものである。

厚生労働省で行われる表彰式には参加できなかったため、令和7年12月25日に伝達表彰が沖縄県庁の保健医療介護部長室で執り行われ、糸数公沖縄県保健医療介護部長から表彰状と副賞が授与された。

（文：事務局 大城 喜仁）

村田さんに厚労大臣表彰伝達 薬事功労「仲間のおかげ」



県保健医療介護部の糸数公部長（右）から表彰状を受け取る村田美智子さん（中央）ら＝25日、県庁

本年度の薬事功労者厚生労働大臣表彰に選ばれた元県薬剤師会副会長の村田美智子さん(75)＝那覇市＝の伝達式が25日、県庁であり、県保健医療介護部の糸数公部長から表彰状が手渡された。

村田さんは「支えてくれた仲間のおかげ。薬剤師会の皆さんに感謝しながら今後も頑張りたい」とあいさつした。

村田さんは県内薬局で管理薬剤師として従事し、地域住民の保健福祉に尽力。県薬剤師会の活動にも力を入れ、女性薬剤師の資質向上などに貢献した。

令和7年度学校保健功労者文部科学大臣表彰

我喜屋美香先生、おめでとうございます



受賞した我喜屋美香先生（右から2人目）を囲んで
左から2人目は旦那様の我喜屋啓先生

我喜屋先生は、平成6年4月に中城村立中城小学校、津波小学校の学校薬剤師に委嘱され、以来27年間にわたり複数校において学校薬剤師として活動されています。

学校環境衛生検査を通して、学校長及び養護教諭との連携を密にし、学校薬剤師として専門的な立場から学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、資料提供等を行い学校保健活動の向上に貢献したことで今回の受賞となっております。

我喜屋美香先生、この度のご受賞誠にありがとうございます。（文：事務局 平安山丈継）

お知らせ

Facebookをご覧ください！

下記アドレスより、お待ちしております。ホームページからも閲覧できます。

<https://www.facebook.com/okinawaopa>



令和八年 新年のご挨拶

～創立100周年を迎える新たな誓い～

沖縄県薬剤師会 会長
前濱 朋子



会員の皆様、謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は、当薬剤師会の活動に格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本年、令和八年は、沖縄県薬剤師会が創立100周年という記念すべき大きな節目を迎える年となります。先人の方々が築き上げてこられた永きにわたる歴史と伝統に対し、深く敬意を表するとともに、その重みを改めて感じています。この100年間、薬剤師は、伝染病との闘い、戦後の混乱、医療制度の確立、そして近年におけるパンデミック対応という幾多の困難を乗り越え、常に県民の健康と生活を守る公衆衛生の要として貢献してまいりました。100周年という節目は、単に過去を振り返るだけでなく、次の100年を見据え、私たち薬剤師が沖縄の医療にどのような未来を描くのかを誓い合う、新たな出発点です。

さて、昨年は、医療DX（デジタルトランスフォーメーション）がさらに深化し、私たちの業務環境に大きな変革をもたらしました。電子処方箋の普及拡大や、マイナ保険証を活用した診療情報・薬剤情報へのアクセスは、患者さんの服薬情報の一元的・継続的な管理をより高度化させる土台となりました。しかし、DXの本質はツールを導入することではなく、それによって得られた情報をいかに活用し、質の高い個別化された薬物療法を提供できるかにあります。薬剤師は、AIやデータ分析では代替できない専門的な視点と対話を通じて、患者さんの生活の質（QOL）向上に貢献する役割を担っています。高齢化が加速する沖縄県において、在宅医療や地域包括ケアシステムの中で、テクノロジーとヒューマンタッ

チを融合させた「ハイブリッドな薬剤師機能」が不可欠です。

創立100周年を迎える令和八年は、「未来への継承と会員の専門性の強化」と「地域医療の持続可能性の確保」を二つの柱として活動を推進してまいります。

未来への継承と会員の専門性の強化として、100周年を記念し、これまでの歴史を振り返る事業や若手薬剤師が、沖縄の薬剤師としての使命と誇りを胸に、地域医療の担い手としての自覚を高める機会を提供する事業に取り組みます。また、複雑化する薬物治療に対応するため、がん専門薬剤師、感染制御専門薬剤師などの認定・専門薬剤師の育成強化に取り組みます。

沖縄県は、地理的・経済的な課題から生じる地域間の医療提供体制の偏在は、依然として深刻です。当会は、地域医療の持続可能性の確保として離島・へき地医療支援を最重要課題とし、遠隔服薬指導やオンラインでの研修機会の提供を通じて、県内全域の薬剤師が均質なサービスを提供できる環境づくりを加速させます。

結びに、この100年の歩みを誇りとし、私たち一人ひとりが、県民の皆様から真に信頼される医療の専門職として、地域医療の未来を創造していく責任があります。本年が、会員の皆様にとって実り多き一年となり、沖縄県薬剤師会が次の100年に向けた強固な基盤を築く年となりますよう、心より祈念いたします。皆様の益々のご健勝とご多幸を祈り、新年のご挨拶といたします。

令和八年 元旦



新年のご挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会 会長
岩月 進



新年明けましておめでとうございます。沖縄県薬剤師会会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から、本会会務にご多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律等の一部を改正する法律」が成立、公布され、濫用等のおそれのある医薬品の販売方法の厳格化をはじめとする医薬品販売制度に関わる種々の改正、薬局の機能等のあり方の見直しとして健康サポート薬局の法定化（健康増進支援薬局）など、薬局の業務やあり方に直接的に関連する制度の見直しが行われました。

さらに、法第1条の5第3項により、薬局開設者の責務として、自薬局における医薬品の安定供給にとどまらず、行政と連携して『地域』における医薬品の安定供給を図ることとされました。日本薬剤師会では、この実現に向けて、昨年7月に「地域医薬品提供体制強化のためのアクションリスト」を策定しました。急速な少子化や過疎化が進む人口減少社会において、地域の医療資源たる薬局・薬剤師にとって、今がまさに正念場となります。地域薬剤師会、都道府県薬剤師会の皆様におかれては、国民への医薬品の適正な提供のため、関係行政機関並びに多職種との連携・協

働の下、薬局機能を強化し、地域住民が「薬剤師サービス」を過不足なく享受できる体制の構築・強化に取り組んでいただきたいと思います。日本薬剤師会としても、引き続き全力でサポートしていく所存です。

また、令和8年度は診療報酬改定が予定されています。現下の賃上げ・物価高等の影響、いわゆる「逆ザヤ」品目の急増、毎年の薬価改定による備蓄医薬品の資産価値の減少等により、薬局の経営状況は極めて逼迫しています。地域に根ざし、患者・地域住民のため日々業務に取り組んでいる薬剤師・薬局が、継続かつ安定して薬物治療を提供していくため、改定財源の確保と同時に、医科・調剤の公平な配分を維持するよう関係各方面へ強く働きかけを行ってまいります。

そして、その結果は、各地域において、薬剤師サービスと医薬品提供体制を確立し、薬剤師免許を使って、地域の住民が安心して暮らせる環境を実現することになります。

本年が、一人ひとりの薬剤師がその専門性と使命感を高め、国民の安全・安心な医療と健康を守る役割を果たすため、さらなる高みを目指す一年となることを確信しております。

結びに、沖縄県薬剤師会会員の皆様のご活躍とご発展を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



新年のあいさつ

沖縄県保健医療介護部長
糸数 公



はいさい、ぐすーよー、いいそーぐあちでー
びる。

新年あけましておめでとうございます。沖縄県
薬剤師会の皆さまには、日頃から本県の薬務行
政の推進に格別の御支援と御協力をいただき、
厚くお礼を申し上げます。

2015年に厚生労働省が策定した「患者のため
の薬局ビジョン」は、薬剤師を取り巻く環境に
大きな変革を促しました。医薬分業の進展に伴
う駅前薬局の増加という背景を受け、薬局の役
割を従来の「対物中心」から「対人中心」へと転
換し、患者さんの薬物療法を継続的に支えるた
め、服薬情報の一元的・継続的な把握、24時
間対応や在宅医療への対応、医療機関等との連
携という3つの柱を掲げ、薬局機能の強化を進め
て参りました。その結果、この10年間で「健康
サポート薬局」や「地域連携薬局」「専門医療
機関連携薬局」といった様々な取り組みが進め
られ、薬局が担う医療・健康支援機能がより明
確になったことは、制度面での大きな成果であ
ると認識しています。

昨年5月に公布された医薬品医療機器等法
の一部を改正する法律では、薬剤師等の遠隔管
理下での一般用医薬品販売や薬局の調剤業務の
一部外部委託が可能とされた他、「健康増進支
援薬局」の認定制度導入など薬局機能の強化が
図られました。

今後は、超高齢者化社会を迎える2035年に向
けて、本来のかかりつけ薬局機能を個々の薬局
の努力に留まらず、地域の特性に応じた連携体
制として再構築していくことが、期待されてお
ります。

また、薬局・薬剤師の皆様の役割は平時のみ
ならず、有事においても極めて重要です。昨年
3月には厚生労働省から「災害薬事コーディネ
ーター活動要領」が示され、全国的に育成が強化
されつつあります。

県では、沖縄県薬剤師会と連携して養成研修
会等を実施し、現在30名の薬剤師を沖縄県災害
薬事コーディネーターとして登録しております。引
き続き、災害薬事コーディネーターの養成と活動
の推進に御理解と御協力をお願いいたします。

皆さまご承知のとおり、本県では薬剤師が慢
性的に不足しており、薬剤師の確保が重要な課
題となっているところです。そのため県では、「新
沖縄21世紀ビジョン基本計画」及び「沖縄県薬
剤師確保計画」に基づき、県内での就業を目的
とした奨学金の返還助成や県内国公立大学への
薬学部設置等の総合的な薬剤師の確保・養成に
取り組んでおりますので、今後とも、一層の御協
力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

薬物乱用防止対策については、近年、市販薬
の過剰摂取が社会問題化しています。県では、
沖縄県薬剤師会や警察など関係機関・団体と連
携し、学校や地域での講習会、街頭キャンペーン、
SNSを活用した啓発活動を実施しています。皆様
におかれましても、薬の専門家である薬剤師とし
て、医薬品の適正使用と併せて、今後とも、薬
物乱用防止対策に特段の御協力を賜りますよう
重ねてお願い申し上げます。

結びに、新春の門出にあたり、沖縄県薬剤師
会の限りない御発展と会員の皆さまの御健勝と
御活躍を心から祈念申し上げ、新年のあいさつ
といたします。



新年にあたって

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お健やかに輝かしい新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より温かいご支援を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして、深く御礼を申し上げます。

昨年1月24日に召集され、6月22日に閉会した第217回通常国会において、厚生労働委員会で2度、消費者問題に関する特別委員会で1度質問に立ちました。令和元年の薬機法改正に伴い、附則に施行後5年を目途として改正内容を検討する規定が設けられたことを受け、厚生労働委員会において薬機法改正に関する審議が行われました。医療用医薬品等の安定供給体制、国民への医薬品の適正な提供のための薬局機能の強化、医薬品等の品質及び安全性の確保、より活発な創薬が行われる環境の整備等について審議が行われ、2度の質問の機会ではほぼ全ての項目について質問できたことは、薬剤師議員として感慨深いものがありました。

また、この度、昨年10月22日、高市内閣において厚生労働大臣政務官（労働・福祉・年金担当）を拝命しました。安心して働ける労働政策や国民生活を支える社会保障等、国民の皆さまの生活を生涯にわたって支える厚生労働行政の一翼を担い、政務官として上野賢一郎厚生労働大臣を支え職務を全うできるよう全力で取り組んでまいります。引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様の益々のご活躍と、本年が素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。



年頭所感

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



謹賀新年

沖縄県薬剤師会の皆様には、日頃よりご指導賜りますとともに、昨夏には多くのお力を結集していただき、ありがとうございました。

本年は午年。駆け抜けるほどの勢いと力強さをもって、確実に歩を進める年にしたいと思います。

中国の思想家荀子の「ちやくがんだいきよく 着眼大局 ちやくしゅしょうきよく 着手小局」という言葉を恩師から以前教わりました。物事の全体像を俯瞰的に捉えて本質を見抜き（着眼大局）、同時に、目の前にある具体的な課題一つひとつから着実に実行していく（着手小局）という解釈の言葉です。

各年度の政府一般会計予算を始め国会の場で議論される政策の多くは、一定の時間軸を設定した上で、全体像（大局）を見失わずに、現下の課題（小局）と向き合って解決のための方策を積み重ねていきますので、国会議員として活動する中でこの言葉を大切にしています。

昨年10月に「今の暮らしや未来への不安を希望に変え、強い経済を作る」、「日本列島を強く豊かに、日本を再び世界の高みに押し上げる」という強いメッセージと共に、高市内閣が始動しました。

新たな連立の枠組みの下で他の野党とも協議を適宜重ねながらの国会運営は厳しい状況に変わりありませんが、物価高対策と賃上げ対応、創薬イノベーションの推進、流通改善、薬剤師の処遇改善及び不足・偏在の解消等々、薬剤師や薬業界を取り巻く現下の諸課題の大局を見失うことなく、補正予算の円滑な執行、薬価・報酬改定や新年度予算等々による適切な評価と支援策を小局として、課題の一つひとつを丁寧にかつ力強く解決に導き、国民のいのちと暮らしを守ってまいります。

皆様にとって、本年が実り多き1年となりますことをお祈り申し上げ、年頭のご挨拶いたします。本年もよろしく願いいたします。



推古天皇の即位に合わせて行われるようになった薬狩りの様子を描いた壁画
(星薬科大学本館掲示の壁画を二分割撮影)



年頭ご挨拶

衆議院議員
國場 幸之助



新年あけましておめでとうございます。

沖縄県薬剤師会会員の皆様におかれましては、地域医療の最前線において県民の健康と安心を日々支えておられますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年はいわゆる「2025年問題」を迎え、団塊の世代がすべて後期高齢者となることで、医療・介護需要がこれまで以上に増大する、重要な節目の年となりました。医療提供体制の持続可能性が強く問われる中、薬剤師の皆様には、地域包括ケアシステムの中核を担う専門職として、これまで以上に幅広く、高度な役割が期待されています。

また、昨年診療報酬改定では、対人業務の評価やかかりつけ機能の強化、ポリファーマシー対策、在宅医療への関与など、薬剤師の専門性を最大限に活かす方向性がより明確に示されました。単に薬を調剤するにとどまらず、患者一人ひとりの生活背景や服薬状況を踏まえた継続的な薬学的管理を行うことが、治療効果の向上や副作用防止、さらには医療費適正化にもつながる時代となっています。

さらにリフィル処方箋の普及やオンライン服薬指導の定着は、医療の効率化と利便性向上をもたらす一方で、薬剤師による的確な判断、丁寧な説明、そして継続的な患者フォローの重要性を一層高めています。デジタル技術

が進展する中であっても、対面・非対面を問わず、薬剤師の専門性と信頼が医療の質を左右する重要な要素であることに変わりはありません。

沖縄においては、離島・僻地医療への対応、高齢化の進展、生活習慣病対策など、本県特有の課題を数多く抱えています。そのような環境の中で、地域に最も身近な医療専門職である薬剤師の皆様が、日常の服薬指導や健康相談を通じて県民の安心を支えてこられた意義は極めて大きいものがあります。医師や看護師、介護職をはじめとした多職種と連携する「顔の見える医療」への取組は、これからの沖縄の医療を支える大きな礎です。

薬は、正しく用いられてこそ命と健康を守る力となります。その安全性と有効性を確保しているのが、日々研鑽を積み、最新の医療知識を現場で実践されている薬剤師の皆様です。医療DXの進展、電子処方箋の普及、医薬品供給体制をめぐる課題など、業界を取り巻く環境が大きく変化する中であっても、皆様の専門職としての使命と責任は今後ますます重要性を増していくものと存じます。

結びに、本年が実り多き年となりますとともに、沖縄県薬剤師会のますますの発展、並びに会員の皆様のご活躍とご健勝を心より祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



ご挨拶

防衛副大臣 衆議院議員
宮崎 政久



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

前濱会長をはじめ、一般社団法人沖縄県薬剤師会の皆様には、日頃より県民の生命と健康を守る最前線において、昼夜を分かたぬご尽力を賜っておりますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、感染症対策、医薬品の安定供給、地域包括ケアの推進など、医療を取り巻く環境は依然として多くの課題を抱える一年でありました。そのような中であって、薬剤師の皆様が「かかりつけ薬剤師・薬局」として、調剤業務にとどまらず、服薬指導、在宅医療、医療安全の確保に至るまで幅広い役割を担われていることは、地域医療の根幹を支える大きな力であります。

とりわけ沖縄県は、離島・へき地医療という地理的特性に加え、台風や地震などの自然災害、さらには有事への備えという観点においても、平時からの医療体制整備が不可欠な地域であります。災害時や緊急事態において、医薬品の安定供給や適切な服薬支援を担う薬剤師の役割は極めて重要であり、皆様の専門性と現場力が県民の命を守る大きな支えとなっています。

私自身、防衛副大臣としての経験を通じ、災害派遣や有事対応の現場に携わる中で、医療・薬事体制の確保が国民の安心と直結する

ことを強く認識してまいりました。自衛隊による災害対応や医療支援が円滑に機能するためにも、地域医療を支える薬剤師の皆様との連携は不可欠であり、平時からの備えと顔の見える関係づくりが何より重要であると痛感しております。

国政におきましては、医療DXの推進、医薬品の安定供給体制の強化、医療従事者の働き方改革など、薬剤師の皆様と深く関わる政策課題が山積しております。今後とも現場の声に真摯に耳を傾け、災害や有事にも耐え得る、持続可能で強靱な医療提供体制の構築に全力で取り組んでまいりたい決意であります。

本年が、沖縄県薬剤師会のさらなるご発展と、前濱会長はじめ会員の皆様のご健勝、ご活躍の一年となりますこと、そして沖縄の医療がより一層充実し、県民が安心して暮らせる社会が築かれることを心より祈念申し上げます。

結びに、皆様の日頃のご労苦に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年1月吉日



新年のご挨拶

衆議院議員
島尻 安伊子



令和八年の新春を迎えるにあたり、一般社団法人沖縄県薬剤師会の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より、県内の保健・医療・福祉の最前線において、地域住民の健康を支える大切な役割を担っておられる薬剤師の皆さまの不断のご尽力に、心より敬意を表します。適切な服薬指導、医薬品管理、在宅医療での支援など、皆さまの専門性と使命感が、地域包括ケアの確かな土台を形成しており、県民に大きな安心をもたらしています。

また、近年の物価高騰やエネルギー価格の上昇、人材確保に伴う人件費の増加など、医療を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。薬局をはじめ、医療機関全体で避けがたいコスト増に直面する中で、日々の地域医療を守り抜いておられる皆さまのご苦勞に、心から敬意を表します。

こうした状況を受け、政府では総合経済対策に基づいた補正予算において、賃上げや物価上昇による負担を少しでも和らげるため、薬局への支援金交付など具体的な後押しを進めております。現場の皆さまが安心して本来の業務に向き合うことができるよう、国としてもできる限りの支援策を整えているところです。

私自身も国会の立場から、現場で寄せられる声を真摯に受け止め、新年度予算に向けて必要な財源確保に全力で取り組んでまいります。

皆さまが専門性を存分に発揮し、安心して働き続けられる環境を整えることは、県民の健康を守るうえで欠かすことができません。これからも業界の皆さまと歩調を合わせ、制度面・財政

面の双方から、持続可能な地域医療を力強く支えていく所存です。

全国的に課題となっている医薬品の供給不安についても、国として安定確保策の強化が求められております。医療現場の混乱を最小限にとどめるためには、迅速な情報共有や患者支援が欠かせず、引き続き制度整備に努めてまいります。

さらに、医療分野ではデジタル化が急速に進展し、電子処方箋やオンライン服薬指導、医療情報の連携など、ICTを活用した取り組みが本格化しています。これらの技術は地域医療の効率化や患者の利便性向上に資する一方で、安全な運用体制の整備が不可欠です。薬剤師の皆さまが安心して活用できる環境づくりに向け、国としても支援を続けてまいります。

観光立県である沖縄では、外国人観光客の増加に伴い、多文化・多言語対応や医薬品アクセス確保も重要な課題となっております。健康上の不安を抱える旅行者に対して、地域の薬局が大きな役割を果たしていることは、沖縄の魅力と信頼性の向上につながっているものと感じております。

薬剤師の皆さまは、地域住民の生活に寄り添いながら、災害対応、在宅医療、多職種連携、セルフメディケーションの推進など、幅広い分野でその専門性を発揮されています。これからますます重要な役割を担われる皆さまに、心からの敬意と期待を申し上げます。

結びに、沖縄県薬剤師会のさらなるご発展と、会員の皆さまのご健勝を心より祈念するとともに、本年も引き続き、県民の健康増進に向けて力を尽くしてまいります所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



年頭のご挨拶

衆議院東日本大震災復興及び原子力問題調査特別委員会委員長

衆議院議員

西銘 恒三郎



謹んで初春のお慶びを申し上げます。

沖縄県薬剤師会の皆さまにおかれまして、平素は格別のご支援ご理解を賜り厚く御礼申し上げますと共に、県民の医療向上と命と暮らしを守ってられましたことに敬意と感謝を申し上げます。

『創薬・先端医療』が戦略分野の中に盛り込まれるなど、昨年10月に誕生した高市政権へのご期待は大変に高いものがあり、日本の医薬品産業の国際競争力強化にむけ、沖縄県選出国會議員として積極的に務めてまいります。日本経済の牽引役と期待をされているここ沖縄県ですが、歴史・伝統・文化の豊かな離島が多いのが特色の一つです。離島などの医療体制は脆弱であり、円滑な薬剤提供を推進するため実効性ある取り組みを後押しすることは勿論の事、医師派遣の充実や勤務環境改善の為の更なる支援を講じてまいりますので、調剤業務・服薬指導等を通じて県民の健康管理に寄り添っていただく等、変わらぬご協力を宜しくお願い致します。沖縄県の特徴を活かし、医療の充実豊かな地域社会を形成する為にも、『国民の命と健康を支える国家のインフラである医薬品産業』を、国政の場より皆さま方としっかりと連携し、基幹産業として取り組んで参ります。

深刻な少子高齢化・人口減少社会を迎える中で、全世代型社会保障の構築に向けた取り組みは急務であり、医療提供体制や規制緩和の見直しも含め、地域包括ケアシステムを踏まえた地域の介護・医療・医薬品など、提供体制の更なる向上の為の取り組みを進めてい

く必要があります。魅力ある市場としての日本国の樹立により、国民が世界最先端医療を受けることができるような土壌の整備も必要です。あわせて、地域医療の一翼を担い、地域住民が健康について気軽に相談できる身近な存在としての『かかりつけ薬局・薬剤師』に係る取り組みを着実に進めていくことが重要であります。

地域の医薬品提供体制において、薬局や薬剤師への期待は今後益々大きくなるものと考えております。地域への医薬品提供を担う薬剤師の皆さまの知見を十二分に発揮いただく環境づくりに、国政の場において全力で取り組んでまいります。こうした取組には、皆さまのご支援ご協力が不可欠でございますので、今後ともより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

冒頭でも申し上げました離島の多い沖縄県。日本経済の牽引役と期待されているわが沖縄県でも、深刻な人口減少という「静かな有事」が予測されており、地域の活力、そして経済の活力が低下していく懸念があります。将来に向けた安心感を生む社会保障制度や医療体制の構築、魅力ある沖縄県へ、県民の皆様の安心安全を守るべく、初心を忘れず国会活動に取り組んでまいります。

結びに、本年100周年を迎える沖縄県薬剤師会の益々のご発展並びに、お一人おひとりのご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和八年新春



新年のご挨拶

沖縄県議会議員
自由民主党沖縄県支部連合会会長
島袋 大



新年あけましておめでとうございます。

沖縄県薬剤師会の皆様におかれましては、日頃より県民の健康と安心な医療体制の確保に多大なる御尽力を賜り、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が五類へ移行した後も、医療現場は依然として多くの課題を抱えています。医薬品の安定供給、物価・エネルギー価格の高騰、医療人材の確保など、薬剤師の皆様が直面する環境は一層厳しさを増しています。そのような中であっても、調剤業務にとどまらず、服薬指導、在宅医療、公衆衛生の最前線を担い、地域の「かかりつけ薬剤師」として県民の暮らしを支えてこられた皆様の献身的な取組に、改めて深く感謝申し上げます。

沖縄県は離島・へき地を多く抱える地理的特性から、医療提供体制の確保が常に大きな政策課題です。医師や看護師に加え、薬剤師の役割は年々拡大しており、多職種連携による地域包括ケアの中核として、欠かすことのできない存在となっています。高齢化の進展に伴い、在宅医療や服薬管理の重要性は、今後さらに高まっていくものと考えています。

こうした状況を踏まえると、県内における薬学部設置は、もはや将来の検討課題ではなく、先送りが許されない喫緊の課題であります。長年にわたり必要性が指摘されてきたにもかかわらず、具体的な道筋が示されないまま時間が経過している現状は、県民医療の持続性という観点からも、極めて重い問題です。

県外に進学した学生が、そのまま県外に定着してしまう状況は、薬剤師の慢性的な人材

不足や地域偏在を招く一因となっています。沖縄の医療・公衆衛生の現場を学び、地域への使命感を育んだ人材を県内で育成する体制を整えることは、医療体制の安定確保のみならず、災害対応や感染症対策の強化にも直結します。薬学部設置は、人材育成であると同時に、県民の命を守る基盤整備そのものであると考えています。

必要なのは、課題を先送りすることではなく、国・県・大学関係者、そして現場を担う薬剤師会の皆様が一体となり、実現に向けた具体的な議論と工程を示すことです。私は県議会の立場から、こうした議論が形になるよう、強い意思をもって取り組んでまいります。

あわせて、医薬品供給不安や原材料価格の高騰など、薬局経営を取り巻く課題についても、現場の声を丁寧に受け止め、制度が実態に即したものとなるよう、国や関係機関への働きかけを続けてまいります。専門職の皆様が安心して働き続けられる環境整備は、県民医療を守る上で欠かすことのできない要素です。

県議会においては、沖縄県薬剤師会の皆様との対話を大切にしながら、地域医療体制の強化、医療DXの推進、災害時の医薬品供給体制の充実など、現場に根ざした政策形成に全力で取り組んでまいります。

本年も、薬剤師会の皆様と行政・議会が力を合わせ、県民一人ひとりが安心して暮らせる医療環境の実現に向け、共に歩んでいきたいと考えております。皆様の御健勝と、沖縄県薬剤師会のさらなる御発展を心より祈念申し上げます。新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

沖縄県議会議員
新垣 淑豊



令和八年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

沖縄県薬剤師会の皆様におかれましては、日頃より県民の健康と医療の確保に多大なるご尽力を賜り、心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年は、台風や大雨などの自然災害への警戒対応が全国各地で求められ、沖縄県においても、強風や豪雨への備えが必要となる場面がありました。加えて、物価やエネルギー価格の高止まり、医薬品供給を巡る不安定な状況が続き、医療現場、とりわけ薬剤師の皆様には大きなご負担がかかる一年であったと受け止めております。

沖縄県は島嶼県であり、離島・へき地を多く抱えるという地理的特性から、平時のみならず災害時においても、地域ごとに医薬品と医療人材を確保する体制が不可欠です。その中で、薬剤師の皆様は、調剤業務にとどまらず、感染症対策、在宅医療、地域包括ケア、災害時の医薬品管理など、地域医療を支える中核的な役割を果たしておられます。

一方、沖縄県においては、薬剤師不足が構造的な課題として指摘されており、特に離島や中山間地域では、その影響が顕在化しつつあります。こうした課題に対して、県外からの人材確保に依存するだけでは、将来にわたり安定した医療提供体制を維持することは困難であります。県内で薬剤師を育成し、県内に定着してもらう仕組みの構築が不可欠であると考えています。

その基盤となるのが、国公立大学における薬学部設置と、体系的な人材育成の推進であります。国公立大学に薬学教育の拠点を設けることは、経済的事情に左右されずに学ぶ機会を確保するという観点からも重要であり、県内の優秀な若者が地元で進学し、将来にわたり地域医療を支える道を選択しやすくなります。また、教育・研究・医療現場が連携することで、医療の質の向上に加え、医療関連分野における新たな知見や産業の芽を育てる可能性も広がります。

人材育成は短期的な成果が見えにくい分野ではありますが、将来にわたり県民の命と暮らしを守るためには、避けて通ることのできない重要な投資であります。現場を熟知する薬剤師会の皆様の知見と経験は、こうした取り組みを具体化する上で、何よりも重要な指針となります。

沖縄県議会におきましても、医療現場の実情を踏まえ、薬剤師の皆様の声을丁寧を受け止めながら、医療人材の育成と持続可能な地域医療体制の構築に向け、実効性ある政策の実現に取り組んでまいります。今後とも、沖縄県薬剤師会の皆様と連携を深め、ともに沖縄の医療の将来を支えていく所存です。

結びに、本年が沖縄県薬剤師会の皆様にとりまして、健康で実り多い一年となりますことを心より祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。

令和八年元旦

新年賀謹

昨年はい運営にご理解ご協力を賜わりお礼申し上げます。
皆様のご健康とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

社一般
団法人

沖縄県薬剤師会

| | | |
|-----------------|-------|-------|
| 名誉会員 | 新垣正次 | 長田紀昭 |
| 相談役 | 神村武之 | 亀谷浩昌 |
| 監事 | 松山朝雄 | 山里勇 |
| 会長 | 江夏京子 | |
| 副会長 | 前濱朋子 | 川満直紀 |
| 専務理事 | 中村克徳 | |
| 常務理事 | 古謝玄太 | 宮城幸枝 |
| | 阿部義則 | 知名博樹 |
| | 佐藤雅美 | |
| | 姫野耕一 | |
| | 喜友名朝史 | |
| 理事 | 浅沼健一 | 喜屋武芳美 |
| | 名嘉紀勝 | 盛本直也 |
| | 幸地良信 | 古謝真己 |
| | 鈴木玲子 | 村田美智子 |
| | 吉田典子 | 知念大輔 |
| | 白坂亮 | |
| 会管薬局 医療センター前 | 宮里威一郎 | |
| と管薬局 | 吉田典子 | |
| 薬事情報 センター | 小泉宝之 | |
| 試験検査 センター | 大城喜仁 | |
| 事務局 | 他職員一同 | |

沖縄県薬剤師連盟
 沖縄県神谷まさゆき後援会
 沖縄県本田あきこ後援会
 会長 前濱朋子
 幹事長 石川恵市
 他役員一同



令和7年度 薬事功労受賞者



ご出席の令和7年度受賞者の皆様
右上：受賞者代表あいさつを務めた村田美智子氏

去る令和8年1月18日にダブルツリー by ヒルトン那覇首里城において、沖縄県薬業連合会主催の令和7年度薬事功労受賞者合同祝賀会が開催された。

式典は、本会の宮城敦子広報委員会委員長の司会進行のもと、宮城幸枝常務理事、喜屋武芳美理事による「かぎやで風」の舞で厳かに幕を開け、地謡は青年薬剤師部会の石井秀典副部長が務めた。司会による歌詞を引用した紹介もあり、会場は晴れやかな雰囲気に入れ、式典が進行した。

開会にあたり、沖縄県薬業連合会の親泊康行理事が挨拶を述べ、続いて前濱朋子会長が

主催者挨拶に立った。前濱会長は新年の挨拶とともに、本会が創立100周年という大きな節目を迎えることに触れ、薬業関係団体が連携し、「健康長寿・沖縄」の実現や県内における薬学部創設に向けて取り組む重要性を強調し、「次の100年、そして沖縄の未来に向け、力を合わせて歩んでいきたい」と挨拶した。

来賓祝辞では、玉城デニー沖縄県知事に代わり、沖縄県保健医療介護部の比嘉奈緒子保健衛生統括監から祝辞が代読されたほか、沖縄県医師会の田名毅会長からも祝辞が述べられた。

受賞者紹介では、会場から一人ひとりに温

合同祝賀会開催

会次第

会期 令和8年1月18日(日) 正午～14時

会場 ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城 首里の間

司会 沖縄県薬剤師会 広報委員会委員長
宮城 敦子

幕開け かぎやで風

開会のことば 沖縄県薬業連合会理事
親泊 康行
(沖縄県医薬品登録販売者協会会長)

主催者あいさつ 沖縄県薬業連合会会長
前濱 朋子
(沖縄県薬剤師会会長)

来賓あいさつ 沖縄県知事 玉城デニー
(代読 沖縄県保健医療介護部 保健衛生統括監 比嘉奈緒子)
沖縄県医師会会長 田名 毅

受賞者登壇・紹介

受賞者代表挨拶 村田美智子
乾杯 沖縄県薬業連合会副会長 比嘉 勝也
(沖縄県医薬品配置協議会会長)

余興 アコースティックギター演奏と歌 石井 灯
閉会のことば 沖縄県薬業連合会理事 山崎 誠一

かい拍手が送られ、受賞者を代表して、薬事功労者厚生労働大臣表彰を受賞した本会の村田美智子理事が受賞の喜びとともに、日頃支えてくれた関係者への感謝の言葉を述べた。

続いて、國場幸之助衆議院議員、宮崎政久衆議院議員、西銘恒三郎衆議院議員から挨拶があり、島尻安伊子衆議院議員からの祝電も紹介された。石井灯さんによるオリジナル楽曲を含むアコースティックギター演奏と歌の余興で、会場は和やかな雰囲気にもまれ、最後に沖縄県薬業連合会の山崎誠一理事による閉会のことばをもって、盛会のうちに終了した。
(文:事務局 川平 真央)

◆◆◆受賞者◆◆◆

薬事功労者厚生労働大臣表彰

村田 美智子

沖縄県薬事功労者知事表彰

幸地 良信 諸見 牧子

九州山口薬学大会表彰

狩俣 イソ

沖縄県薬剤師会会長表彰

新城 光雄 石川 恵市 浦崎 清子

高木 英子 新嵩 由香 盛本 直也

野崎 真敏(故人)

日本薬剤師会有功賞

大井 雅江 川満 建英 仲井間 清

中原 慶子 仲村 喜久子 平安山 春江

宮城 正明

新城 光枝(故人) 野崎 真敏(故人)

沖縄県薬剤師会貢献賞

石原 英子 金城 可代子 具志堅 優子

玉城 幸輝 玉城 克治

公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰

村上市子

学校保健功労者文部科学大臣表彰

我喜屋 美香

沖縄県学校保健会表彰

新垣 慶朗 糸嶺 達 奥間 美智子

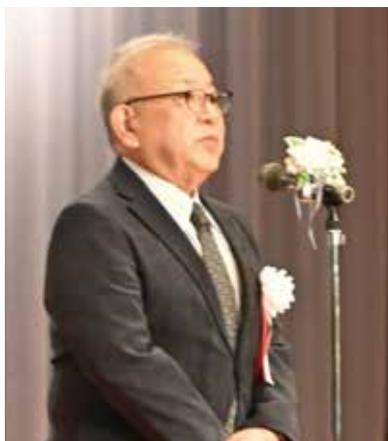
沖縄県公衆衛生大会長表彰

長嶺 文子

日本公衆衛生事業功労者表彰

幸地 良信

祝賀会スナップ写真



開会のことば
沖縄県薬業連合会
親泊康行理事



主催者挨拶
沖縄県薬業連合会
前濱朋子会長



来賓挨拶
沖縄県保健医療介護部
比嘉奈緒子保健衛生統括監



来賓挨拶
沖縄県医師会
田名教会長



来賓挨拶
國場幸之助
衆議院議員



来賓挨拶
宮崎政久
衆議院議員



来賓挨拶
西銘恒三郎
衆議院議員



来賓挨拶
那覇市
古謝玄太副市長



乾杯
沖縄県薬業連合会
比嘉勝也副会長



閉会のことば
沖縄県薬業連合会
山崎誠一理事



司会
広報委員会
宮城敦子委員長



幕開け『かぎやで風』
宮城幸枝常務理事・喜屋武芳美理事



地謡
青年薬剤師部会
石井秀典副部会長



余興
アコースティックギター演奏と歌
石井灯さん



令和7年度受賞者プロフィール

〔薬事功労者厚生労働大臣表彰〕

村田 美智子 氏

沖縄県薬剤師会の女性薬剤師会員をもって組織する沖縄県薬剤師会女性薬剤師部会に平成11年から長年に亘って活動に関わり、日本女性薬剤師会薬剤師継続学習通信教育講座の幹旋に尽力した。平成20年に同部会の部会長に就任すると、漢方講座や妊娠・授乳と薬の基礎講座の開催、浦添市乳幼児一般健康診査において薬の相談会を実施するなど、女性薬剤師の資質向上・地位向上に大いに貢献している。これに加え、沖縄県薬剤師会の敷地内にミニ薬草園を開設して沖縄の身近な薬草に関する資料を収集するとともに、沖縄県薬剤師会発行の会報誌「おきなわ薬剤師会報」に連載し、会員へ薬草学の知識向上を図った。

平成23年に沖縄県薬剤師会理事に就任すると同時に、保健福祉委員会にて主に自殺予防対策関連を担当し、ゲートキーパー薬剤師養成研修の実施や普及啓発に力を注いだ。他にも、学術研修委員会委員も歴任し、業務に対する誠実さと責任感の強さは会員からも絶対的な信頼と評価を得ており、事業の活性化に大いに貢献した。令和3年6月からは、会長を補佐する副会長に就任し、会の発展と会員の資質向上に尽力した。

沖縄県においては、薬事審議会や自殺対策連絡協議会の委員に委嘱され、特に、保健福祉分野における薬剤師会の代表として、沖縄県の施策、運営に貢献している。

一般用医薬品販売店や保険薬局、病院等、多岐の分野に勤務し、医薬品の適正・安全な使用助言・情報提供を行い、地域住民の健康増進に尽力してきた。さらに現在、管理薬剤師として勤務する保険薬局は令和3年に健康サポート薬局に認定され、地域の保健医療、福祉の向上、医薬品提供体制にも寄与している。

また、平成19年に学校薬剤師に委嘱され、専門的な立場から学校保健、学校環境衛生の改善・指導助言を行い、児童らの健康増進に寄与している。



令和7年度受賞者プロフィール

〔沖縄県薬事功労者知事表彰〕

幸地 良信氏

平成元年に幸地薬局を開局して以来、地域住民へ医薬品の供給、健康情報の提供に努めている。

平成7年4月に八重山地区薬剤師会理事に就任し、同年12月の沖縄県立八重山病院の院外処方箋発行にあたっては、八重山地区薬剤師会の運営実行委員の一人として県、市への要望、医薬品情報の収集、県立病院との折衝、地域住民への啓蒙活動など、八重山地区の医薬分業開始、その後の推進に大きく貢献した。平成15年5月に八重山地区代表の沖縄県薬剤師会理事に就任し、各種委員会の委員に委嘱されると、各委員会が企画・運営する沖縄県薬剤師会主催の研修会や講演会、学術大会等が多く開催されているにもかかわらず、八重山地区や宮古地区の離島の会員の多くが参加できていないことを改めて痛感し、沖縄県薬剤師会理事会にて特に重要な研修会等を同地区において開催することを提案し、開催を実現させ、同地区会員への生涯学習の進展に貢献した。沖縄県薬剤師会理事として八重山地区薬剤師会との架け橋的役割や、八重山地区におけるこれまでの実績により、平成17年4月に八重山地区薬剤師会会長に就任。沖縄県薬剤師会学術大会に代わる「第1回宮古地区・八重山地区合同学術大会」を石垣市内で開催した。同大会には両地区会員の発表・参加の他、沖縄県薬剤師会役員も参加、特別講演には日本薬剤師会役員を招聘した。現在も八重山地区代表の沖縄県薬剤師会理事を務め、組織の運営発展に大きく貢献している。

また、平成20年度から長きに亘り石垣島の小・中学校および幼稚園の複数校の学校薬剤師として保健・環境衛生等の公衆衛生部門でも貢献している。平成30年には沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会八重山地区支部長に就任している。



令和7年度受賞者プロフィール

〔沖縄県薬事功労者知事表彰〕

諸見 牧子氏

琉球大学医学部附属病院（現：琉球大学病院 以下、同病院。）で初めて処方オーダーリングシステムを導入する際に、用法マスタの構築、登録等を担当。注射オーダーリングシステムを導入する際には、他病院を視察し参考にしながら、同病院のシステムを構築。注射オーダーリングシステムでのセット処方を作成し、医師の入力支援を行った。自施設の医薬品安全管理専門委員会の事務局として、医薬品安全使用の手順書の作成（禁忌薬や医薬品の適応外使用などの院内の捉え方）に携わり、リスクマネージャーとして医療安全に関連した情報の収集、周知等を行っている。特別管理産業廃棄物管理責任者も担っている。HIV 分科会世話役として勉強会の企画・運営を行い、資格取得に必要な年間研修単位の確保に尽力した。HIV 血液曝露後感染予防対策について県内病院等へアンケート調査を実施し、曝露後予防内服薬の必要性を把握、沖縄県の予防薬整備事業の支援に関与した。同病院内の HIV 診療チームに参加し、患者への服薬指導、チームへの医薬品に関する情報提供、地域薬局との連携を支援した。

沖縄県病院薬剤師会においては、理事として事務局会計業務を担っている。薬学生実務実習委員会の一員として、実習生と施設とのマッチング業務、合同発表会開催の企画・運営に参画し、実務実習指導薬剤師として同病院の受託実習生の指導を担当した。

また、琉球大学教育学部附属小学校・中学校の学校薬剤師としても活動し、学校環境衛生の指導助言とともに、公衆衛生的見地から児童らの健康増進に貢献している。



令和7年度受賞者プロフィール

〔公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰〕

村上 市子 氏

平成15年4月に国頭村立楚洲小学校、安田小学校、安波小学校の学校薬剤師に委嘱され、以来、複数校の学校薬剤師として、現在も学校長及び養護教諭と連携し、積極的に学校保健・学校環境衛生等に関する指導助言を行っている。薬の専門的立場から「薬の正しい使い方」や「薬物乱用防止に関する講話」等を実施し、学校保健、学校環境衛生の発展に寄与している。学校保健委員会を通して、学校環境衛生（特に日常点検）の重要性を説き、公衆衛生的見地から指導助言し、学校保健の発展に寄与している。

平成30年から現在に至るまで、沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会北部支部長に就き、組織の強化、会員の資質向上を図り、北部地域の遠隔地・へき地の学校保健の発展にも寄与している。

〔学校保健功労者文部科学大臣表彰〕

我喜屋 美香 氏

平成6年4月に中城村立中城小学校、津波小学校の学校薬剤師に委嘱され、以来、複数の小学校および幼稚園を担当。平成8年4月からは沖縄県立西原高等学校の学校薬剤師にも委嘱された。学校薬剤師として専門的な立場から学校環境衛生検査を通して学校長及び養護教諭との連携を密にし、学校環境衛生の改善、健康教育等に関する指導助言、資料提供等を行い、学校保健活動の向上に貢献した。

また、学校保健委員会を通して学校環境衛生の重要性を説き、特に日常検査が大切であることを指導助言し、学校保健の発展に寄与した。



薬と健康の週間

令和7年度薬と健康の週間 くすりと健康フェア

日時：令和7年10月19日（日）12：30～16：00

会場：浦添市産業振興センター結の街

<プログラム>

○主催者挨拶

沖縄県保健医療介護部 保健衛生統括監
一般社団法人沖縄県薬剤師会
浦添市福祉健康部

司会：又 吉 智賀子
比 嘉 奈緒子
会 長 前 濱 朋 子
部 長 宮 城 智 枝 子

○表彰式

○開会アトラクション

浦添市立港川中学校吹奏楽部

○県民公開講演会

基調講演

「かかりつけ薬剤師・かかりつけ薬局とは？」

講師：沖縄県薬剤師会青年薬剤師部会 副部長 石 井 秀 典

特別講演

「沖縄県の皆様に寄り添ったくすりと健康のお話-ワクワクの人生をデザインしよう!!-」

講師：那覇西クリニック理事長 玉 城 研 太 朗

○健康とおくすり相談会、薬剤師になろう！こども調剤体験、現役の薬剤師による進路相談ブース、浦添市による健康づくりブース

毎年、厚生労働省より、「薬と健康の週間」（10月17日～23日）の実施要綱が各都道府県並びに日本薬剤師会をはじめとする関係機関に通達され、沖縄県並びに本会をはじめとする関係機関では、当該期間中に様々なイベントを実施している。同週間は、医薬品及び薬剤師等の役割に関する正しい認識を広く国民に浸透させることにより、国民の保健衛生の維持向上に寄与することを目的としている。

10月19日に開催された、くすりと健康フェアについて報告する。最初に開会セレモニーが行われ、主催の沖縄県保健医療介護部 比嘉奈緒子保健衛生統括監、沖縄県薬剤師会前濱朋子会長、浦添市福祉健康部宮城智枝子部長のあいさつにより開始された。

その後、表彰式が執り行われ、沖縄県薬事功労者知事表彰の諸見牧子氏、幸地良信氏（代理：前濱会長）に比嘉保健衛生統括監より表彰状と記念品が授与され、沖縄県薬剤師会会長表彰

保健福祉委員会
委員長 松本 圭五



の高木英子氏、新嵩由香氏、盛本直也氏に前濱会長より表彰状と記念品が授与された。

表彰式の終了後には、浦添市立港川中学校吹奏楽部による開会アトラクションが行われた。

開会アトラクション終了後には、県民公開講演会が行われ、基調講演を青年薬剤師部会の石井秀典副部長が「かかりつけ薬剤師・かかりつけ薬局とは？」と題して行い、特別講演は沖縄県医師会常任理事で、那覇西クリニック理事長の玉城研太郎先生に「沖縄県の皆様に寄り添ったくすりと健康のお話-ワクワクの人生をデザインしよう!!-」と題してご講演いただいた。



開会アトラクション
浦添市立港川中学校吹奏楽部



基調講演



講師
青年薬剤師部会
石井秀典副部会長



特別講演



講師
那覇西クリニック
玉城研太郎理事長



骨密度測定



味覚チェック



実験コーナー



2ステップテスト



こども調剤体験



薬剤師による進路相談

薬剤師になろう！子ども調剤体験

10月19日（日）、浦添市産業振興センター結の街で開催された「くすりと健康フェア」において、子ども調剤体験コーナーを担当させていただきました。

私はくすりと健康フェアへの参加は初めてでしたが、普段薬を服用している方だけではなく、医療機関を受診していない方にも薬剤師の仕事内容やくすりについて知ってもらえる貴重な機会と考え、参加を希望しました。

子ども調剤体験コーナーでは、お子様用白衣を着て薬剤師になりきってもらい、薬と飲み物との相互作用や、一包化などを実際に目で見て、触れて、体験してもらいました。薬と飲み物との相互作用については、インクレミンシロップと緑茶を実際に混合し、色の変化をお子様自身の目で見て確認してもらいました。一包化については、錠剤に見立てたカラーコーティングチョコレートと模擬処方箋を用いて薬の鑑査を行い、実際に分包機を使って体験してもらいました。そして、最後には子ども薬剤師が患者に扮した両親を相手に投薬、説明を行い、体験は終了になります。子どもたちは真剣な眼差しで、模擬処方

吉原東洋薬局宮城店
佐合 ひかる



箋を見ながらカラーコーティングチョコレートの色と数に間違いがないか鑑査し、目をキラキラと輝かせながら、普段目にするのではない分包機を使って楽しそうに体験していました。体験している子どもたちの反応を見ると、私たち薬剤師が思っている以上に薬剤師の仕事やくすりに興味を持ってきているんだなと感じました。

今回の子ども調剤体験のように、薬剤師の仕事やくすりに興味を持ってもらうことは、将来的には自分の健康について興味を持つきっかけにもなると思います。今回子ども調剤体験コーナーを担当させていただいて、今後も日頃から、未来ある子どもたちに薬剤師やくすりに興味をもってもらえるように努めていきたいと感じました。

最後に、当日ご一緒頂いた先生方、薬剤師会のスタッフの皆様、他ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

転載記事

令和7年10月22日（水）掲載

■薬剤師の役割紹介「くすりと健康フェア」 医薬品の正しい使用の大切さや薬剤師の役割を紹介する「くすりと健康フェア」が19日、浦添市勢理客の市産業振興センター結の街で開かれた。

17～23日の「薬と健康の週間」に合わせて県と県薬剤師会が主催した。那覇西クリニックの玉城研太郎理事長が講演し、健康診断と服薬の大切さを語った。



薬や健康に関するブースも設けられ「薬剤師になろう！ 子ども調剤体験」は親子連れでにぎわった＝写真。貧血治療剤をお茶に溶

かすと黒く変色する実験を通し、薬を水で飲む大切さを学んだ。処方箋に従って薬を袋に分けて包み、薬の説明をする体験を終えると、「調剤マイスター」の証書もらえる。与那原東小4年の玉城孝泰（たかひろ）さんは「薬剤師の気持ちになれて楽しかった」とはにかんだ。子育て世代に健康にも関心をもってもらおうと、「健康とおくすり相談会」も開かれた。

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

健康とおくすり相談会

令和7年度薬と健康の週間のイベントで開催された「くすりと健康フェア」において、浦添市による健康づくりブースを担当しました。

健康づくりブースでは、血圧測定、握力測定、味覚チェック、ロコモ度（ロコモティブシンドローム）を測る2ステップテスト（2歩幅を身長で割った数値を評価するもの）、そして保健師・管理栄養士による健康相談を実施しました。また、普及啓発として高血圧に関するパネルも展示しました。当日は、来場者に対して各種測定を行い、最後の相談コーナーで、結果の説明や生活習慣に関する相談を受けるといった流れでした。

2ステップテストや握力測定では、体力測定のようにご自身の限界を試そうとする方が多く、会場は笑顔と笑い声で盛り上がりました。また、こども調剤体験を終えた親子連れの方も多く立ち寄ってくださり、本来は子ども向けの測定ではないのですが、お友達やきょうだい同士で記録を競い合うなど、楽しく健

康に触れていただけたように感じました。

健康相談では、「普段食事に気を付けているけれど体重がなかなか減らない。自分のやり方が正しいのか知りたい。」という健康意識の高い方からの相談もありました。その方には、野菜の摂取量が十分でないことや活動量の少なさをお伝えし、改善のポイントを一緒に考えました。「やっぱり専門の方に聞くのは大事ですね。背中を押された気がして頑張ります。」と前向きな言葉をいただき、正しい知識の普及と日常生活への実践支援の大切さを改めて実感しました。

今回のフェアを通じて、地域の方々が測定や相談を通してご自身の体調と向き合う姿が印象的でした。このような機会が、健康づくりを楽しみながら続けるきっかけとなり、今後の地域全体の健康意識の向上につながれば嬉しく思います。

（報告：浦添市健康づくり課 金城 明日見）

令和7年度「薬と健康の週間」行事表

| 月 日 | 行事名 | 場所 | 実施団体 |
|----------|---------------------------------|-------------------|------------------------------|
| 10/1～31日 | 薬と健康の週間CM放映 | 琉球放送の番組内 | 沖縄県薬剤師会 |
| 10/17(金) | 認可外保育園衛生用品寄贈式 | 沖縄県こども未来部 部長室 | 沖縄県医薬品卸業協会 |
| 10/18(土) | 「薬と健康の週間及び麻薬・覚醒剤乱用防止運動」街頭キャンペーン | イオン名護店前 | 北部地区薬剤師会、沖縄県薬物乱用防止協会北部支部、沖縄県 |
| 10/18(土) | 「薬と健康の週間」街頭キャンペーン | サンエー石垣シティ | 八重山地区薬剤師会、沖縄県 |
| 10/18(土) | 一般用医薬品に関する普及啓発該当イベント | てんぶす那覇ポケットパーク(予定) | 沖縄県医薬品登録販売者協会 |
| 10/19(日) | くすりと健康フェア 県民公開講演会 | 浦添市産業振興センター結の街 | 沖縄県薬剤師会、沖縄県 |
| | くすりと健康フェア こども調剤体験 | 浦添市産業振興センター結の街 | 沖縄県薬剤師会、沖縄県 |
| | くすりと健康フェア 健康とおくすり相談会 | 浦添市産業振興センター結の街 | 沖縄県薬剤師会、沖縄県、浦添市 |
| | くすりと健康フェア 薬剤師職能紹介・進路相談 | 浦添市産業振興センター結の街 | 沖縄県薬剤師会、沖縄県 |
| | くすりと健康フェア パネル展示 | 浦添市産業振興センター結の街 | 沖縄県薬剤師会、沖縄県、浦添市 |
| | 沖縄県薬剤師会会長表彰 | 浦添市産業振興センター結の街 | 沖縄県薬剤師会 |
| | 薬事功労者表彰式・伝達式 | 浦添市産業振興センター結の街 | 沖縄県 |
| 10/19(日) | 「薬と健康の週間」街頭キャンペーン | サンエー宮古島シティ | 宮古地区薬剤師会、沖縄県 |
| 10/20(月) | 薬祖祭 | 波上宮本殿 | 沖縄県薬業連合会、沖縄県 |
| 10/20(月) | 登録販売者外部研修会 | 沖縄県薬剤師会館 | 沖縄県医薬品登録販売者協会 |

薬と健康の週間

薬 祖 祭



「薬と健康の週間」行事は、毎年、波上宮本殿で、朝10時からの『薬祖祭』を皮切りに行われる。宮司の祝詞の中に、薬祖神である少彦名命（スクナヒコナノミコト）に薬の取り扱いに間違いがないよう病める人の苦しみの癒えんことを奏上して、沖縄県薬業連合会（沖縄県薬剤師会、沖縄県卸業協会、沖縄県登録販売者協会、沖縄県医薬品配置協議会）、沖縄県、那覇市に言上されている。

当会の第六・八・十一代会長であった故仲松弥元氏は、昭和37年に製薬会社が軒を並べる大阪市道修町の少彦名神社より御分霊「神

農（中国医薬の守護神）」を勧請して、那覇市波上宮に依頼して奉祀された。祭神は日本の医薬の神として敬われてきた少彦名命と大国主命（オオクニヌシノミコト）。祭日は土地ごとに違っていたが、近年、10月17日に統一され、薬剤師会や薬業界が祭主となって催している。

今年の薬祖祭は、10月20日午前10時から波上宮本殿にて、沖縄県薬業連合会と沖縄県で厳修された。（文：事務局 大城 喜仁）

参拝者には、病除祈願の張り子の虎を笹に結びつけたお守りが配られる。この風習は、日本で初めてコレラが大流行した年に道修町の医薬商が相議り、疫病除卸薬「虎頭殺鬼雄黄圓（虎の頭骨を配合した丸薬）」を作り、神前で祈祷して庶民に無料で施し、虎と竹を組み合わせたお守りと共に配った。当時、コレラを「虎列刺」と書き、その猛威と怖さを誇示していたので、薬に“虎を殺す鬼”と名づけられた。



薬と健康の週間

広報活動

「薬と健康の週間」は、医薬品および薬剤師等の役割について正しい認識を広く国民に浸透させ、国民の保健衛生の維持・向上に寄与することを目的として実施されています。

本会では、本年度もテレビコマーシャル（TV CM）や新聞広告の掲載など、各種広報活動を行いました。テレビコマーシャルについては、平成25年に本会と琉球放送（RBC）が企画・制作した「薬局・薬店における対面販売強化」をテーマとした県民向け広報CMを、本会ホームページに掲載し、放送期間以外においても県民の皆様にご覧いただいております。

このほか、沖縄タイムス紙および琉球新報紙への広告掲載をはじめ、知念大輔理事と喜屋武芳美理事が論壇コーナーへの寄稿、さらにラジオ番組への出演を通じて、各理事、保健福祉委員による「くすりと健康フェア」のPR活動を実施しました。

会員薬局の皆様には、ポスターの掲示や啓発チラシの配布など、広報活動にご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
（文：事務局 川平真央）



FM沖縄「FINE!」にて広報
古謝副会長・松本圭五保健福祉委員会委員長



FM沖縄「人間大好きリレージョッキー」
喜屋武理事・村田理事が広報



琉球新報社と沖縄タイムス社へ広報
米村氏（沖縄県薬務生活衛生課）・阿部専務理事

テレビCM放送

広報放送テレビ局：琉球放送（RBC 3チャンネル）

放送期間：令和7年10月1日（水）～10月31日（金）

*土日を除く平日の月曜日～金曜日

放送時間：「Nスタ」番組内（午後4時50分～午後5時50分）

キャプション：10月1日～23日

「10月17日～23日は薬と健康の週間です。

お薬についてのお問い合わせはお近くの薬局・薬剤師へ」

10月24日以降

「薬剤師が、県民の皆様の健康をサポートします。

お薬については、お近くの薬局・薬剤師へお問い合わせ下さい。

『決めよう!探そう!かかりつけ薬剤師を』～もっと身近に、ずっとそばに～



薬と健康の週間

琉球新報 令和7年10月16日(木) 掲載

転載記事

近年、「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」という言葉が以前にも増して社会に浸透してきたように感じられる。超高齢社会を迎えた日本において、地域住民の健康を支える存在として、その重要性が再認識されている証であろう。

県民の健康のために求められる「かかりつけ薬局・薬剤師」は、単に薬の知識や情報を提供するだけではない。地域住民から「あそここの薬局に行けば、何でも話せる」「あの薬剤師さんに会うと、元気をもらえる」と頼られ、親しみやすい存在であることが理想である。

そのような薬局を親しみを込めて仮にゆんたく(おしゃべり)できる薬局としよう。ゆんたくと聞くと、やや軽い印象を



喜屋武 芳美

論壇

受けるが、大切にしたいのは患者との何気ない会話の中にこそ、健康を支えるヒントが隠されているという点である。日々の患者との何気ないゆんたくから、生活習慣や隠れた悩みに気づき、きめ細かなサポートにつながる。悩み事は一人で抱え込んでいく幅広い知識をもって、患者

地域住民の健康支える薬剤師

「かかりつけ薬局」を持つとう

ると、増幅する傾向がある。誰かに話すことで、気持ちが楽になったり、解決の糸口が見つかったりすることも期待できる。だからこそ、薬局が地域住民にとっての「駆け込み寺」のような存在となることを願う。体調が優れない時はもちろん、誰かに話を聞いてほしい時、ささいな悩み事がある時など、薬局をいつでも気軽に立ち寄れる場所としてほしい。

ぜひ、県民の皆さまには信頼できるかかりつけ薬局・薬剤師を見つけていただきたい。そして、気軽に相談し、積極的なコミュニケーションにより、健康で豊かな生活を送っていただきたいと願うものである。毎年10月17日から23日の1週間は「薬と健康の週間」である。これに合わせて19日(日)に浦添市産業振興センター結の街において「くすりと健康フェア」を開催する。フェアでは県民公開講演会のほか、薬剤師と直接話せる「健康とおくすり相談会」、楽しみながら薬剤師の仕事を学べる「こども調剤体験」なども実施予定である。薬や健康について気軽に学び、薬剤師に親しむことができる機会として、ぜひ足を運んでいただきたい。(沖縄市、県薬剤師会理事、56歳)

論壇

地域医療進展へ活用必要

かかりつけ薬剤師を十分に活用していないことが地域医療の進展、ひいては医療費問題の解決を遅らせていると感じる。医師から処方された薬はこの薬局でも受け取ることができ、患者自身が薬局を自由に選択できる仕組みが整ってきている半面、重複して処方された薬の管理はおろそかになってはいないだろうか。



知念大輔

かかりつけの薬剤師

問題を実感する。かかりつけ薬剤師なら複数の医療機関からの薬を一元的に管理し、市販薬や健康食品との飲み合わせも確認しながら、安全かつ効果的な薬物治療を後押しする。これは単なる調剤業務ではなく、薬剤師としての薬学知識と患者理解を融合させる高度な職能を必要とする。

高齢者や慢性疾患を抱える患者だけでなく、患者を支える家族にとっても、安心安全な薬物治療は不可欠だ。とりわけ、医師と薬剤師の連携は、治療の最適化と副作用の予防に寄与するだろう。さらに、薬剤師がかかりつけ薬剤師だと、薬の飲み合わせに伴う急な体調変化や、市

販薬について不安な時に、夜間や休日も含めたサポートが受けられる。いざという時や困った時に、電話等で相談ができるかかりつけ薬剤師を持つことは、患者やその家族の心よりどころにもなるはずだ。

さて、かかりつけ薬剤師を選ぶ際には、実際のコミュニケーションを通じて信頼できる薬剤師を指名し、その後は継続的に関わっていただきたい。かかりつけ薬剤師は患者の生活背景まで深く関わってこそ、的確な助言と薬の管理ができ、心の支えにもなるからだ。これは患者との信頼関係の構築を通じて初めて実現するものであり、かかりつけ薬剤師の人間性とコミュニケーション

ーシヨン力が問われる領域でもある。

さらに、かかりつけ薬剤師は生活習慣の改善やセルフメディケーションの支援、介護者への助言など生活の質（QOL）向上にも貢献でき、患者の治療後の生活にも関わる「人生の伴走者」にもなれるのだ。また地域包括ケアシステムの一員として医療・福祉・介護の分野で連携し、患者と社会をつなげる役割も担う。

ここまで私なりの見解をつづってきたが、今後も患者の健康を見守り応援する者として、患者の心の声にも寄り添い続けたい。かかりつけ薬剤師が真に地域医療を担う構成員として機能する未来を目指して、今後も啓発と実践に努めていきたい。
（南風原町、沖縄県薬剤師会理事、49歳）

告知チラシ

薬と健康の週間 10/17(金)▶23(木) ❀・❀❀❀・❀❀❀

くすりと健康フェア《心身ともに健康》

県民公開講演会

令和7年

10月19日(日)

入場無料

12:30～14:00

浦添市産業振興センター 結の街
(3階 大研修室) (浦添市勢理客4-13-1)

演題 沖縄県の皆様に寄り添った
くすりと健康のお話
ーワクワクの人生をデザインしよう!!ー

講師 那覇西クリニック 理事長
玉城 研太郎

【講師紹介】

沖縄県医師会前任理事。2003年に徳州大学医学部を卒業。2009年に東北大学大学院医学部薬理学専攻科薬理学専攻を修了し、医学博士号を取得。卒業後は、東北大学病院で勤務し、2011年に那覇西クリニック乳癌科に転任され、13歳に病じた乳がん診療に従事。2015年には米国スタンフォード大学に留学し、先進的ながん診療・研究に関わる。2022年からは、那覇西クリニックの理事長に就任。また、2023年には一般社団法人「NNC Research Center」を設立し、創薬や医療機器開発、企業との臨床研究連携など医療の発展にも積極的に取り組んでいる。
著書「夢と希望に満ち溢れた沖縄県の未来を創る、というお話」



◎日時/令和7年10月19日(日) 14:00～16:00 (受付12:00～)

◎場所/浦添市産業振興センター・結の街
3階 小・中研修室

薬剤師になろう!こども調剤体験

◎対象年齢/小学生から高校生まで

現役の薬剤師による進路相談ブース

◎対象年齢/薬剤師に興味がある児童・学生等

★現役で働いている薬剤師が、どのような勉強をしたらいいのかなど何でも相談に乗ります!

健康とおくすり相談会

◎測定内容/血圧測定、血管年齢測定、
骨密度測定、体成分測定

浦添市による健康づくりブース

◎パネル展示/握力測定/味覚チェックなど



❀❀❀❀❀❀

パソコンや
スマートフォンで
動画をご視聴
いただけます▶



- ◎薬の正しい使い方について
- ◎違法薬物の害について
- ◎知らなきゃ損する「薬局の活用法」について
- ◎地域連携薬局について
- ◎感染症予防における正しい手の洗い方や消毒方法について



沖縄県薬剤師会 薬と健康の週間

オンラインで
ご視聴頂けます!

主催: 沖縄県・沖縄県薬剤師会

共催: 浦添市 沖縄県薬剤師会事務局
後援: 那覇市 ☎098-963-8930

沖縄県薬剤師会
会営業局

医療センター前
浦添市勢理客4-13-1

とよみ
浦添市勢理客4-13-1



日本薬剤師会
岩月 進 会長

1978年、名城大薬学部卒業。堀野製薬に入社。81年、愛知県刈谷市に「コンケン」薬局開設。2004～10年、20～24年に日本薬剤師会常務理事を務め、24年6月、第26代会長に就任。



フリーアナウンサー
平井 理央 さん

2006年、原簿製薬大法学部卒業後、フジテレビに入社。「平井理央」のキャスターを務め、オンラインピクニックなどのスポーツ番組に出演。退社後、フリーアナウンサーとして活動する傍ら「ココロレポート」を連載。

健康づくりのパートナー 一人一人に寄り添う薬剤師

対談



10月17日（金）までの週間は「薬と健康の週間」。医薬品を正しく使用し、薬剤師が果たす役割の大切さを伝えてもらうべく、全国各地でもさまざまな健康活動が行われる。公的医療保険の持続性を高めていくことと求められるなか、日本薬剤師会の岩月進会長とフリーアナウンサーの平井理央さんが、薬師と薬剤師との向き合い方、自身の健康維持など幅広いテーマで語り合った。

「自分の健康は自分で守る」をサポート

平井 1周の節目として、薬の健康支援に気づき、自身の健康に責任を担うのが、薬の役割だと感じています。薬の処方箋は、処方箋と薬を調剤する薬剤師の役割。正しく理解する大切さを伝える日々です。

岩月 薬は健康づくりのパートナーです。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。

平井 1周の節目として、薬の健康支援に気づき、自身の健康に責任を担うのが、薬の役割だと感じています。薬の処方箋は、処方箋と薬を調剤する薬剤師の役割。正しく理解する大切さを伝える日々です。

岩月 薬は健康づくりのパートナーです。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。

かかりつけ薬剤師へ気軽に相談を

人口減、地域と対峙 にも柔軟に対応

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。



薬剤師・薬師を
上手に活用

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。人口減、地域と対峙し、柔軟に対応する。

岩月 薬は健康づくりのパートナーです。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。人口減、地域と対峙し、柔軟に対応する。

岩月 薬は健康づくりのパートナーです。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。



薬剤師・薬師を
上手に活用

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。人口減、地域と対峙し、柔軟に対応する。

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。人口減、地域と対峙し、柔軟に対応する。

薬剤師・薬師を 上手に活用

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。人口減、地域と対峙し、柔軟に対応する。

岩月 薬は健康づくりのパートナーです。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。人口減、地域と対峙し、柔軟に対応する。

岩月 薬は健康づくりのパートナーです。健康づくりは、薬の役割を正しく理解し、薬の処方箋を正しく調剤する薬剤師の役割です。

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。人口減、地域と対峙し、柔軟に対応する。

人口減、地域と対峙 にも柔軟に対応

平井 1人の薬剤師が、薬局としての役割を担う。地域と対峙し、柔軟に対応する。人口減、地域と対峙し、柔軟に対応する。

企画・制作／毎日新聞社営業総本部

広告

日本薬剤師会
Japan Pharmaceutical Association
47都道府県薬剤師会の会費をもって組織する財団法人です。薬剤師の倫理高揚と学術振興に努め、薬学・薬業の発展を通じて、国民の健康な生活の確保・向上に寄与することを目的に、薬剤師の生涯学習、職業品適正使用の推進など幅広い活動を行っています。

薬と健康の週間

日本薬剤師会ウェブサイトの「メディア掲載情報」コーナーには、この他にも啓発記事が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

毎日新聞 令和7年10月6日（月）掲載

毎日新聞 令和7年10月13日（月・祝）掲載

PR

Vol.1 薬剤師・薬局は健康な生活を薬で支えるパートナー

薬剤師・薬局の上手な活用法

薬剤師・薬局は薬に関することが中心ですが、薬に直接関係がないことでも頼ってみませんか？

この医療機関を受診しても、処方箋を持っていく薬局やOTC医薬品（市販薬）を購入する薬局は決めていますか。いわゆる「かかりつけ薬剤師・薬局」を持ちつことをお勧めします。

その薬局では、他の医療機関で処方されている薬との飲み合わせや、今の症状に對しては適さない薬を服用していないかなどを確認し、より安全・安心な薬物治療をサポートしています。また、お子さんが薬を飲んでくれない、高齢者が飲み込みが弱くなってきたり、薬が飲みづらそう、薬の数が多く

て薬を管理するのが大変、薬局の営業時間内に薬をとりにいくことが難しい、通院するのが難しくなった時などにもご相談ください。薬剤師の知識だけでなく、医師などの他の医療職種やケアマネジャーなどの介護職の方達と連携をとって良い解決策を考えます。薬局での相談はもちろ

「病院まで通うのが大変になった」「薬が飲みにくくなった」「飲み残しが出てきた」「薬の数が多くて心配」といった声を聞くことが増えています。加齢や体の不自由などにより通院が難しくなった方にとって、自宅で安心して療養生活を送るためには、医師や看護師、介護職など多職種が連携する「在宅医療」が

「在宅医療」が不要な薬の整理など、専門的な視点からより安全・有効に薬による治療ができるよう対応しています。住み慣れた自宅で薬剤師と会話し、気軽に相談できるのも安心です。

また、人生の最終段階で受ける医療やケアの希望をあらかじめ共有する「アドバンス・ケア・プランニング

（ACP）」にも薬剤師は関わります。ACPが実際に必要になってから関わる職種とは異なり、日頃から患者さんの生活や性格、ご家族との関係まで把握している「かかりつけ薬剤師」だからこそ、患者さんの思いをくみ取り、医療・介護のスタッフと共有することができま

ACPは、一度決めたら終わりではありません。病状や生活の変化に応じて、繰り返し話し合い、希望を更新していくことが大切です。

薬剤師に、在宅療養のこと、ACPのこと、ぜひ一度ご相談ください。薬剤師は、地域で暮らす皆さまの「その人らしいそれぞれの生き方」を支えるパートナーです。

ん、もし、夜間や休日など急に体の具合が悪くなり、ご自身でどの市販薬を選んだら良いかわからない場合にも、ぜひかかりつけ薬剤師にご相談ください。その症状の改善に適している、その方の体質・既往症などを考慮した、より安全性の高い医薬品をご提案します。その他にも医薬品だけでなく、介護用品、衛生材料なども扱っていますので、個々の患者さんに合わせて必要なものを選択できるよう薬剤師がアドバイスします。また、健康な時によりその状態を保てるように、健康増進に関する相談や健康づくりを支援する情報発信などを行っている薬局もあります。

あなたの健康に関する悩みも薬剤師に話してみませんか。



こちらからチェック **かかりつけ薬剤師・薬局とは？**

公益社団法人 **日本薬剤師会**

PR

Vol.2 在宅療養に寄り添う薬剤師という身近な存在

薬剤師・薬局の上手な活用法

「病院まで通うのが大変になった」「薬が飲みにくくなった」「飲み残しが出てきた」「薬の数が多くて心配」といった声を聞くことが増えています。加齢や体の不自由などにより通院が難しくなった方にとって、自宅で安心して療養生活を送るためには、医師や看護師、介護職など多職種が連携する「在宅医療」が

「在宅医療」が不要な薬の整理など、専門的な視点からより安全・有効に薬による治療ができるよう対応しています。住み慣れた自宅で薬剤師と会話し、気軽に相談できるのも安心です。

また、人生の最終段階で受ける医療やケアの希望をあらかじめ共有する「アドバンス・ケア・プランニング

（ACP）」にも薬剤師は関わります。ACPが実際に必要になってから関わる職種とは異なり、日頃から患者さんの生活や性格、ご家族との関係まで把握している「かかりつけ薬剤師」だからこそ、患者さんの思いをくみ取り、医療・介護のスタッフと共有することができま

ACPは、一度決めたら終わりではありません。病状や生活の変化に応じて、繰り返し話し合い、希望を更新していくことが大切です。

薬剤師に、在宅療養のこと、ACPのこと、ぜひ一度ご相談ください。薬剤師は、地域で暮らす皆さまの「その人らしいそれぞれの生き方」を支えるパートナーです。

「在宅医療」が不要な薬の整理など、専門的な視点からより安全・有効に薬による治療ができるよう対応しています。住み慣れた自宅で薬剤師と会話し、気軽に相談できるのも安心です。

また、人生の最終段階で受ける医療やケアの希望をあらかじめ共有する「アドバンス・ケア・プランニング

（ACP）」にも薬剤師は関わります。ACPが実際に必要になってから関わる職種とは異なり、日頃から患者さんの生活や性格、ご家族との関係まで把握している「かかりつけ薬剤師」だからこそ、患者さんの思いをくみ取り、医療・介護のスタッフと共有することができま

ACPは、一度決めたら終わりではありません。病状や生活の変化に応じて、繰り返し話し合い、希望を更新していくことが大切です。

薬剤師に、在宅療養のこと、ACPのこと、ぜひ一度ご相談ください。薬剤師は、地域で暮らす皆さまの「その人らしいそれぞれの生き方」を支えるパートナーです。

ん、もし、夜間や休日など急に体の具合が悪くなり、ご自身でどの市販薬を選んだら良いかわからない場合にも、ぜひかかりつけ薬剤師にご相談ください。その症状の改善に適している、その方の体質・既往症などを考慮した、より安全性の高い医薬品をご提案します。その他にも医薬品だけでなく、介護用品、衛生材料なども扱っていますので、個々の患者さんに合わせて必要なものを選択できるよう薬剤師がアドバイスします。また、健康な時によりその状態を保てるように、健康増進に関する相談や健康づくりを支援する情報発信などを行っている薬局もあります。

あなたの健康に関する悩みも薬剤師に話してみませんか。



こちらからチェック **かかりつけ薬剤師・薬局とは？**

公益社団法人 **日本薬剤師会**

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

転載記事

毎日新聞 令和7年10月27日 (月) 掲載

毎日新聞 令和7年11月3日 (月・祝) 掲載

PR

薬剤師・薬局の上手な活用法

Vol.3

マイナ保険証×お薬手帳の利用で
より安全・安心な医療を

みなさんはマイナ保険証を利用していますか？

薬局や医療機関では、これまで保険証で確認していた保険資格の情報をオンラインで確認しています。就職や引越しの際は新しい保険証が必要でしたが、マイナ保険証は継続して利用できます。さらに、子ども医療費助成などの地方公費についても順次対応が始まっており、受給者証の持参忘れ

を防ぎやすくなります。そして最大のメリットは、より安全・安心な医療につながることです。マイナ保険証の利用時に医療情報の活用に同意すると、薬局で調剤された薬の他、医療機関で使用された薬や特定健診の記録など、お薬手帳とは異なる情報を医師や薬剤師と共有できます。そうす

ることで、同じような薬や飲み合わせが悪い薬の把握・調整がしやすくなり、正確な情報に基づく診察・調剤を受けられます。

一方で、保険診療以外の労災保険や自由診療などの医薬品やOTC医薬品(市販薬)などの情報は、お薬手帳には記録されませんが、現状ではマイナ保険証では把握できません。また、お薬手帳には服用上の注意やアレルギー歴、副作用歴、既往症などの情報も記載され

るため、お薬手帳の活用は引き続き大切です。薬局に来られる際は、お薬手帳とマイナ保険証をご持参ください。お薬手帳とマイナ保険証を併用して、安全・安心でムダの少ない医療を実現しましょう。



スマートフォンにeお薬手帳3.0アプリを
こちらもチェック

公益社団法人 日本薬剤師会

PR

薬剤師・薬局の上手な活用法

Vol.4

正しく使おうOTC医薬品

OTC医薬品(薬局などで処方箋なしで購入できる市販薬)の選択や使用を通じて、自身の健康管理を行う「セルフケア・セルフメディケーション」の重要性が高まっています。

インターネットを使って生活に必要なものを購入するのと同じように、OTC医薬品も一定の条件下で購入することができます。

この購入手段は便利ではあるものの注意が必要です。近年、SNSや動画サイトなどで見かける「体験談」や「治る裏技」といった情報の中には、科学的根拠のないものや、むしろ健康を害するおそれのある誤情報(フェイク情報)も少なくありません。無許可の違法販

売サイトや日本では承認されていない医薬品、偽造医薬品などにより、期待する効果を得られぬばかりか、思わぬ健康被害が生じる可能性があります。

購入の際に、Webサイトに掲載されている店舗名や実店舗の写真、勤務中の薬剤師・登録販売者の氏名、許可証の内容、営業時間外



を含めた連絡先などを確認しましょう。
ネットショッピングで医薬品が購入できる時代だからこそ、どの薬を購入すれば良いのかわからない場合は薬剤師にご相談ください。薬局やドラッグストアでは、症状に合った薬の提案や併用薬との相互作用の確認、また医師への受診が必要な場合の判断など、専門的なサポートが受けられます。OTC医薬品を正しく使うために、使い



こちらもチェック

セルフメディケーションって何？

公益社団法人 日本薬剤師会

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

沖縄学術大会

第38回沖縄県薬剤師会学術大会開催

日時：令和7年11月16日（日）10:20～17:10

会場：沖縄県薬剤師会館ホール・WEB配信



大会実行委員会
委員長 中尾 滋久

11月16日（日）、昨年に引き続き、現地参加を主としたハイブリッド開催により「薬剤師の人間力を磨く」をテーマに第38回沖縄県薬剤師会学術大会が開催された。大会の参加者は130名（現地:100名、WEB:30名）であった。安次富大大会実行委員の司会進行のもと、中村克徳大会副会長の開会の辞で開幕した。続いて前濱朋子大会長から「2025年の団塊世代後期高齢者化を控え、薬剤師には保険調剤に留まらず、在宅医療や健康支援、地域連携への積極的な参画と、それを支える高い人間力が強く求められていることを踏まえ、大会テーマを「薬剤師の人間力を磨く」とした。」と挨拶があった。

会員発表の部では、喜屋武芳美先生（第38回沖縄県薬剤師会学術大会 委員）、平塚真弘先生（社会医療法人友愛会 友愛医療センター 薬剤科）、三浦健太郎先生（第38回沖縄県薬剤師会学術大会 実行委員）、新井亮輔先生（第38回沖縄県薬剤師会学術大会 実行委員）の4氏が座長を務め、保険薬局・その他部門関連から9演題、病院・診療所部門関連から8演題の合計17演題の発表が行われた。

ランチョンセミナーでは東和薬品株式会社様に共催いただき、中村克徳副大会長を座長に、琉球大学大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科講座（第二内科）教授の益崎裕章先生に「2型糖尿病治療薬の最新動向」と題してご講演いただいた。

特別講演では前濱朋子大会長を座長に、琉球大学病院病院長であり琉球大学理事・副学長の鈴木幹夫先生を講師に迎え「西普天間発・未来医療への航路」と題してご講演いただいた。

また、5社の協賛企業の広告放映と9社の

機器展示が行われた。最後に、大会実行委員長（筆者）が閉会の辞を述べ、盛会のうちに幕を閉じた。

コロナ禍を境に現地開催に加え、WEBも併用したハイブリッド開催が定着しているが、今後も離島・遠隔地の会員の皆様にご参加いただけるインフラとして残していきたいと考える。

会員の学びへの真摯な姿勢と、議論の熱量に心より敬意を表する。

来年は沖縄県薬剤師会創立100周年という歴史的な年である。薬剤師として次代につながる希望に満ちた学術大会が開催できるよう、皆様の絶大なるご協力をお願いしたい。

最後に、座長や演者の先生方、協賛いただいた企業と沖縄県薬剤師会事務局ならびに大会運営スタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。



講演要旨（表紙）

第38回沖縄県薬剤師会学術大会プログラム

10:20 開会



開会の辞

第38回沖縄県薬剤師会学術大会
副大会長 中村 克徳



会長挨拶

第38回沖縄県薬剤師会学術大会
大会長 前濱 朋子



司会

第38回沖縄県薬剤師会学術大会
実行委員 安次富 大

一般演題 午前の部 (前半) 10:30 ~ 11:10



座長 第38回沖縄県薬剤師会学術大会
委員 喜屋武 芳美



1 妊娠に対する漢方薬の効用について

みなと薬品 漢方みず堂

○盛 本 直 也



- 2 もう待てない！真の医薬分業に必要な手段とは？～服薬情報提供から推測～
株式会社たいよう薬局 ○宮本 桂子



- 3 実務実習で「っしゃー！」～実務実習で経験できた対人業務～
こくら虹薬局 ○比嘉 仁 玉城 祐太郎



- 4 担当校で実施した保健指導について
学校薬剤師 ○久手堅 奈央 新垣 紀子

一般演題 午前の部（後半） 11:20～12:00



座長 社会医療法人友愛会
友愛医療センター
平塚 真弘



- 5 当地域の骨粗鬆症リエゾンサービスにおける評価と課題
社会医療法人仁愛会 浦添総合病院 薬剤部
○石垣 萌 知念 里佳
東 千夏 浜元 善仁



- 6 骨折リエゾンサービスチーム介入後の骨粗鬆症治療薬選択と
テリパラチド継続率 ～検査実施状況の調査と治療効果の推察～
中頭病院 薬剤部 ○仲嶺 真由 宮平 邦子
玉城 哲子 知念 沙綾



7 那覇市立病院におけるクラゾセンタンの使用成績と
体液貯留に関する副作用について

那覇市立病院 医療技術部薬剤科

○眞栄城 安 貴 呉 本 裕 介
仲 村 哲 也 永 井 賢 作



8 簡易懸濁不可薬剤で情報提供した1例

中部徳洲会病院

○渡 邊 理 生 阿 部 多嘉浩
坂 口 結 斗 平 識 善 彦

ランチオンセミナー 11:20 ~ 12:00

【共催：東和薬品株式会社】

座長 第38回沖縄県薬剤師会学術大会 副大会長 中村 克徳

「2型糖尿病治療薬の最新動向」

講師：琉球大学 大学院医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科）
教授 益崎 裕章

<講師略歴>

京都市出身。1989年に京都大学医学部を卒業後、京都大学大学院医学研究科博士課程を修了し、医学博士を取得。

京都大学医学部第二内科助手を経て、ハーバード大学医学部にて招聘博士研究員および客員助教授を歴任。

2009年より琉球大学大学院医学研究科に着任し、同講座教授として教育・研究・臨床に従事。

日本内分泌学会の筆頭理事を務め、内分泌代謝学分野で最も歴史ある英文誌の一つ「Endocrine Journal」の編集長や日本肥満学会の副理事長・常務理事などを務め、多くの学会で中核的役割を担う。

これまでに内分泌代謝学分野を中心とした多数の国際論文の発表し、日本肥満学会学会賞、上原記念生命科学財団研究助成賞、全国日本学士会アカデミア賞など、国内外で高い評価を受けた研究実績を持つ。



一般演題 午後の部 (前半) 14:00 ~ 14:50



座長 第38回沖縄県薬剤師会学術大会
実行委員 三浦 健太郎



9 粉砕投与における医療的ケア児への薬学的介入事例

すこやか薬局 具志川店 在宅部門

○太 梨 穂



10 禁煙サポート事業を実施した薬剤師に行ったアンケート結果について

沖縄県薬剤師会 保健福祉委員会 ○森 田 愛 基



11 沖縄県での「子ども向け調剤体験」実施についての一考察

沖縄県薬剤師会 保健福祉委員会 ○草 壁 瑞 恵



12 『ない』からこそ生まれたやんばる地域フォーミュラリ

一般社団法人北部地区薬剤師会 ○浅 沼 健 一



13 SGLT2阻害薬服用患者における飲水量調査

ドラッグイレブン薬局佐敷店 ○池 内 晶 哉

一般演題 午後の部 (後半) 15:10 ~ 15:50



座長 第38回沖縄県薬剤師会学術大会
実行委員 新井 亮輔



14 SCUにおける薬剤師の関わりとアムロジピンによる

横紋筋融解症が疑われた1症例

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

- 1) 薬局 ○松本 慧 大¹⁾ 屋比久 篤 志¹⁾
- 2) 脳神経内科 屋比久 佳 奈¹⁾ 比 嘉 綾 子¹⁾
仲 地 耕²⁾
- 3) 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
知 念 聡³⁾ 照 屋 政 美³⁾
- 4) 琉球大学病院 第三内科 脳神経内科
照 屋 翔二郎⁴⁾ 津 波 美奈子¹⁾



15 トルコ・シリア大地震における薬剤師の災害医療支援活動の報告

医療法人 徳州会 中部徳洲会病院 薬剤部/NPO法人TMA T

○坂 口 結 斗



16 回復期/慢性期病院における薬剤業務向上加算の取り組みとその効果

- 1) 医療法人おもと会 大浜第二病院
- 2) 医療法人おもと会 大浜第一病院
- 3) 琉球大学病院 ○姫 野 さやか¹⁾ 大 城 かおり¹⁾
池 宮 あや子¹⁾ 伊 佐 沢 恵¹⁾
姫 野 耕 一²⁾ 池 村 憲 明³⁾
有 本 諭 司³⁾ 古波蔵 直 子³⁾
上 里 祐 哉³⁾ 石 井 岳 夫³⁾
諸 見 牧 子³⁾ 中 村 克 徳³⁾



17 ハンセン病療養所のセンター薬剤業務における処方支援内容の分析

- 1) 国立療養所沖縄愛楽園薬剤科 ○立石千咲¹⁾ 矢口武廣¹⁾
- 2) 国立病院機構鹿児島医療センター薬剤部
加茂章弘²⁾ 片山陽介¹⁾
- 3) 国立療養所星塚敬愛園薬剤科 山下克也³⁾

特別講演 16:00 ~ 17:10

座長 第38回沖縄県薬剤師会学術大会 大会長 前濱 朋子

「西普天間発・未来医療への航路」

講師：琉球大学病院 病院長 琉球大学理事・副学長
教授 鈴木 幹男

<講師略歴>

1986年に滋賀医科大学医学部医学科を卒業後、同大学附属病院耳鼻咽喉科にて研修医として勤務。滋賀医科大学大学院医学研究科に進学し、助手、講師として教育・研究・診療に従事。

1995年にアメリカ・テネシー州立大学医学部に留学し、免疫アレルギー科にてリサーチフェローとして研究活動を行う。

帰国後、福岡記念病院耳鼻咽喉科部長を経て、2006年に琉球大学医学部教授に就任。2010年より琉球大学大学院医学研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 教授を務める。

琉球大学病院副院長として診療、病院経営、医療安全などを幅広く担当し、2025年、同病院病院長、琉球大学理事、副学長に就任。

耳鼻咽喉科専門医・指導医、頭頸がん専門医・指導医、日本気管食道科学会専門医、がん治療認定医など、耳鼻咽喉科・頭頸部領域における多数の専門資格を取得。

日本気管食道科学会および日本頭頸部外科学会副理事長をはじめ、国内外関連学会における中核的役割を担う。



17:10 閉会



閉会の辞

第38回沖縄県薬剤師会学術大会
大会実行委員長 中尾 滋久

沖縄学術大会

会員発表審査報告



大会実行委員会
副委員長 名嘉 紀勝

今年度は17演題の発表を行いました。

保険薬局・その他部門の奨励賞は、比嘉仁先生の「実務実習で『っしゃー！』～実務実習で経験できた対人業務～」を選定しました。選考理由は、患者の訴えを基に問題点を薬学的観点から考慮し、実習生と共に主治医宛に情報提供書等の作成に関わり、処方変更の提案に至った経緯が薬剤師の職能向上に資するものと評価しました。

薬局には、地域に根差した県民の相談窓口としての機能が求められていることや、専門性を活かして多職種と連携し、患者へ有益な医療・情報を提供することが期待されています。このような取り組みはどの薬局でも必要であり、比嘉先生の事例はそのための貴重な情報を提供してくださいました。患者にとっての問題を把握、検証し、それを的確な解決へとつなげることで地域に必要とされる薬局・薬剤師となる道標となる発表でした。

また、薬学実習生の学びを深めること、薬剤師の資質を育むことになった点も大変興味深く、今後の実習生の指導にも気づきを示してくださいました。

病院・診療所部門の奨励賞は、姫野さやか先生の「回復期/慢性期病院における薬剤業務向上加算の取り組みとその効果」を選定しました。選定理由は、薬学部のない沖縄県において、急性期病院から回復期病院へ薬剤師を派遣することによって、薬剤師の地位向上

や職能拡大に寄与する新規性の高い内容であった点です。「今後、他施設で取り組む際に参考になると考えられる。」と審査会の意見が纏まりました。

「病院薬剤師の派遣」というこの事例が、今後さらに予想される薬剤師のマンパワー不足の解消へ広がることを期待しています。

最後に、発表者の皆様と、研究に携わった各施設の皆様におかれましては、日々の業務で感じる疑問や取り組みを共有していただき、心より感謝申し上げます。審査員一同、どの発表も素晴らしく、業務において大いに参考になる内容だと評価いたしました。

全体的に、年々会を重ねていながら、発表方法については規定に沿った発表の展開が見受けられました。本学術大会の目的の一つ、「規定を学び、他の学会への参加の足掛かりとしてご活用いただける場」の主旨が馴染んできたとも考えられます。

今後も発表の内容や方法についてご不明な点がございましたら、ぜひ薬剤師会にご相談ください。

今年度も多くのご応募をいただき、誠にありがとうございました。来年度はさらに多くの薬剤師の皆様にご参加いただけるよう、引き続き取り組んでまいります。



＜病院・診療所部門＞

左から阿部義則専務理事（オブザーバー）、山内祐子氏、入月健氏、徳嶺恵子氏



＜保険薬局・その他部門＞

左から、名嘉紀勝理事（オブザーバー）、喜友名朝史常務理事、鈴鹿玲子理事、知念大輔理事

沖縄学術大会

第38回沖縄県薬剤師会学術大会懇親会

日時：令和7年11月16日（日）17：30～18：30

会場：沖縄県薬剤師会館研修室



発表者17名の皆様

奨励賞受賞者



《保険薬局・その他部門》
比嘉 仁氏



《病院・診療所部門》
姫野 さやか氏



来賓挨拶
比嘉奈緒子
沖縄県保健医療介護部
保健衛生統括監



特別講演講師
鈴木幹男
琉球大学病院長



司会
喜屋武芳美
理事

第38回沖縄県薬剤師会学術大会の終了後、会場を研修室へ移し、懇親会が開催された。司会は喜屋武芳美理事が務め、前濱朋子会長の開会の挨拶に続き、来賓の比嘉奈緒子沖縄県保健医療介護部 保健衛生統括監からご挨拶を頂戴した。

次に、演題発表者への認定証授与と奨励賞の表彰式が執り行われた。

演題発表認定証授与式では、中尾滋久委員長から発表者17名へ認定証が授与された。続いて奨励賞表彰が行われ、審査講評と各部門の受賞者が発表された。

保険薬局・その他部門では、「実務実習で『っしゃー！』～実務実習で経験できた対人業務～」を発表した、こくら虹薬局の比嘉仁氏が受賞した。

病院・診療所部門では、「回復期/慢性期病院における薬剤業務向上加算の取り組みとその効果」を発表した、医療法人おもと会 大浜第二病院の姫野さやか氏が受賞し、前濱会長から表彰状と副賞が授与され、会場から盛大な拍手が送られた。

中村克徳副会長の乾杯の音頭で歓談に移り、和やかな雰囲気の中、参加者同士で交流を深める光景が見られた。学術大会に続き、懇親会にも多くの方にご参加いただき盛会のうちに幕を閉じた。

(文：事務局 川平 真央)



< 発表要旨 >



保険薬局・その他部門
奨励賞受賞

3. 実務実習で「っしゅー！」～実務実習で経験できた対人業務～

こくら虹薬局 ○比 嘉 仁 玉 城 祐太郎

【はじめに】 昨今、薬局薬剤師は「対物業務から対人業務へのシフト」が求められている。

その主旨は、単に医薬品を供給するのみではなく、服薬指導の際に患者との会話で得られた情報や、生活背景等も把握し、薬学的観点からより良い薬物療法を提供することが求められているものと理解する。また薬学教育において5年次に行われる実務実習は、実際の医療現場において薬剤師業務である「調剤」を経験するのみならず、薬学部で学んできた知識を活用し、服薬指導等を通して患者の問題を解決する能力など、実践的な経験を学ぶために行われる。先に行われた保険薬局実務実習において、薬学実務実習生(以下、実習生)と共に充実した実習経験ができたので報告する。

【本論】 当薬局では2025年2月17日～5月2日に2025年度I期の実務実習生を受け入れた。実習序盤、実習生より「先日の服薬指導が世間話に終始し、どのように会話を進めればよいかわからない。」と相談を受けたため、「世間話が悪いわけではなく、会話の内容に対して常に薬学的観点から関与できることはないかを意識したらいい。」と助言を行った。

その後、筆者が服薬指導を担当した患者において、薬学的観点から処方内容の検討を要する症例があり、実習生と共に関わった。患者は重度の肝障害・腎障害があり週3回透析を受けている。芍薬甘草湯の効果が乏しく透析日には重度のこむら返りを起こすことが憂鬱であることを訴えていた。肝性脳症の既往があるなかグリチルリチン酸一アンモニウム/グリシン/ DL-メチオニン配合錠を服用、透析をしているにも関わらず常に低カリウム血症が常態化していることを踏まえ、処方内容の妥当性、副作用の可能性、代替薬の有無などについて、実習生も薬学部で習得した知識を基に検討。その結果をもとに実習生も主治医宛への情報提供書の作成に関わり、処方変更の提案を行った。その後処方変更が行われ、2週間後に実習生が服薬指導に関わった際、患者より直近3回の透析において2日はこむら返りが生じず、残る1日も迅速に改善したことを確認。

【結語】 実習生と共に、これまで薬学部で学んできた知識を活かし、処方薬の妥当性を検証した。また実際に患者が困っている事に焦点をあて、ガイドラインからの情報のみならず、論文検索なども行い、当該患者への適応性を検証し、処方医に情報提供を行った。実習生自らが作成に関わった情報提供書によって処方変更が行われ、その後、患者のQOL向上が図られ、患者に喜んでもらった事は、実習生自身の喜びと大きな自信につながった。対人業務の意義を、実践を通して共に経験することができた。

< 発表要旨 >



16. 回復期/慢性期病院における薬剤業務向上加算の取り組みとその効果

○姫野 さやか¹ 大城 かおり¹ 池宮 あや子¹ 伊佐 沢 恵¹
姫野 耕 一² 池村 憲 明³ 有本 諭 司³ 古波蔵 直 子³
上里 祐 哉³ 石井 岳 夫³ 諸見 牧 子³ 中村 克 徳³

1) 医療法人おもと会 大浜第二病院 2) 医療法人おもと会 大浜第一病院 3) 琉球大学病院

【背景・目的】 大浜第二病院（以下、当院）は、県内では南部医療圏（豊見城市）に所在する 177 床（回復期リハビリテーション病棟 60 床、特殊疾患病棟 59 床、療養病棟 58 床）の回復期/慢性期病院である。院内の薬剤管理業務やチーム医療への参画に加え、同敷地内施設（老健・特養ホーム・ケアハウス）の入居者の薬剤業務も一部担っているため、薬剤師不足の解消は重要課題となっている。令和6年度診療報酬改定で新設された薬剤業務向上加算では、薬剤師の出向体制が設けられた。県の協力の下、琉球大学病院からの出向薬剤師受け入れ体制を整備し、薬剤業務向上加算に関する沖縄県初の取り組みを行ったので報告する。

【活動内容】 事前に当院薬剤科の課題の抽出を行い、出向元に提示した。出向薬剤師に対し地域医療に係る業務についての研修プログラムを作成した。出向薬剤師および当院医師、薬剤師、看護師と共にチーム医療の推進を図った。薬剤師不足解消に伴い、病棟薬剤業務の拡充を行った。出向元施設と定期的なオンライン会議による情報共有を行った。

【結果】 ①抗菌薬使用患者に対してテンプレートを活用した介入を行い、定期的な抗菌薬適正使用支援ラウンドを開始することができた。②薬学的管理指導記録の標準化を図るとともに、薬剤管理指導件数の増、薬剤総合評価調整加算の要件確認や必要な情報提供も行えるようになり算定につながった。③おもと会グループ高齢者施設において、出向薬剤師、保険薬局薬剤師が協力して薬剤師ミニ出前講座を開催することができた。④出向薬剤師の視点から改善点を共に考え薬剤師業務の向上に繋げることができた。加えて、出向薬剤師に当院施設の医療・保健・福祉の合築を活かしたプログラムを実施することができ、回復期/慢性期病院の状況だけでなく、より広く地域医療の状況を理解してもらうことができた。

【考察】 地域や機能別による薬剤師の偏在と、超高齢社会と病院の機能分化が進むなか、薬剤師数の多少に関わらず、薬剤師業務の質の向上は必須である。【薬剤業務向上加算】の取り組みにあたっては、これまで参加を中断していた薬剤師業務を行うと同時に、業務の質の向上と継続を念頭に実施することができた。この取り組みは、現在も進行中であり途中経過の報告であるが、地域と連携した教育研修体制を活用する新たな視点から回復期/慢性期病院における薬剤師の確保と業務の質の向上を図ることができるとともに、施設間の薬剤師業務を相互に確認することで地域連携を広げ、より深めることができると考える。

災害対策

令和7年度沖縄県総合防災訓練

期 日：令和7年10月19日（日）

会 場：東風平運動公園体育館

参加者：鈴木 玲子、山内 一姫、西坂 順、新垣 慎太郎

(株)ダイコー沖縄
春田 崇彰

10月19日に令和7年度沖縄県総合防災訓練が行われ、災害薬事コーディネーターとして参加しましたので報告いたします。

私は東風平運動公園で開催された訓練に参加しました。沖縄県で震度6の地震が起こったという想定で、体育館を県庁災害対策本部に見立て一連の活動を行いました。発災後すぐの想定で、沖縄県保健医療福祉調整本部内に災害薬事本部を立ち上げる場所からスタートしました。主な活動内容は薬局、卸の被災状況の収集や関係各所への情報収集・提供といった内容でした。また、今回の医薬品供給についての訓練では、EMISからの情報で、災害医療コーディネーターから久米島の医療機関への医薬品の手配の依頼が入り、各配送手段を検討した結果、ドローンを用いて医薬品を輸送するといったシナリオでした。

訓練は、災害発生後、沖縄県災害対策本部が立ち上げられ、県からの要請により災害薬事コーディネーターとして招集される場所から始まりました。

HeLP-SCREAM (Hello:挨拶、Location:活動場所の確保、Part and Plan:役割分担、方針計画、Safety:安全確認、Communication:通信手段、Record and Report:記録、上位本部への報告、Equipment:道具(資機材、医薬品)の確保、Assessment:評価、Map、Move and METHANE※:地図、行動、情報)に

沿って関係団体への挨拶、役割を決定しました。リーダー、連絡担当、クロノロ(筆記、電子)に役割分担し、活動目標をたて、他関係団体と連絡を取り合い、シナリオを進めていきました。残念ながら天候の影響でドローンは飛ばせませんでした。一通りシナリオに沿った訓練を終えることができました。

所感として、入ってくる情報とその整理、発信する情報の内容精査・確認、連絡すべき対策班、組織の判断についての難しさがありました。また、事前準備の不足として災害時に備えたスターリンク携帯の契約といった通信機器の買い替えが望まれます。他に日頃から市町村のハザードマップや防災マップへ目を通し、ある程度把握しておくことや、薬機関連法規やドローンによる医薬品配送に関するガイドラインについての知識をつけておくこと、災害時、流通上厳格な管理が必要な医薬品については緊急性の有無によって輸送するかどうか判断するなど、今後の課題も多かったです。

今回の訓練を受けて、今後起こりうる災害について継続的に研修を行い、実際に災害が発生した際に速やかに行動できる体制構築の重要性を感じました。

災害対策

令和7年度那覇市総合防災訓練

期 日：令和7年10月19日（日）

会 場：那覇市立真地小学校

参加者：知念 大輔、西澤 香織

参加団体：総務省の通信チーム、気象庁、JMAT、保健師、自衛隊、消防、歯科医師会、VMAT、近隣の真地団地の住民の方々、沖縄盲学校

薬剤師会として、真地小学校で行われた地域住民の避難を想定した防災訓練に参加した。

近隣の真地団地の住民の方々や、盲学校の方々等が雨の中、徒歩で避難してきた。今回はまず保健師を中心とする運営の医療ブースで、避難してきた住民へのバイタルチェック、必要時には医療相談などが行われる待合室で適宜、災害時におけるお薬手帳や薬剤情報提供書（薬情）などの必要性の啓蒙活動も並行して実施した。防災バッグや財布などに、常用薬の服薬内容、アレルギー、副作用などの情報を保管し、防災バッグには数日分の常用薬も保管しておき、被災時は避難時常用薬なども携帯する必要性なども啓蒙。災害時に薬をもらう際は、上記情報が必要になり、お薬手帳などがあるほうが、スムーズに薬をもらえることが多いと説明した。

また住民からの薬に関する相談にも対応し、防災バッグへの常用薬の保管の期限などを相談された際は、受診時に薬をもらった時に情報や薬を更新していくと期限も入れ替わると提案した。

我々薬剤師はそのほかに、残薬相談、薬剤師的な医療相談などにも対応した。また保健師やJMATと連携し、模擬患者の症例でのケーススタディなどにも参加した。必要時は災害処方箋で薬を用意する流れも確認した。

近くのブースでは歯科医師会による歯科相談、災害時の口腔ケアなどの啓蒙活動も行われていた。医療スタッフ間では、保健師を中心に、必要時JMATの医師に相談のうえ指示を仰ぎ、模擬患者の症例に対し、対応の練習、県庁上層部へ状況報告、相談、確認などの対応方法の検討も行った。



ハーブ薬局 やえせ店
西澤 香織

反省点は、薬剤師の参加人数をもう少し増やせると、住民への啓蒙活動もより幅広く行えたかもしれない。模擬患者での症例検討が、途中から徐々に看護師への申し送りになってしまった。多職種が訓練に参加する貴重な機会を活かし、実際の災害時を想定した多職種の連携をより強くできると良いのではと感じた。

感想として、JMATの医師に「実際の災害現場に行ったら、薬に関してはまず、薬剤師さんを探して連携しないと、何もできないと思った」と言っていたのがありがたかった。

平素から、多職種で横のつながり、顔の見える関係であることで、災害時の安心感、連携強化にもつながると思われた。

<医療ブース以外で行われていたこと>

- ・災害時のトイレの見本の設置。
- ・トランシーバーを使用した本部と各部署との連携。
- ・避難してきた住民が、体育館内のプライバシー保持のための簡易テント（ばね式の骨組みで天井のない立方体のもの）や、ベンチなどをスタッフの指導のもと、一緒に実際に組み立てて用意していた。
- ・動物と一緒に避難してきた人に対応のため、獣医師のチームも避難所内にスペースを作っていた。



医療保険



調剤報酬請求業務Q & A



本コーナーでは、医療保険委員会に寄せられた会員からのご質問や、保険請求に関するお知らせをシリーズで掲載します。

今回は、会員薬局から寄せられた算定に関する質問をご紹介します。

質問

一包化の処方箋を受け付けた際に、他薬局で調剤されたお薬も一緒に一包化しました。
外来服薬支援料1と2の同時算定は可能でしょうか？

答え 算定不可

質問

一包化して投薬した後日、1種類を抜いて欲しいと来局されました。
残りを再度一包化した場合は、加算は取れますか？

答え 算定不可

調剤報酬請求業務についてのご質問等は、下記の本会ホームページからお問い合わせください。

掲載先

沖縄県薬剤師会HP > 会員ページ > ログイン > 会員トップページ > 関連リンク集 > 調剤報酬請求業務Q & A > お問い合わせフォーム

学術研修

令和7年度第2回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会 「慢性腎臓病診療における薬剤師への期待」

日時：令和7年11月27日（木）19:30～21:00

講師：古波蔵健太郎氏

琉球大学病院 血液浄化療法部 診療教授・部長

私が初めて慢性腎臓病（以下、CKD）の患者さんの処方を受けたのが15～16年前、2年前には透析患者さんの在宅医療を担当した。薬剤師として、検査データからどのように服薬指導をすべきか、考えさせられる事が多くあった。

CKDの患者さんからは毎回蛋白尿と血圧の確認、透析患者さんでは、クレアチニンやカリウム値の確認を行いながら薬の説明をどのように行うべきかを常に考えており、今回の講演で少し指標を得たように思う。

<CKD2000万人時代～CKD患者の治療目標>

成人の5人に1人が慢性腎臓病と言われている現在。CKD重症度が高いほど腎イベントや心血管イベントのリスクが高い。慢性腎臓病の治療目標は、①末期腎不全への進展阻止、②心血管疾患の発症予防、③死亡リスクの軽減の3つを見据えること。

<慢性腎臓病関連の検査結果の説明について>

近年、広域病院の処方箋の裏には、当該患者の検査値が記載されているケースが増えている。その検査値を確認しながら、未記載の検査値を患者さんに問いかけると検査データを見せてもらえる場面がある。その際に、糖尿病・高血圧患者の検査データをどのように読み取れば良いのか講義いただいた。

検尿から見る末期腎不全の発症率の図解は、患者さんへの説明に有効だと思った。タンパク尿（アルブミン尿）、eGFRの確認から末期腎不全（透析が必要か）、心血管病（脳卒中・心筋梗塞）の発症リスクの見える化ツールの活用が患者さんの治療意欲を引き出すことが

できるのではないかと考える。

<腎障害進展抑制が期待できる新規薬剤の特徴>

CKD進展抑制を目指して患者さん個々に合わせた薬剤の選択が必要であることを学んだ。加齢・高血圧・糖尿病、高尿酸血症等から糸球体障害・尿細管障害から進行性腎障害が起こる。透析導入に至る男女比の話から、高齢男性で糖尿病性腎症や腎硬化症から透析導入に至る患者が増加している。

代謝異常症を伴う肥満はCKD発症リスクが高いことや、CKD患者さんへの薬剤選択において最近の動向を知ることができた。

・MR拮抗薬

「塩と肥満」という言葉が印象的で、アルドステロン非依存性に塩と肥満が関連している。

・SGLT2阻害薬

さまざまな病態で腎アウトカム改善効果が示されている。

・GLP-1アゴニスト

肥満改善効果が期待できる。

糖尿病の治療において肥満を改善することは、心血管イベント抑制・腎イベント抑制にもなり得る。

その他、GLP-1の多彩な生理作用における数々の臨床データについても講義いただいた。

・ARNI

慢性腎臓病合併高血圧症での厳格な降圧効果が期待できる。

限られた講義時間の中ではあったが、このように種々の薬剤の特徴を学ぶことができた。

最後に医師と薬剤師間での情報共有をベー



講師
古波蔵健太郎氏



スとした地域レベルでの取り組みについてもお話しいただき、那覇市CKD安心カードの説明があった。

私が勤務する薬局では、出来るだけ検査値を確認させてもらっているが、CKDについての詳しい話はまだできていないのが現状だ。ポリファーマシーの実践を行い、腎機能保護、透析導入、心不全のリスク回避ができたらと思ひ、本講演会の1週間後に開催された心不全緩和ケア研究会の講演にも参加した。緩和

ケアと聞くとがん疾患の場合をすぐに考えるが、心不全患者さんは再発を繰り返しながら症状悪化にて死にいたる病気で、そこにも緩和ケアがあることを知った。

私たち薬剤師がしっかり検査値を確認しながら、患者さんへ服薬支援を行い、末期腎不全や心不全等の予防に寄与できたらと思う。

多くの情報を教えていただいた古波蔵先生に感謝して、本報告を終える。

(報告：ほたる薬局 日高 久美子)



お知らせ

地区・部会からの原稿をお寄せ下さい！

ぜひ“おきなわ薬剤師会報”へ地区薬剤師会、部会の活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

学薬部会

令和7年度第2回学校薬剤師部会研修会

日時：令和7年12月21日（日）13：00～14：30

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<次第>

1. 会長挨拶
2. 部会長挨拶
3. 研修会

司会 学校薬剤師部会 北部支部長 村上市子
沖縄県薬剤師会 会長 前濱朋子
学校薬剤師部会 部会長 新垣紀子

「令和7年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会伝達講習」

学校薬剤師部会 浦添支部長 池田武俊

「令和7年度全国学校薬剤師学術フォーラム伝達講習」

学校薬剤師部会 部会長 新垣紀子

「色と言葉でつなぐ心のサイン

～子どもたちのコミュニケーションを豊かにする学校薬剤師の役割～

学校薬剤師 平良 仔己子

4. 事務連絡

学校薬剤師部会 副部会長 知名博樹

<報告1>

令和7年12月21日（日）に令和7年度第2回学校薬剤師部会研修会が開催され、現地では約20名、WEBでは約50名のご参加をいただきました。前半は伝達講習、後半は学校薬剤師の平良仔己子氏による講話で進められました。

一つ目の伝達講習は、群馬県で2日間にわたり開催された「令和7年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会」を浦添支部長の池田武俊氏により行われました。

本会は、学校保健関係者の連携のもと、学校環境衛生活動および薬事衛生活動の一層の充実を図るとともに、薬物乱用防止教育や医薬品教育を含む保健教育の推進を目的としており、本協議会において得られた知見や成果を全国各地に展開し、学校保健の質的向上を図ることを趣旨として開催されました。東京大学大学院、岸哲史氏による特別講演は、発達期における睡眠の意義と教育的支援—「子ども睡眠検診」の科学的基盤と実践的展望—と題して、子どもの睡眠が心身の健康の保持・増進に果たす役割について、国内外のエビデ

つる薬局
新垣 紀子



ンスや先行研究を基に解説されました。特に発達期における睡眠の質の低下は、肥満、精神疾患、生活習慣病、心疾患、脳血管疾患等の将来的リスクと関連することが示されました。例えば、脳への影響として、睡眠時間が短い子どもは「記憶の座」である海馬が小さいことや、遅寝遅起きの子どものは、思考や感情、認知機能に関わる脳領域が小さいなど。また、「子ども睡眠検診」プロジェクトの背景、現状および今後の展望についての説明があり、睡眠と学習・行動との関連、科学に基づく評価方法の重要性を強調され、さらに学校・家庭・地域が連携して睡眠教育に取り組む必要性について具体的な提言がなされました。

4つの議題に関する取り組みの発表があり、その中の学校環境衛生活動については、検査の実施にとどまらず、結果の活用・情報

共有・継続的改善が重要と話をされており、様々な場で生徒へのアンケートによる意識調査を実施することで感染対策につながった事例や、数年にわたり教室の照度やまぶしさの改善を要望し続けたことによって照明環境が改善した事例などの報告がありました。また、医薬品に関する教育については、近年、若年層における医薬品の不適切使用やオーバードーズが社会問題化しており、その背景には精神的な「生きづらさ」や誤った情報への接触があると示しており、特に一般用医薬品は入手が容易である一方で、誤使用による健康被害や依存のリスクが高い点が課題として挙げられました。

今回の協議会の伝達をしていただいた池田氏は、「本協議会で得られた学びを、今後の学校薬剤師としての活動に活かし、関係者との連携をより一層深めながら、学校環境衛生および薬事衛生活動の充実に努めていきたい。」と感想を述べていました。

二つ目の伝達講習は、WEB開催された「令和7年度全国学校薬剤師学術フォーラム」について、私、新垣紀子がお話させていただきました。本フォーラムのねらいには「学校環境衛生活動の目的と意義の確認」、「災害時の学校と学校薬剤師の役割」、「新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で得た生活習慣の継続」、「子供たちの今と未来を守る」が挙げられました。

まず、学校保健計画への学校環境衛生検査の位置づけがされているかを確認していただき、それに対して必要な項目の計画がされていたか、実施できた項目のチェック表を紹介しました（資料1）。担当校の実態と法令の遵守状況のギャップを学校側と認識することが大事であること、また揮発性有機化合物や水質基準に関する一部改正点等を解説しました。これまでの換気の実施に伴う結果報告があり、感染症予防における換気の重要性を再認識する機会となりました。

次に、災害時の学校薬剤師の先ずやること

資料1

学校環境衛生検査状況チェック表

令和 年 月 日

| 定期検査 | | | | | |
|------------|------------------|----------|-------|------|----|
| 大項目 | 項目 | 法定回数 | 検査計画月 | 実施回数 | 備考 |
| 換気及び保温等 | 換気 | 2回 | | | |
| | 温度 | 2回 | | | |
| | 相対湿度 | 2回 | | | |
| | 浮遊粉じん | 原則2回(※1) | | | |
| | 気流 | 原則2回(※1) | | | |
| | 一酸化炭素 | 原則2回(※2) | | | |
| | 二酸化炭素 | 原則2回(※2) | | | |
| | 揮発性有機化合物 | 原則1回(※3) | | | |
| 採光及び照明 | 照度 | 1回(※4) | | | |
| | まぶしさ | 2回 | | | |
| 騒音 | 騒音レベル | 原則2回 | | | |
| 水質(飲料水等) | 水質(飲料水等) | (※5) | | | |
| 施設設備(飲料水等) | 施設・設備(飲料水等) | (※6) | | | |
| 学校の清潔 | 大掃除 | 3回 | | | |
| | 雨水の排水溝等 | 1回 | | | |
| ネズミ衛生害虫等 | 排水の施設・設備 | 1回 | | | |
| | ネズミ、衛生害虫等 | 1回 | | | |
| 教室等の物品の管理 | 黒板面の色彩 | 1回 | | | |
| 水質(プール水) | 水質(プール水) | (※7、8) | | | |
| 施設・設備の衛生 | 施設・設備の衛生状態(プール水) | 1回 | | | |

(※1) 伊藤製機や空気調和設備を使用している場合 (※2) 燃焼器具を使用していない場合は省略できる (※3) 温度が高い時期 (※4) 温度及び湿度が高い時期 (※5) 水道水を水道とする飲料水(専用水道を除く)は1回、専用水道に該当しない井戸水等を水源とする飲料水は水道法施行規則に規定する回数、専用水道(水道水を水道とする場合を除く)及び専用水道に該当しない井戸水等を水源とする飲料水の取水は1回、兼用水は2回 (※6) 飲料水(水道水)は1回、飲料水(井戸水)は2回、溜池は原則2回 (※7) 総トリハロメタンは使用中に1回、循環ろ過装置の処理水は1回、その他は使用目的の頻度が3日以内で1回 (※8) 総トリハロメタンの検査は、プール水を1週間に1回以上全検水する場合は、検査を省略することができる。

(沖縄県薬剤師会学校薬剤師部会 令和7年1・2月作成)

(資料1) 学校環境衛生検査チェック表

としてのC (Command&Control指揮と連携)、S (Safety安全)、C (Communication情報伝達)、A (Assessment評価) が紹介され、災害時、指定避難所とされた学校において、避難所の概況や施設の広さ・スペース密度や環境的側面などを含め、学校環境衛生基準を指標に適切な助言をすることが大事であり、避難所での災害関連死の予防につながる点についてもお話ししました。

さらに、災害支援薬剤師と学校薬剤師の連携と課題にも触れ、災害支援チームの中に学校薬剤師を含めることが望まれ、担当校が避難所になった場合の防災訓練を含む体制整備、顔の見える関係づくりが求められ、被災状況の確認や避難所としての協力や学校再開へ向けた検査が挙げられました。被災前後の各期に分けて学校薬剤師の関わり方として、フェーズ0：平時、フェーズ1：救命避難期(発災直後から避難直後)、フェーズ2：生命確保期(避難直後から数日程度)、フェーズ3：生活確保期(発災数日後から数週間程度)、フェーズ4：教育活動再開期(発症数週間後～数か月間程度)、フェーズ5では、心のケアを行い平時へとつながっていくと考えられ、支援者支援のニーズに応じた対応が求められていると再認識する機会となりました。

最後に、これまでコロナ対策で工夫した良い健康習慣は続けてほしいと話を締めくくりました。

研修会の後半は、「色と言葉でつなぐ心のサイン～子供たちのコミュニケーションを豊かにする学校薬剤師の役割～」と題して、学校薬剤師の平良仔己子氏による講話がありました。

まず印象的だったのが、医師は患者を診てお薬を処方します。看護師は患者を看て手当てをします。では薬剤師は…患者を視ることが薬剤師の役割だと思ってお話された冒頭の平良先生の言葉…。「視る」は、「見る」だけでなく、その方の体質、生活習慣、思考習慣まで深く知ろうとすること。「私は、言葉のお薬を処方できる薬剤師になりたい」との平良先生の言葉に、ググっと引き寄せられる思いがしました。誰に・どんな場面で・どのくらい伝えるかを常に意識されているとのことで、研修会に参加している皆さんの言葉や色との向き合い方に少しでも優しいヒントがありますように…とのフレーズから講話がスタートしました。

表現される言葉にはプラスの効果もマイナスの効果もあり、言い回しを変えるだけで人々の心が動いて行動が変わったと。例えば頑固という言葉に対してプラスの表現は信念があると言えるし、マイナスの表現としては融通が利かない等。プラスの面を認めつつ、マイナス面がより響くと考えられるので、マイナス面をより上手に声掛けできると良いだろう、と。言葉の力を使った例として、つらい子どもに寄り添う声掛けとしてのポイントが挙げられました。身体症状の裏にある「心の声」に耳を傾け、「頑張ってるよ」より「応援してるよ」と声をかける方が安心感や前向きな気持ちを届けられるかもしれません。色をきっかけに話を持っていく場合、相手が青い服を着ていたら「その青すごく似合っているね、素敵」など相手を褒めることで相手は心を開きやすくなり、自分の気持ちを添えるこ

とでより親密なコミュニケーションが伝えやすくなると。

「色の選択はその時の心理状態を反映していると考えられ、色が持つメッセージや影響力に意識を向けてご自身や相手との関わりに活かしてみてください。私達がこれまでに経験してきたこと、学んできたこと、迷ったこと、躊躇したこと、うまくいかなかった経験も含めた全てが、目の前のこどもや先生に向き合う時の私達それぞれの専用のツールになっているということ。今日の話が『何か新しいツールを増やす時間』ではなく、自分自身がすでにツールであるということに改めて気付く時間になっていたら嬉しいです。」という優しい言葉で締めくくっていただきました。

質疑応答では、性教育に関する質問、薬物乱用防止教室に関する質問などがありました。

学校から講話を求められたとしても、学校によって求められる内容は異なると思います。養護教諭等と密に連携をとり、今どのような情報が必要なのか、何に困っていてどのように共有したほうが良いのか。それに対応できるよう取り組んでいただけたらと思います。学校薬剤師部会では、学年毎に対応できるよう随時そろえているところです。それをもとにアレンジして活用いただけたらと思います。今後、どのような研修会を聞きたい、このような講話を聞いてもらいたい…など情報提供いただけたら、より実践に沿った研修会ができるかと思っておりますので、ご意見ご要望などお待ちしております。伝達講習でもお伝えした学校環境衛生検査チェック表(資料1)は県薬HPにてダウンロードできるようアップしていますのでご活用ください。

副部会長の知名博樹氏の最後の言葉にもありました、学校薬剤師の仕事は求められることが多く、増えることはあっても減ることはない、と。みんなで協力しながら学校薬剤師を盛り上げていきましょう。



講師
学校薬剤師部会
池田武俊浦添市部長



講師
学校薬剤師部会
新垣紀子部会長



講師
学校薬剤師部会
平良仔己子氏



<報告 2 >

こんにちは。薬剤師10年目の前野こずえと申します。沖縄県薬剤師会へ仲間入りしたばかりですが、次年度から学校薬剤師をぜひやりたいと考えていたところ、研修会への呼びかけをいただき参加させていただきました。

研修会では、災害時における学校と学校薬剤師の役割や、ポジティブな言葉への変換だけでなく、あえてネガティブな言葉で伝える声掛けの大切さ、さらに身につけている色や「気になる色」から心理状況を汲み取る可能性について学ぶことができ、大変興味深い内容でした。

つる薬局
前野 こずえ



その後の茶話会にも参加し、新参者の私に対して皆さんが温かく接してくださり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

今後は患者さんや子供たちの心に寄り添える薬剤師を目指し、学校薬剤師としての活動に加え、地元沖縄に根ざした地域貢献ができる薬剤師として歩んでいきたいと思っております。

卸薬部会

卸勤務薬剤師部会研修会

国の災害時医療活動訓練における医薬品供給訓練の最新情報

講師：和泉邦彦氏

藤田医科大学医学部 地域医療産学連携研究講座 准教授

和泉先生には、厚労省DMAT事務局業務支援検討委員、愛知県災害薬事コーディネーターとして、東日本大震災、熊本地震、新型コロナウイルス感染症、能登半島地震等国内の大規模災害時に、実際に現地で医療活動を行ってきたご経験から、災害時の医薬品供給に関する国の基本計画、県のマニュアル、実災害対応についてご講義いただきました。

1. 厚労省防災業務計画

第2章第5節 医薬品の安定供給の確保

都道府県は「大規模災害時の医薬品等供給システム検討会報告書」（平成8年1月厚生省大規模災害時の医薬品等供給システム検討会報告）等を参考とし、関係者間の情報連絡体制、災害用の備蓄医薬品等の確保方策、保管・管理体制等を内容とする医薬品等の供給、管理のための計画の策定に努める。

2. 薬事関連団体

- ・厚労省防災業務計画：日薬連、卸連、卸組合
- ・医薬品の寄付等：日薬連の会員協会等が、厚労省、日本医師会等の要請を受け供出
- 医療用医薬品：日本製薬工業協会；製薬協（69社）、日本ジェネリック製薬協会；GE薬協（30社）
- 一般用医薬品：日本OTC医薬品協会；OTC協会（75社）、日本チェーンドラッグストア協会（123社）；JACDS（小売業）
- ・医薬品の流通等
- 卸連（68社）、県卸組合：医薬品の備蓄（委託契約）も行う

3. 医薬品流通の仕組み

- ・「卸を介すこと」と、「1施設が複数の卸から仕入れていること」が特徴



沖縄東邦株式会社
山城 聖子

災害時には「製薬会社」⇒「卸」センター⇒「卸」支店等⇒「医療機関・薬局」
このように社を超えた連携が求められる。
・災害時の医薬品備蓄・協定の定式化
厚労省・医師会等が日薬連等に支援要請
都道府県薬務課が卸組合に

「託契約備蓄薬」阪神淡路大震災を教訓に、
外傷・救命用薬剤を中心にランニング備蓄
「優先供給協定」東日本大震災を教訓に、
優先供給協定を締結
薬剤師会・市町村等から災害用備蓄を医薬品集積所へ（管理運営：行政職員・薬事コーディネーター・薬剤師会等）

4. 阪神淡路大震災 総括（指摘事項）

- ・医薬品供給に係る時間：最も問題となったのが、救護所が必要とする医薬品を保健所を通じて要請し、救護所に供給されるまでに膨大な時間がかかったこと。
これは①交通事情が劣悪だったこと、②手続き上の時間のロスがあったため。医薬品の供給に時間がかかりすぎると、実際に救護所に供給された頃には必要でなくなってしまう可能性がある。大規模災害後、時間の経過とともに発生が予想される傷病並びに需要が見込まれる医薬品の種類を予め想定し、各自治体はその責任により独自に備蓄する必要がある。
- ・デッドストック（余剰医薬品）：特に余剰となってしまった医薬品は、災害直後に大

量に必要であったと思われる輸液、注射剤（ブドウ糖注等）、消毒薬、生理食塩水、その他外傷用医薬品等であるが、これは医療用の医薬品の供給を震災発生から1週間後から開始したこと、医療機関への供給を行わなかったことによるものである。

- ・医薬品不足：特に初期には風邪が流行したため、総合感冒薬等が不足。
- ・在庫管理の不徹底：入庫される医薬品がきちんと区別されていなかったため活用できなかった。
- ・代替品の未活用：救護所からの要請や直接集積所に医薬品を取りに来る医師、看護師の多くが銘柄指定であったことも在庫医薬品を増大させた。

5. 熊本地震以降、能登半島地震等での供給の実際

- ・備蓄はそもそも卸に在庫（保健所等に在庫する県もあり）
医薬品卸売業者⇒医薬品等備蓄倉庫・集積所⇒救護所医療チーム、避難所
- ・委託備蓄薬の考え方
 - ①平時は区別なく在庫回転、常に委託分を「プラスα」で備蓄
 - ②災害時に在庫が目減りしても委託分は保持。それまでは元々の在庫で通常通り対応
 - ③いよいよとなった場合委託分を県指示で供給

6. 災害時の通信

- ・災害時の特徴
 - ①通信インフラの被災⇒通信路の容量減少
 - ②通信量：爆発的増加
 - ③使い慣れない機器
多数の利用者が一斉に通信サービスを使用しようとして混み合い、電話やデータ通信が利用しにくくなる状態となる（輻輳）。それにより通信回線事業者は、回線を守るために通信制限をかける。
- ・災害時優先電話：通信制限を受けない
 - ①輻輳を回避して「発信」が優先される（受信側が優先的に受けるということではない）
 - ②公衆電話は、災害時優先電話
 - ③対象は法令で定める指定機関に限られる（一般住民等には公開しないことが一般的）
 - ④あくまで回線が生きていての話

実災害での具体的な経験に基づくご講義から、医薬品供給は「計画」だけでなく「現場で機能する仕組み」でなければならないことを深く学びました。そして「どんなことがあっても、卸は平時と同様に医療機関、薬局にお薬を届けなければならない」という言葉に、災害時医療を支える医薬品供給の覚悟と責任の重さを強く感じました。

お知らせ

保険薬局におけるBCP（業務継続計画）の策定について

保険薬局が感染症や自然災害等が発生した場合であっても、患者に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供できるよう、①新型インフルエンザ等発生時における業務継続計画、②災害時の薬局業務継続計画等を作成いたしました。

本会ホームページに掲載されておりますので、各保険薬局の状態に応じてご作成ください。
災害対策委員会

【掲載先】 沖縄県薬剤師会ホームページ > 会員ページ > 災害対策関連

女性薬部会

令和7年度第2回女性薬剤師部会研修会 「小児の食物アレルギー・アトピー性皮膚炎～最近の話題～」

日時：令和7年9月28日（日）10:00～11:30

会場：沖縄県薬剤師会館及びWEB

講師：崎浜 哲裕氏

ハートライフ病院 小児科部長

ハートライフ病院小児科部長の崎浜哲裕医師より表題に示した通り、ご教授いただいた。

私自身これまで従事した調剤薬局で、アトピー性皮膚炎に悩む小児の治療に携わることが多く、原因や背景を探求したく本研修に参加した。

食物アレルギーとは食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象のことで、この不利益な症状は、魚に含まれるヒスタジンが細菌の持つ酵素によって分解されるヒスタミンを大量に摂取して引き起こすヒスタミン中毒も含むそうだ。しかし、感作を示しても不快な症状がなければアレルギーとは言わない。アレルギーの定義を改めて再確認できた。

消費者庁が示した令和6年度食物アレルギーの年齢分布において0歳が著しく高く全症例の約23%を占めている。即時型食物アレルギーの原因食物分布ではこれまで鶏卵、牛乳、小麦の順が、鶏卵、木の実類、牛乳、小麦と『木の実類』が急増し鶏卵に次ぐ第2位となった。木の実アレルギーはアナフィラキシーを起こしやすいクルミやカシューナッツの輸入量が2010年代に2倍以上増加し家庭環境中の木の実類の抗原量が増え経皮感作が増加した可能性と、木の実類アレルギーで煩雑なのは初発でアナフィラキシーを起こしやすいことを第113回沖縄小児科学会にて沖縄県

メルシー薬局かねぐすく
佐邊 真理



内の共同研究機関でエピペンを新規に処方された15歳以下の小児例を対象とした研究で示された。これにより、緊急時には使用指導を受けた家族や学校・保育園の教職員、救命救急士が代理で使用することができるエピペンだが、アナフィラキシーでなく打ったとしても大きな有害事象がおこる可能性は低く、それより躊躇して重症化するより迷ったら打つことを提言された。実際にアナフィラキシーショックを目の当たりにした時、誰しものが躊躇すると思うが、これを機にアナフィラキシーの具体的な症状などの認識、使用方法の再確認を、エピペンを提供する者として重要なのだと十分理解した。

小児食物アレルギーの変遷を踏まえて、アトピー性皮膚炎治療の新しい選択肢として、デュピルマブやネモリズマブを挙げられた。崎浜医師がそれぞれ治療開始後の経過を示した実証例複数を示され、前者は皮膚の炎症が広範囲、強い症例、後者は痒疹、掻爬、痒みが主体の症例に有効だがその使い分けや出口戦略が重要と教示いただいた。ますます広がる選択肢として生物学的製剤の開発が進んでいる今、病態やその背景を理解し、より良い治療の後押しになれるよう努め、今後の職務に活かしたい。

九山薬学大会

第84回九州山口薬学大会参加報告

会期：令和7年9月14日（日）～15日（月・祝）

会場：佐賀文化会館



沖縄東邦株式会社
鈴鹿 玲子

この度、佐賀県で開催されました第84回九州山口薬学大会に参加させていただきましたのでご報告します。

<共催セミナー「健康の土台をつくる腸内細菌の科学」>

講師：京都府立医科大学医学研究科生体免疫栄養学講座 教授 内藤裕二先生

最近流行りの腸活に興味があったので、聴講しました。講演は「健康の土台」としての腸内環境の役割とそれを維持するための具体的な「予防」策を3つの主要テーマを通じて話されました。

1. 腸内環境と非感染性疾患（NCDs）

腸内環境の悪化は、がんや生活習慣病といった非感染性疾患のリスクを増大させる。

・がん予防と食事

- (1) がんのリスクとなる5つのS（喫煙、砂糖、塩、酒、加工肉）の摂取を避けることが極めて重要。
- (2) 砂糖（清涼飲料水など）の過剰摂取は、若年発症大腸がんや代謝異常性脂肪肝（MAFLD）による肝がんのリスクを上げる。
- (3) 特定の腸内細菌が砂糖を原料に微量のエタノールを作り、これが発がんの原因となりうる（特にアルコール分解遺伝子の少ない人に）。

2. 腸内細菌とフレイル・老衰

免疫力の維持はアンチエイジングの要であり、酪酸はその鍵を握る。

- (1) 健康寿命を脅かす老衰・フレイルの予防にも、腸内細菌が深く関わっている。
フレイルの原因:肥満、糖尿病、高血圧、運動不足、睡眠不足に加え、食・栄養の問題（特にタンパク質と食物繊維の不足）がリスクとなる。

- (2) 酪酸産生菌の重要性: フレイル群では、食物繊維の摂取不足と相関して酪酸産生菌が減少している。
- (3) 酪酸の役割: 酪酸は、食物繊維を発酵・分解して作られる短鎖脂肪酸の一種であり、エネルギー源や免疫のコントロールに不可欠。酪酸受容体を介して免疫、脂肪肝、認知にまで影響を及ぼす可能性がある。

3. 腸内環境と感染症・認知症

感染症予防と神経疾患予防の観点からも、腸内環境や免疫力の維持が重要。

- (1) ウイルス感染と神経疾患: 帯状疱疹などのウイルス感染は、全身、特に神経に長期的な影響を及ぼし、認知症やパーキンソン病のリスク因子となり得ることが報告されている。
- (2) 免疫力の維持: 適切なワクチン接種で感染症を予防することと、酪酸などによる免疫のコントロールを保つことは、全身の健康、ひいては脳の健康を守る上で大切である。

まとめ：健康の土台は「腸内環境の多様性」

日本人が持つべき多様な腸内細菌、特に酪酸を作る遺伝子が、便利な生活や食生活（砂糖、加工食品など）によって失われつつあるというお話がありました。

対策の鍵

全粒穀物、豆類、根菜類、果物といった食物繊維を豊富に摂取し、腸内細菌の多様性を回復・維持することが、がん、フレイル、感染症といった現代の主要な死因全てに対する土台となる予防策となり得るとの事でした。

感想

拝聴して、予防医学の重要性を感じました。特に食生活の見直し（5つのSの制限）、適切なワクチン接種、フレイル予防のための栄養と腸内環境の改善が現代の主要な死因に対抗するための鍵であると思いました。

シンポジウム

「災害に携わる際の心構え～支援者として、また平時の取り組みに関して」

<基調講演1> 特定医療法人 杏仁会 神野病院 理事長・院長 石丸正吾先生

「被災者のこころのケア、支援者のこころの構え～支援活動のミスマッチをマッチに近づけていくために～」

◇DPATの設立の過程、災害関連疾患の経時的変化、時間的経過と被災者の反応、被災者に起きる心理的反応の時間経過について、災害のもたらす心理的影響について、PTSD

◇災害メンタルヘルスの主要概念「災害時のストレスマネジメント」

- ・これは万人が起こすものである
- ・精神障害ではないと考える
- ・被災者を分類するな
- ・その人の持つ潜在能力を中心として考える
- ・ストレス障害は一時災害によるものとは限らないことを忘れるな

⇒ただし、不安はそこにあり続ける

支援活動にミスマッチが起こりやすいのは、求められていることが不確かなところに入っていくためである。支援に入るものが良き「同行者」となるためには？ミスマッチをマッチに近づけるためには、

- ・自らの立場を理解し、自身ができること
- ・できないことを理解すること。
- ・できないことをどこにつなげるのか？
- ・謙虚に

心の癒しはその本人の心の奥底から自然に生じるものである。

◇支援者のメンタルヘルス（チームメンバー

のメンタルヘルス)

- ・躁状態・支援者の善意≠被災者の望むこと
- ・代理被災・燃えつきなど
- ・目撃者や被災者になる可能性もある

◇サイコロジカルファーストエイド

大規模災害・事故等の直後に提供できる、心理的支援のマニュアル。（読んでみてください）

感想：被災者のメンタルケアはもちろん、支援者として入った場合のメンタルケアの重要性も同時に学ぶことが出来、大変勉強になりました。

<基調講演2> 国際医療福祉大学 医学部 糖尿病代謝内分泌学 教授 安西啓三先生

「災害時糖尿病医療支援チーム（DiaMAT）の平時の取り組み」

DiaMAT（ダイアマット）とは、日本糖尿病協会と日本糖尿病学会が設立した「災害時糖尿病医療支援チーム」で、災害時に糖尿病患者を守るための専門的な医療支援組織です。

過去の災害経験から設立され、メンバーには糖尿病専門医、連携医、CDEJ（糖尿病療養指導士）、CDEL（糖尿病療養指導看護師）などが含まれ、その平時の活動の紹介や、能登半島地震の対応について紹介されました。

◇薬剤・物資の供給支援

インスリン、経口薬、自己血糖測定器(SMBG)のセンサーや針、電池などの医療物資の確保と供給を行うとのこと。特にインスリン依存状態の患者への支援が重要。

◇血糖管理と治療に関する指導

避難所や医療機関で、食事の制約がある中でも適切な血糖コントロールに関するアドバイスを提供。低血糖や高血糖への対応、インスリン注射に関する指導。

◇情報支援と安否確認

患者の安否確認や、普段の治療内容（お薬手帳、糖尿病連携手帳など）を把握し、治療を中断しないようサポートの実施。

◇多角的な健康管理

災害時の環境悪化による合併症（特にフットケアや口腔ケア）の予防と対応に関する支援。

◇連携と後方支援

DMAT（災害派遣医療チーム）やJMAT（日本医師会災害医療チーム）、行政、地域の医師会などと連携し、活動を効果的に進めます。JMATと合同で被災地支援を行うケースもある。

◇平時からの準備と教育（防災教育）

発災時に迅速かつ的確に活動できるように、平時からの準備活動も実施。

・医療者向け教育

DiaMATメンバーや糖尿病医療に携わる医療者を対象に、災害医療に関する学習資料の提供や講習会を開催し、知識習得を促す。

・患者向け啓発活動

糖尿病患者とその家族に対し、災害時の備蓄品（薬、インスリン、測定器予備など）や非常時の過ごし方についての防災教育や啓発資料を作成・配布。

・ネットワーク構築

行政、関係団体（医師会、他の学会など）、患者同士のネットワークと、平時から「顔の見える関係」を構築し、災害時の支援体制を整えておくことが重視されます。

特に影響を受けやすい1型糖尿病患者などの情報を医療機関間で共有するためのネットワーク構築を目指します。

（発表1）福岡大学 薬学部 救急・災害医療薬学研究室 教授 江川孝先生

「災害時の初動と薬剤師のための災害対策マニュアルの活用」

全8章からなる改訂版薬剤師のための災害医療マニュアルは、日本病院薬剤師会・災害支援薬剤師、災害薬事コーディネーターの標準的研修を新しく追加した。各省の構成は、CSCA PPPに沿って箇条書きにされてお

り、何をすればよいか簡潔にまとめられている。資料や、参照項目も載っている。直ちに取り組むべきこと、災害時においては支援・受援について、平時の準備、防災対策について、BCP・ACPの作成を啓発する内容について書かれている。

能登半島地震の時から、新しい書式の災害処方箋を利用。新書式では、医師が記入する処方欄、薬剤師が記入するチェック欄があり、薬効群アセスメント（災害時にどのような医薬品が出たのかを集計する）解析することにより、災害現場のニーズを把握することができる。長期的な視点でも、撤収時期や、活動内容の変更のタイミング等を考える資料となる。普段服用している医薬品の確保・避難所でのストレス・食事内容・衛生環境の悪化による感染症・不眠・水分摂取の制限などを把握できる。

災害備蓄医薬品リストより医薬品フォーミュラリができるのではないかと、また、PULL型の支援ができるのではないかと被災地であっても、AMR対策は必要。ベンゾジアゼピン系向精神薬は不眠（中途覚醒や睡眠時間の確保）で使われているが、高齢者にとって、避難所として使われている学校などは段差が多く危険。転倒などの心配あり。リストの中にはプロチゾラムが入っているが、オレキシン受容体拮抗薬も入れてある。ずっとベンゾジアゼピン系を服用されていた方がオレキシン受容体拮抗薬などに変更し離脱症状などが出る心配もあるので残してある。外用薬。ケトプロフェンが多く出ている。光線過敏症が心配なので、ロキソプロフェンテープを採用。エコノミークラス症候群の予防するために、弾性ストッキングがある。適正使用のために、その情報も記載されている。また、エコノミークラス症候群にならないための予防についても掲載されている。

まとめると、災害が起きた時はCSCAでマネージメント体制の確立。続いてPPPで薬事サポートの実践。供給の面では、医薬品だけ

でなく個別化した情報を合わせて被災者に提供することにより、被災地には薬剤師が必要だという意義がある。新しい災害処方箋は薬事データを解析することが可能。準備をしていない場合は新様式で。医薬品フォーミュラリや備蓄医薬品というのは限られた医薬品。限られ医薬品の中で処方提案をするのは薬剤師の腕の見せどころではないでしょうか？とのご講演でした。

（発表2）大分県薬剤師会 災害対策委員会 委員長 谷池仁志先生

「大分県薬剤師会における防災訓練の取り組み」

大分県薬剤師会が参加された防災訓練についての報告や、平時のモバイルファーマシーを使ったイベントや、研修会についての紹介がありました。訓練は、自然災害だけでなくCBRNE災害の訓練も実施されていました。

（発表3）港町調剤薬局 寺元栄一先生

「地域薬剤師会としての災害対応と医薬品供給訓練への参加」

1. 医薬品供給訓練

年に1回、熊本県薬剤師会、地域薬剤師会と一緒に開催。他職種も参加（行政・訪問看護ステーション・医薬品卸など）。

大きな会議室で、県庁・県薬剤師会・被災地 市役所・保健所・地域薬剤師会・救護所・訪問看護ステーションに区分けをして、細かいシナリオが作成され訓練を実施されています。

災害想定は、その地域で起こりうるものを想定。県の医薬品等安定供給マニュアルに基づいて実施。県・県薬・地区薬でシナリオを読み合わせる形で進行。他職種の方も参加。

県、地域薬剤師会の災対本部の立ち上げ、保健医療福祉調整本部の活動、災害薬事コーディネーター、災害支援薬剤師の活動。医薬品集積所、医薬品供給拠点、モバイルファーマシーの運用までの訓練を実施。

併せてクロノロの訓練や仮設調剤所を立ち上げる際の手続きについて等をシミュレート訓練をされているとのことでした。毎年されているとのことで、この繰り返しが大切だと思うとのことでした。

2. 地域薬剤師会BCP

薬剤師のための災害対策マニュアルを参考に、被災した時にどのような活動をするか。またその備えについて考えることが必要。

- ・どこに地域薬剤師会の災害対策本部を立ち上げるのか？

安全な場所の確保の必要性。資機材の保管。CSCAやHeLPSCREAMを意識して本部を立ち上げていく。指揮命令系統の確立は重要。担当を日ごろから決めておく。また、医薬品の供給や支援薬剤師の受け入れ態勢についても準備しておく必要あり。地域の地図や路線図、薬局の連絡先なども備えておく必要がある。被災状況確認用ツールを構築し、日頃から訓練をしておくこと。また医薬品の供給ルートについても考えておく必要がある。

- ・現地（保健所等）保健医療福祉調整本部に災害薬事コーディネーターを派遣する
METHANEを意識して、災害の状況把握をすること。
- ・地域薬剤師会災害対策本部での活動
災害支援薬剤師の把握。メンタルヘルス対策も重要（デフュージングとデブリーフィング）

麻薬、向精神薬、覚醒剤原料、毒劇物などの保管状況の情報を収集、確認。

国や都道府県、市町村等からの情報、連絡事項及び、地域の医療情報などについて、会員や支援薬剤師との情報共有、医薬品供給マニュアルに基づく活動、多職種・登録販売者協会との協力

3. 今後の課題

- ・長期に及ぶ支援
- ・被災者に対するアウトリーチ活動。災害からの復旧・復興
- ・災害時、地域の薬局をどうやって支えて

いくか

薬局は地域の重要な医療資源。災害ボランティアは基本応援に来ない。

薬剤（商品）補償制度（動産総合保険）に入っているか？

- ・地域薬剤師会としての受援計画・体制の整備

4. まとめ

まずは復旧、地域薬剤師会は地域医療を支える。具体的には、いつも通りの開局を目指し被災者の日常を取り戻す。災害支援は発災時から復興期にかけて。地域薬剤師会が自発的に、主体的に動く。指示待ちではない。とこのことを強く話されており、地区薬剤師会での活動の重要性を学ぶことができました。

ぶれいく
たいむ



会員の投稿が掲載されました

転載記事



茶のみ話

夫婦げんか

大城尚美(57)

いつものように仕事帰りに実家へ寄り、夕飯を準備した。この日は出された夕飯を黙々と食べるだけで、一言も話さない父と母。重たい空気のまま時間だけが過ぎていく。父とけんかしたことをこっそり母が話してくれた。

たまたまこの日、学生時代の父を知る母の友人が「(父は)みんなに優しくしたよ」と話していたことを、イライラが収まらない母に伝えてみた。すると母は「そうみたいよ」と父の周りへの接し方を褒めていた。ただ、穏やかな時間が流れたのはその一瞬だけ。母はそのまま部屋へ行き、私もしばらく母の話に付き合った。

その日の母は、リハビリがうまくいかないことにイライラし、ちょっとした父の言動に爆発したという。その次の日も会話はなかったようで、また母の話し相手になった。掛け布団の話になり「寒いからって、父ちゃんがついて来たんだよ。優しいよ」と母。

私も、きつい言葉だとは思ってたけれど「お母さんは後遺症で忘れてるけれど、今まで何度もお父さんはお母さんにきつく当たられてかわいそうだったよ。でもずっと我慢していたんだよ」「こんな嫌な空気の家は来たくないよ」と言ってしまった。

その翌日の朝、弟からラインが来た。「仲直りしたみたいよ。良かったあ！ 80歳を過ぎた結構本気の夫婦げんかに振り回された昨年末だった。今年父のトウシビー。いい年にしたいなあ。」

(豊見城市、薬剤師)

2026・1・5
沖縄タイムス

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

月例相談会

第203回健康とおくすり相談会

日時：令和7年10月25日（土）10：00～16：00

場所：奥武山公園（沖縄の産業まつり）

担当：那覇地区薬剤師会



なかいま薬局
佐藤 俊吾

10月25日に奥武山公園で開催された沖縄の産業まつりで「健康とおくすり相談会」に相談員として参加させていただきました。

当日は室温・気温ともに高く、指導する私たちも相談者も互いに暑い中での指導になりましたが、骨密度測定は特に人気で、特に女性の方に人気のようでした。女性ホルモンの減少に合わせて骨密度が低下していくという事をテレビや身近な情報で聞くことが多いのかもしれない。

私は以前、病院に勤めており、地域での活動に参加するのは初めての体験でした。

骨粗しょう症の治療薬については日々の業務でも患者様に指導していますが、骨密度測定は初めての体験でした。骨密度測定はDEX法、MD法、定量的超音波測定法（QUS法）があり、今回は簡易的な方法のQUS法を実施しました。

骨密度測定後は若年成人（20～44歳）の平均値を100%とした（YAM値）、同性・同年代と比べた時の骨密度の低下度が確認できるレシートのような感熱紙が出てきました。骨密度の勉強自体は大学以来だったので、記載している内容も最初は曖昧でしたが、会場にて、薬剤師会の方々に丁寧にご指導いただき理解も早かったです。



今回の相談会ではお薬に関する質問以外にもサプリメントや食事についての相談も多いように感じました。そして、骨粗しょう症のお薬以外にも併用薬や食事について詳しく確認し相談者に説明することができました。いつもは薬の説明のみで薬局の指導を終える事が多いです。今回は食事面でのビタミンK、ビタミンD、カルシウム等が豊富な食事の指導や運動方法（負荷運動・レジスタンス運動）を学ばせて貰い、相談者への説明に生かす事ができました。

今後の薬局での指導時にも今日の学びを生かし、お薬の指導のみではなく、患者様の声もしっかり聞いていく事を心掛けようと思います。そして、普段の服薬指導の際にも患者様が相談しやすい雰囲気づくりを作っていくよう努めていきます。

今回の相談会で、日頃の自分自身の服薬指導を見直すきっかけにもなり、勉強になる事が沢山ありました。ありがとうございました。



◆健康とおくすり相談員（順不同・敬称略） 相談員10名

吉田 洋史、宮本 直樹、上原 幸代、兼城 明子、岩間 絵里子、佐藤俊吾、大濱勝太、東恩納美月、吉岡将広、木村桃子 相談者数：165名

月例相談会

第204回健康とおくすり相談会

日時：令和7年11月9日（日）10：00～15：00

場所：沖縄セルラースタジアム

担当：那覇地区薬剤師会



たいせい堂薬局 首里店
大塚 成一郎

令和7年11月9日(日)、午前10時からセルラースタジアム那覇の軒下において開催しました。

当日は天気が良く、その日は他のイベント(歩け歩け運動など)も多くあり、開始30分前には数組の方がお願いまーすと訪ねて来られました。相談会は10時にスタートし、常に7～8名は目の前に待っている状態で、薬の質問や説明をしたいのですが、そんな暇は無く、骨密度と血圧測定の結果の説明に終始する状態でした。

他のイベントで多くの方がセルラースタジアム那覇に来場されている関係もあり、おくすり相談会も136名の来場者数となり大盛況でした。また、その日はなかなか少数精鋭の相談員となり、薬剤師会の新人の郡さんも含め、全員でカバーできたので大変充実した相談会となりました。

骨密度に対する関心はかなり高く特に女性の方からの質問が多くみられました。「骨密度が低いとどうなるのか」、「骨折したことがあるが密度は落ちるのか」、「今服用中の薬との関係はあるのか」さまざまな質問を受けました。中にはお薬手帳を持参して詳細を求め

る高齢者の方や、骨密度、血圧測定することで今抱えている疾患、病気のことなどの相談も多くありました。

普段なかなか病院、薬局などで相談できないことから「相談会」があることはとても有効だと感じました。

この欧米化の食生活などで脂質の摂取により動脈硬化、肥満、糖尿病などの疾患、病気が増えています。こういう背景から我々薬剤師も少しでも健康相談の場を増やして「食事指導を含めた薬の服用、説明」などを啓蒙していかなければならないと感じました。地道なことですがこういう機会(場)を通して沖縄県の健康長寿を取り戻せたら良いのではないかと感じた一日でした。

こういう機会があれば、また積極的に参加をしたいと思います。



◆健康とおくすり相談員（順不同・敬称略） 相談員4名

吉田 洋史、盛本 直也、大塚 成一郎、長田 ゆかり 相談者数：136名

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➤ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電話 098-963-8930

➤ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電話 098-963-8935

➤ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➤ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの「かかりつけ薬局」をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
<ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

薬事情報おきなわ No. 288



Medical News

●厚労省～面分業進まぬ薬局適正化-門前薬局立地依存減算へ（薬事日報1月26日）

厚生労働省は23日の中央社会保険医療協議会総会で、2026年度診療報酬改定の個別改定項目案を示し、特別区・政令指定都市に新規出店する医療機関の調剤基本料を適正化する方針を打ち出した。特定の医療機関からの処方箋集中率が85%以上で、一定の処方箋を応需する新規出店薬局は調剤基本料1の算定対象外とし、そのうち医療モール薬局、医療機関近隣の門前薬局、敷地内薬局には「門前薬局等立地依存減算」を適用して所定点数を引き下げる。一方、かかりつけ薬剤師指導料等を廃止し、服薬管理指導料へ統合するなど、大幅な見直しも行われた。

●塩野義製薬ゾコーバ取り違え注意喚起-インフル薬ゾフルーザと（薬事日報1月28日）

塩野義製薬は23日、抗インフルエンザウイルス剤「ゾフルーザ」と新型コロナウイルス感染症治療薬「ゾコーバ」の取り違えによるヒヤリハット事例として67件の報告があったと明らかにし、医療従事者に文書で注意喚起した。日本医療機能評価機構への薬局からの報告事例には、薬剤名が似ていることによる処方誤りのほか、普段とは異なる薬局での混乱の中で注意力が散漫になって起きたケースも散見される。

●厚労省-研究用検査キットで指針～診断薬の該当性明確化（薬事日報1月29日）

厚生労働省は20日、「研究用と称する検査キット等の体外診断用医薬品の範囲に関するガイドライン案」を公表し、体外診断用医薬品への該当性に関する判断基準を示した。診断目的でないことの説明内容が妥当でない、一般消費者が使用することを暗示する表現があるなどの製品は「研究用として妥当でない」とした。一般消費者向けに販売される研究用抗原定性検査キットで標榜事項が体外診断用医薬品に当たると判断された場合、無承認無許可医薬品として取り締まりの対象となる。

●厚労省-虐待疑いは児相に通告を-OTC緊急避妊薬の販売で（薬事日報1月30日）

厚生労働省は28日、OTC緊急避妊薬（要指導医薬品）「ノルレボ」が来月2日に販売開始されることを踏まえ、性

交同意年齢未満の購入希望者が来局した場合の対応などへの協力を関係団体に周知・要請した。産婦人科・小児科の受診勧奨、虐待が疑われる場合は薬局から児童相談所への通告などを想定している。販売に際しては、性交同意年齢である16歳未満の人や性犯被害などが疑われる人を保護するため、販売薬局等・薬剤師と関係機関との連携による対応が求められる。

●抗てんかん薬で添文改定-服用患者の自動車運転可（薬事日報2月2日）

薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会は1月28日、サンファーマの「カルバマゼピン」（販売名：テグレートール）など5成分を含有する抗てんかん剤の添付文書改訂案を了承した。現在は服用患者に自動車の運転など機械操作をさせないように求めているが、関連学会の留意事項を理解した上で、患者の個別状況に応じて操作の適否を医師が判断することが可能となる。厚生労働省は、留意事項を記した情報提供資料を製造販売業者に作成させた上で、改訂を指示する。対象は、▽カルバマゼピン▽バルプロ酸ナトリウム▽ラモトリギン▽ラコサミド▽レベチラセタムの5成分いずれかを含有する抗てんかん剤。

●厚労省検討会～薬局薬剤師の調剤認める-サリドマイド製剤（薬事日報2月4日）

厚生労働省のサリドマイドおよびレナリドミドの安全管理に関する検討会は1月29日、サリドマイド製剤の院外処方・訪問診療に関する対応を手順書等で明確化し、薬局薬剤師による調剤を認める特例も了承した。サリドマイド製剤は医療機関内での処方と薬剤交付を前提としており、服用中の患者が在宅医療を受けることとなった場合の取り扱いが不明確のままとなっている。また、処方医と、同一医療機関に所属する薬剤師が責任薬剤師として安全管理システム上登録され、処方時のダブルチェックや服薬指導等を行っているため、院外処方での対応が想定されていない。

●緊急避妊薬、薬局で販売始まる 処方箋不要、年齢制限なし（薬事日報2月2日）

緊急避妊薬「ノルレボ」が2日、処方箋不要の市販薬として薬局やドラッグストアで販売が始まった。年齢制限はなく、保護者の同意は必要ないが、薬剤師の面前での服用が求められる。取り扱い店舗は全国約7000で、厚生労働省がホームページで公開している。希望小売価格は1回1錠税込み7480円。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2025年
No.12
事例1

疑義照会・処方医への情報提供

残薬調整後の処方漏れ



事例

【事例の詳細】

70歳代の患者の処方箋を応需した際に薬剤服用歴を確認したところ、前回の調剤時に残薬の調整を行い、処方からメトホルミン塩酸塩錠500mgMT「DSPB」が削除されていたことがわかった。今回応需した処方箋にはメトホルミン塩酸塩錠500mgMT「DSPB」が記載されていなかったため、患者に尋ねたところ、医師から服薬中止の指示はなく、残薬もないことを聴取した。処方医に疑義照会を行った結果、メトホルミン塩酸塩錠500mgMT「DSPB」が追加された。

【推定される要因】

医師が処方する際、前回の処方歴にメトホルミン塩酸塩錠500mgMT「DSPB」がなかったため、患者が継続して服用していることを失念した可能性がある。患者は、今回は処方が必要であることを医師に伝えていなかった。

【薬局での取り組み】

残薬を調整するために処方から薬剤が削除になった際は、その経緯を薬剤服用歴に記録し、次回の調剤時に処方漏れがないか確認する。記録が他の情報に埋もれないよう工夫し、電子薬歴システムの申し送り欄にも記載する。



事例の ポイント

- 本事業には、残薬を調整するため処方から薬剤を削除した後、次回の処方時に患者が本来服用すべき薬剤の処方漏れが起きた事例が継続して報告されている。
- 残薬調整のために処方から削除された薬剤は、お薬手帳やオンライン資格確認等システムの処方情報に記録が残らないため、患者が継続して服用している薬剤を他の医療機関の医師が正しく把握できず、誤って同効薬や相互作用のある薬剤を処方した事例も本事業に報告されている。
- 残薬を調整する目的で一時的に処方から薬剤が削除された場合は、削除された薬剤名や理由などを、電子薬歴システムの申し送り欄に明記しておくとともに、お薬手帳にも記載しておくことが望ましい。
- 残薬調整のために処方から削除された薬剤が次回の調剤時に処方再開されていない場合は、患者の残薬を確認し、処方が必要と判断された際は速やかに処方医に疑義照会を行う必要がある。
- 薬剤師は定期的に残薬の有無を確認し、残薬がある場合はその要因を把握することが重要である。残薬が生じる背景に患者の服薬コンプライアンス・アドヒアランスの問題がある場合は、患者に服薬の意義を伝えるとともに、薬剤や用法などの処方変更や一包装調剤などの対応を処方医に提案し、服薬コンプライアンス・アドヒアランスの向上のため継続的な服薬支援を行うことが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jqchc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2025年
No.12
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

投与量



事例

【事例の詳細】

患者は、以前より同一病院の内科と精神科の医師による訪問診療を受けており、処方された薬剤の調剤は当薬局が行っている。内科医から処方された定期薬30日分を交付した2週間後に、内科医からスピロラクトン錠50mgを25mgに減量するよう電話で指示を受けた。薬剤師は患者からスピロラクトン錠50mgを回収し、半錠にして渡し、内科医からの指示とその対応について薬剤服用歴に記録した。その後、内科医の往診が延期になったため、精神科医が往診した際に精神科の薬剤と一緒に内科の定期薬も処方された。その際、スピロラクトン錠は、前回処方時と同量の50mgで処方された。薬剤師は、前回の内科の処方と同じ内容であったため問題ないと判断し、処方通りに調製し交付した。その後、薬剤師が薬剤服用歴を再度確認したところ、前回の薬剤交付後に25mgへの減量の指示を受けて対応していたことに気付いた。

【推定される要因】

精神科医は、前回の内科の定期薬の内容を見て処方したが、内科医が処方後にスピロラクトン錠を50mgから25mgに減量したことは把握できなかった。薬局ではスピロラクトン錠が減量になったことを薬剤服用歴に記録していたが、その後の記録に埋もれており、薬剤師は気付かなかった。

【薬局での取り組み】

薬剤交付後に処方医から電話などにより用法・用量の変更の指示を受けた場合は、薬剤服用歴に記録を残すとともに、後日確認する際に変更内容を見逃さないよう電子薬歴システムの申し送り機能を活用する。



事例の ポイント

- 薬剤交付後に処方医から受けた用法・用量の変更や服薬中止の指示は、薬局のレセプトコンピュータの処方履歴には反映されないことから、薬局で対応した内容とともに薬剤服用歴などに記録を残しておく必要がある。
- 薬剤交付後に処方医から用法・用量の変更や服薬中止の指示があった際の薬局での対応から記録、次回調剤時の確認までの一連の作業について手順を定め、手順書に記載して薬局スタッフ全員で遵守することが重要である。
- 本事例のように、訪問診療では複数の医療機関・診療科の医師が関与するケースが見られる。患者の状態の変化や処方内容、薬局での対応を一元的に管理・共有するには、以下の方法を組み合わせて対応することが有用である。
 - ・ 電子薬歴システムの申し送り機能を活用し、申し送り事項が自動的に表示されるよう設定を行う。
 - ・ 電子薬歴システムとは別に、申し送り事項を記載した患者ファイルを作成する。
 - ・ 患者ごとに担当薬剤師を決めておく。
 - ・ ICT情報連携ツールなどを活用して、在宅医療に関わる複数の職種で情報を共有する。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jqchc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすいため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2026年
No.1
事例1

調剤

一包化調剤における薬剤間違い



事例

【事例の詳細】

薬剤師Aは、患者X、患者Yの順に、自動錠剤分包機でユニバーサルカセットを用いて一包化調剤を行った。薬剤師Bが鑑査を行い2名の患者に薬剤を交付した後、患者Yに処方されたタケキャブOD錠10mgがユニバーサルカセットに残っていることに気付いた。患者Yから薬剤を回収して確認したところ、薬包のうち2包にタケキャブOD錠が入っておらず、患者Xに処方されたエンレスト錠100mgが混入していた。

【背景・要因】

薬剤師Aは、患者Xの一包化調剤を行う際、ユニバーサルカセットにエンレスト錠100mgを14錠入れるべきところ誤って16錠入れたため、分包終了後にはユニバーサルカセットにエンレスト錠100mgが2錠残っていた。続いて患者Yの一包化調剤を行う際、薬剤師Aはユニバーサルカセットの中を確認せずにタケキャブOD錠10mgを入れ、分包終了後もユニバーサルカセット内を確認しなかった。鑑査を行った薬剤師Bは、それぞれの患者の1包目は処方箋の内容と薬剤を照合したが、2包目からは錠数だけを確認したため、分包された患者Yの薬剤が処方内容と異なることに気付かなかった。

【薬局から報告された改善策】

自動錠剤分包機のユニバーサルカセットを使用する際には、使用前後にカセット内に薬剤が残っていないか確認する。業務開始時や終了時にもカセット内の確認を行う。一包化調剤された薬剤を鑑査する際には、1包目だけではなくすべての薬包について処方内容と薬剤を照合する。



事例のポイント

- ユニバーサルカセットは、自動錠剤分包機で使用される多様な形状の錠剤・カプセルに対応できる汎用型カセットである。専用カセットの入れ替え作業や手撒き分包の負担を軽減できる利点がある一方で、使用前後の確認を怠ると、残存した薬剤が別の患者の一包化調剤時に混入する可能性があることに留意する必要がある。
- ユニバーサルカセットの使用にあたっては、薬剤を入れる前と分包終了後に、さらに1日の業務終了時に、カセット内に薬剤が残っていないことを確認する作業を手順に定め、遵守することが重要である。
- 使用する分包機の特性にかかわらず、一包化調剤した薬剤を鑑査する際は1包目のみの照合では不十分であり、すべての薬包について処方内容と分包された薬剤を照合する必要がある。特に複数の患者の薬剤を連続して分包する場合には、他剤混入のリスクが高まることを前提に、より確実に照合を行うことが重要である。
- 調剤機器は年々性能が向上しているが、最新の機器であってもビットフォール（落とし穴）が生じることを念頭に置いて作業する必要がある。安全に業務を行うには、調剤機器を新たに導入した際に調剤機器製造業者の推奨する確認手順を参考にして業務手順書を改訂し、取り決めた確認作業を継続して行っていくことが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jqhc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

[質問] 市販のポリベビーの成分で「酸化亜鉛1000g」と書かれていました。こんなにたくさん入っていて、体に影響はありませんか？

[回答] 製品の説明書を確認したところ、記載されている数値は「1000mg（ミリグラム）」でした。単位の「mg」は「g（グラム）」の1000分の1を表す単位ですので、1000mgはちょうど1gにあたります。ポリベビー1本（10gの製品）の中に、1gの酸化亜鉛が含まれているという意味ですので、決して多すぎる量ではありません。安心してお使いください。

[質問] 1歳の子どもが手足口病で処方されたトランサミンシロップが残っています。今、私が喉を痛めているのですが、この残った薬を服用しても効果はありますか？

[回答] お子様の残ったお薬を服用することはお控えください。トランサミンは喉の腫れや痛みを抑えるお薬ですが、お子様用は体重に合わせて分量が調整されています。大人が服用しても十分な効果が期待できません。処方薬はその方のその時の症状のために医師が選んだものです。たとえご家族であっても、お薬を分け合ったり使い回したりすることは、思わぬ体調不良を招く恐れがあるため、おすすりできません。医療機関を受診するか、ご自身にあった市販薬を選ぶようにしましょう。

[質問] 現在、6種類の薬を服用中です。いつも1錠ずつ水で飲んでいるため、結果的に大量の水を飲むことになってしまいます。一度にまとめて飲んで大丈夫ですか？

[回答] はい、複数のお薬を一度にまとめて服用しても、それぞれのお薬の効き目に影響することはありません。もし医師から水分制限の指示が出ていなければ、コップ1杯程度の水で、まとめて服用していただいても大丈夫です。もし粉薬も一緒に処方されている場合は、錠剤とは別に分けて服用された方が、口の中に残らず飲みやすいかと思えます。

●安全性情報●

[質問] 昨日の朝、一度にイブA錠を14錠、その1時間後に小児用カロナール錠200mgを12錠、その後トローチも服用してしまいました。寝る前に水分を多めに摂りましたが、大丈夫でしょうか。後から心配になりました。

[回答] お薬を指定された用量を大幅に超えて服用さ

れた場合、たとえ現時点で自覚症状がなくても、速やかに内科等の医療機関を受診してください。市販薬や小児用のお薬であっても、一度に大量に服用すると肝臓や腎臓に深刻な負荷がかかります。特にお薬の成分（アセトアミノフェンなど）によっては、服用直後ではなく、数日経ってから重篤な症状が現れるケースもあります。「水分を多く摂ったから」「時間が経ったから」と自己判断せず、医師の診察を受けて現在の状況を確認することがとても大切です。今後は決められた用法・用量を守って正しく服用してください。

[質問] 現在、精神科で11種類のお薬を服用しています。最近、悪口を言われているような幻聴があり、お薬の副作用ではないかと不安です。また、頓服のロキソプロフェンナトリウムを飲んだ後に激しいめまいがありました。薬物依存のような状態で「薬が欲しい」という強い気持ちもあり、今の症状がお薬のせいなのか教えてほしいです。

服用薬：1. ベンザリン 2. デエビゴ 3. レキソタン 4. レバミピド 5. マグミット 6. アルファカルシドール 7. トリヘキシフェニジル 8. メコバラミン 9. チアプリド 10. ギャバロン 11. ロキソプロフェンナトリウム

[回答] 現在服用されているお薬の中には、副作用としてめまいや、稀に幻覚などが報告されているものも含まれています。しかし、今の症状がお薬によるものなのか、ご病気自体の変化によるものなのかを判断するには、医師の診断が必要です。自己判断でお薬を減らしたり中止したりすると、かえって症状が不安定になる恐れがあるため、まずは今のお薬を継続しながら主治医に相談しましょう。今の「幻聴」や「めまい」、そして「お薬に対する不安」については、一人で抱え込まないようにしてください。お薬へのご不安や「薬が欲しい」というお気持ちも、治療を進める上でとても大切な情報です。主治医や薬剤師にお伝えし、これからの対応を一緒に考えてもらうことが大切です。

[質問] PL配合顆粒は小児には飲ませてはいけない薬だと聞きました。今回子どもに処方されたのですが、大丈夫でしょうか。

[回答] ご心配されているのは大人用の「PL配合顆粒」のことと思われませんが、小児向けの2歳から服用可能な「幼児用PL配合顆粒」というお薬もあります。お手元のお薬が「幼児用」であれば、お子様向けに調整されたものですので安全性に問題はありません。一般的には、11歳までは幼児用、12歳以降は大人用が選択



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
消費者専用電話：098-963-8935

されます。大人用と幼児用のお薬は含まれている成分は同じですが、お子様の年齢や体重に合わせて、安全に服用できる量で調整されています。安心してお飲みください。

〔質問〕性器ヘルペスの治療で、パラシクロビル錠、ゲンタマイシン軟膏、キシロカインゼリーを処方された。その日の夜から頭がふらふらしたり、自分の意図しないことが起こったり、気づいたら外にいたりするようになりました。副作用でしょうか。

〔回答〕処方されたお薬のうち、飲み薬のパラシクロビル錠の影響で、稀にそのような症状が現れることがあります。まずは、パラシクロビル錠の服用を中止してください。そのうえで、すぐに処方を受けた病院へ連絡し、今の状況を伝えてください。思わぬ怪我を避けるためにも、体調が落ち着くまでは、できるだけ一人での外出は控え、ご家族などと一緒に過ごすようにしてください。

●妊婦・授乳婦●

〔質問〕現在授乳中ですが、以前頓服として処方されていたクロチアゼパムを服用しても大丈夫でしょうか。1年ほど服用を控えていましたが、症状がつかなく、また飲み始めたいと考えています。服用する場合、授乳までどのくらい時間をあければよいでしょうか。

〔回答〕1年前のお薬は、保管状態によっては品質が変化している恐れがあるため、服用は控えてください。まずは主治医に相談し、現在の体調に合わせた新しいお薬を処方してもらうのが最も安全です。お薬の性質としては、クロチアゼパムは授乳中の服用による赤ちゃんへの影響は少ないとされています。ただし、ごく少量ながら母乳へ移行するため、赤ちゃんに「眠気が強い」「母乳を吸う力が弱い」などの様子がないか、注意して見てあげてください。服用が必要な場合は、授乳の直後に服用することで、赤ちゃんへの影響を最小限に抑えることができます。

〔質問〕妊娠19週です。中絶を考えていたため、中断していたてんかんの薬「ビムパット錠50mg」を昨夜一度服用しました。しかし、その後やはり出産したいという気持ちに変わり、一度飲んでしまったことで、赤ちゃんに影響がないかととても不安になっています。

〔回答〕ご心配されている点についてですが、一度の服用で、すぐにお腹の赤ちゃんに大きな影響が出る可能性は低いと考えられます。ビムパットについては、現時点で赤ちゃんに特別な問題が起きたという報告はさ

れておりません。てんかんの持病があっても、治療を続けながら安心してお産を迎える方法はたくさんあります。一人で抱え込まず、出産したいというお気持ちを主治医の先生にお伝えし、これからの治療についてゆっくり相談していくことをお勧めします。

●ドーピング●

〔質問〕国際大会への出場を予定しているパラアスリートです。市販のサプリメント（EPA・DHA・ナットウキナーゼ含有製品）を摂取しようか迷っています。競技者として服用しても問題ないでしょうか。

〔回答〕世界アンチ・ドーピング機構（WADA）の方針に基づき、競技者によるサプリメントの摂取は基本的に推奨されません。サプリメントは、以下の点に注意が必要です。まず、食品に分類されるサプリメントは医薬品と異なり、全成分の明記が義務付けられておらず、製造過程での禁止物質の混入リスクを否定できません。アンチ・ドーピング規則では、意図的か否かにかかわらず摂取物には選手本人が全責任を負う「厳格責任」が適用されるため、最終的な判断は「自己責任」となります。どうしても摂取が必要な場合は、インフォームドチョイス等のアンチ・ドーピング認証を受け、ロット分析が行われている製品を選択の基準とするよう努めてください。

●その他の質問●

〔質問〕テレビで「農作物にエタノールを散布する」という特集を見ました。異常気象対策としてお米などにも使われるようですが、エタノールの害はないのでしょうか。また、農家が販売用だけに農薬を使っているという話も聞くので、安全性が心配です。

〔回答〕この技術は、国立研究開発法人 理化学研究所や筑波大学などの研究グループが開発した「植物の生きる力を引き出す」新しい取り組みです。散布に使用するのは、お酒の成分としても身近なエタノールですが、それをさらに水で100倍程度に薄めた（濃度0.5～2%程度）、ごく低濃度の水溶液を使用します。これを散布すると、植物は「乾燥や暑さに備えよう」と、体内の水分を保つ力を自ら高めめます。エタノールは、植物が厳しい環境下で自然に作り出すこともある成分です。非常に薄い水溶液を使用するため、お米などの安全性に影響はなく、環境にも優しい技術として期待されています。また、現在の日本の農薬使用基準は非常に厳しいため、販売用、自家用ともに、安全性が確保された同じ基準で育てられていますので、どうぞご安心ください。

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より特集および文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

- ◇ medicina 62 巻 13 号
 - *肺炎の診断・診療エクセレンス
- ◇ medicina 63 巻 1 号
 - *腎臓病診療の“イマ”を日本のトップランナーに聞いてみた
- ◇ エキスパートナース 42 巻 1 月号
 - * 急性腹症の考え方と実践フィジカル
- ◇ エキスパートナース 42 巻 2 月号
 - * 超高齢化社会だからこそ、いま必要! 骨粗鬆症の知識アップデート
- ◇ きょうの健康 12 月号
 - * 減量術、股関節の痛み、転倒・低栄養・うつ
- ◇ きょうの健康 1 月号
 - * 肺炎、心不全、翼状片・下肢静脈瘤
- ◇ 月刊薬事 67 巻 16 号
 - * 眼科領域の副作用
- ◇ 月刊薬事 68 巻 1 号
 - * 抗精神病薬の“ちょうどいい”使い方
- ◇ 産科と婦人科 92 巻 12 号
 - * 地味に進化している!? 定番の婦人科診療をブラッシュアップ
- ◇ 産科と婦人科 93 巻 1 号
 - * どうみる? どうつなぐ? 女性ヘルスケア外来医が診る内分泌・代謝疾患
- ◇ 産科と婦人科 93 巻 2 号
 - * 知っておきたい社会的ハイリスク妊婦への支援 - シームレスな母子支援のあり方 -
- ◇ 総合診療 35 巻 12 号
 - * 総合診療の視点から見た感染症診療 Update この 10 年で変わったものと変わらないもの
- ◇ 総合診療 36 巻 1 号
 - * 総合診療医のための Medical Humanities
- ◇ 調剤と情報 31 巻 16 号
 - * がまんはよくない慢性疼痛がむしばむ“身体”のはなし
- ◇ 調剤と情報 32 巻 1 号
 - * 副作用の早期発見と対応のコツ
- ◇ 治療 107 巻 13 号
 - *【第 1 特集】 エコーを聴診器のように使おう!【第 2 特集】 食べることに、そっと関与する

- ◇ 治療 108 巻 1 号
 - *【第 1 特集】 ケースで学ぶ薬剤性疾患と服薬トラブル【第 2 特集】 いまどきの花粉症診療
- ◇ 日経ドラッグインフォメーション 338 号
 - * 生理痛、更年期障害 - これなら分かる! 女性ホルモン製剤
- ◇ 日経ドラッグインフォメーション 339 号
 - * 医師が語る処方箋の裏側 Special
- ◇ 日本医事新報 5300 号
 - * カリウム異常を制するために“まず”やること
- ◇ 日本医事新報 5301 号
 - * 症例からの学ぶ BPSD の効果的な薬剤調整
- ◇ 日本医事新報 5303 号
 - * 入口としての起立性調節障害! 循環 - 睡眠 - 不登校をつなぐ実践ガイド
- ◇ 日本医事新報 5309 号
 - * プライマリ・ケアにおける希少疾患・難病への対応～制度と連携の理解を深める
- ◇ 薬局 76 巻 14 号
 - * つなぐ緩和ケア
- ◇ 薬局 77 巻 1 号
 - * 薬物治療のエビデンスを散歩するおさらい&アップデート

【今月の論文等】

■薬物療法■

- ▶ えびさんぼ (48) 緩和ケアを行うことで、症状や生活の質は改善しますか?
 - 治療 107 (13) p.6, 102
- ▶ えびさんぼ (49) ランドマークスタディで振り返る 2025 年
 - 治療 108 (1) p.6, 98
- ▶ 高齢者の肺炎 (誤嚥性肺炎) 予防に効果的な治療法はありますか?
 - 薬局 77 (1) p.62
- ▶ 緩和ケアで使用するさまざまな薬
 - 薬局 76 (14) p.33
- ▶ 医師が語る 処方箋の裏側～心不全悪化傾向時にβ遮断薬を漸増した理由
 - 日経ドラッグインフォメーション (338) p.PE001
- ▶ 知っておきたい BZ 薬のリスク
 - 日経ドラッグインフォメーション (339) p.PE014
- ▶ コリスとユリノームはどこが違う

日経ドラッグインフォメーション (339) p.023

- ▶ルーテイン処方 Do処方 異常なし? それってあたり前?
[10] 高齢透析患者のリン管理 - 検査の数値だけでリン
低下薬を調整して大丈夫?

月刊薬事 67 (16) p.137

- ▶" [11] 「眠れない」の訴えに睡眠薬はあたり前? 眠れな
ければ多剤併用・長期投与はやむなし?

月刊薬事 68 (1) p.154

■新薬■

- ▶添付文書から RMP、審査報告書まで 新薬ななめ読み
[62] ドプテレット[®]錠 20mg (アバロンボパグマレイ
ン酸塩)

月刊薬事 67 (16) p.178

- ▶添付文書から RMP、審査報告書まで 新薬ななめ読み
[63] セタネオ[®]点眼液 0.002% (セベタプロスト)

月刊薬事 68 (1) p.198

■安全性情報■

- ▶下痢の原因となったオルメサルタン

日経ドラッグインフォメーション (338) p.PE033

- ▶マンジャロの投与継続が不安な患者

日経ドラッグインフォメーション (338) p.PE035

- ▶フリュザクラ服用中に出現した手の赤み

日経ドラッグインフォメーション (338) p.PE037

- ▶医薬品適正使用・育薬フラッシュニュース

- ・日本で誤嚥性肺炎の報告の多い抗コリン薬
- ・米国で患者へのメッセージ送信はアドヒアランス改善に
効果がない

薬局 76 (12) p.118

- ▶医薬品適正使用・育薬フラッシュニュース

- ・GLP-1 受容体作動薬による眼障害?
- ・喘息患者のステロイド吸入は1日1回午後がよい?

薬局 77 (1) p.110

- ▶構造式で語る医学 | 薬物の交差反応や意外な副作用を
学ぼう! 12

PDE 阻害薬は様々

総合診療 35 (12) p.1447

- ▶ " 13 コレステロールと胆汁酸

総合診療 36 (1) p.81

- ▶抗精神病薬で気をつけるべき相互作用は?

月刊薬事 68 (1) p.93

- ▶腎機能低下・腎障害患者への注意 - 検査値の推移をみる
調剤と情報 32 (1) p.20

- ▶鎮痛薬の常用に注意する

調剤と情報 31 (16) p.63

■薬剤師業務■

- ▶患者本人・家族に医療用麻薬について説明する

薬局 76 (14) p.56

- ▶抗精神病薬-服薬アドヒアランスが悪い人にどうアプ
ローチする?

月刊薬事 68 (1) p.116

- ▶ガイドラインではわからない患者・家族の大切なもの
のための緩和ケア薬の使い方 [15]

がん患者のつらさに薬剤師は何かできる?

月刊薬事 67 (16) p.193

- ▶錠剤嚥下障害患者に対する粉碎不適薬剤の粉碎をなく
すための取り組みと解決法

調剤と情報 32 (1) p.193

- ▶情報の活かし方:重篤副作用疾患別対応マニュアル,RMP,
メーカー資料 - 患者が自分の症状に気づくために

調剤と情報 32 (1) p.20

- ▶医薬品情報領域 - バイオシミラー使用促進に向けた課
題と対策はどうしてる?

月刊薬事 67 (16) p.166

■漢方療法■

- ▶ぐっとよくなる! 漢方処方快訣ビフォーアフター

〈第24回〉病名のつかない身体の不調をどう捉えるか
「陰陽五臓」の概念を活用して現代医学のジレンマを
のりこえる

薬局 76 (14) p.134

- ▶ " (第25回)大昔の病名概念「霍(かく)乱(らん)」
を引っ張り出す意義 21世紀にこそフルに生かせる漢
方治療のメリット

薬局 77 (1) p.117

■在宅医療■

- ▶対話で学ぶ 在宅救急ことはじめ [3]

在宅患者の発熱 その2- 身体所見と治療・ケアの重要性

月刊薬事 67 (16) p.124

- ▶対話で学ぶ 在宅救急ことはじめ [4]

在宅患者の呼吸困難 その1 心不全の軌跡を意識した
治療とケア

月刊薬事 68 (1) p.163

- ▶シームレスな在宅療養への移行に向けた準備

薬局 76 (14) p.98

- ▶初回在宅訪問時に確認すべきこと、やるべきこと

薬局 76 (14) p.105

■その他■

- ▶沖縄県での修学旅行に関連した腸管出血性大腸菌感染
症のアウトブレイク

日本医事新報 (5301) p.65

- ▶生成 AI の活用で医学的ケアの質は改善しますか?

薬局 77 (1) p.86

- ▶薬やビタミンサプリメントでがんは予防できますか?

薬局 77 (1) p.84

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

「検査後にまぶたが腫れる？」フェニレフリン点眼による遅発性アレルギーを見逃さない

月間薬事 12月号

フェニレフリンは選択的 α_1 受容体作動薬で、瞳孔散大筋を収縮させて散瞳を起こす薬剤である。トロピカミドとの配合点眼であるミドリンPは、短時間で散瞳効果が得られるため、眼底検査や眼科手術前に広く用いられる。一方で、全身性高血圧や不整脈など循環器系への影響のほか、局所性アレルギー反応（眼瞼浮腫、搔痒感、結膜充血など）が報告されている。特徴的なのは、点眼直後ではなく、少し遅れて数時間後に症状が出現することが多い点である。そのため、原因薬剤を結びつけにくく、検査の疲れやその他の原因によるアレルギー症状と誤解しやすい。防腐剤アレルギーは慢性使用により徐々に悪化し、乾燥感や充血が持続する。これに対し、フェニレフリンアレルギーは「特定の検査後にのみ、再現性をもって眼瞼腫脹や搔痒感が出現する」点が異なる。薬剤師は、処方薬だけでなく「検査時に使用された薬剤」にも目を向け、患者の発言のなかから副作用の徴候を拾い上げる重要な役割を担っている。わずかな訴えのなかに潜む「検査後だけの症状」を見逃さない姿勢が、患者の安全につながる。

大阪鉄道病院 眼科 西田 真浩
大阪大学大学院医学系研究科 高 静花

抗精神病薬の副作用はどこまで説明すべき？

月刊薬事 1月号

抗精神病薬の副作用は多岐にわたり、薬剤や投与時期によっても注目すべき症状が異なるため、継続的に副作用モニタリングに務める必要がある。副作用の説明において、副作用の怖さで患者を不安にさせるのではなく、正しく理解してもらい、適正使用に導くのが薬剤師の務めといえる。

▶投与初期：過鎮静・眠気は、花粉症の薬など身近な例を出し、特別な副作用ではないことを理解してもらい、注意を促すのも良い。

▶申告されづらい副作用：リスペリドンなどによる高プロラクチン血症のなかには、性機能など患者からは申告しづらい症状もある。薬剤師側から話題を提供するなど、患者の心理的負担の軽減を心がける。

▶家族への説明：特に糖代謝異常や脂質代謝異常など自覚症状に乏しい副作用は、家族も意識しておいてもらいたい。また、遅発性ジスキネジアは自宅などのマスク未着用時に確認しやすいので、共有してもらうことが望ましい。

薬剤師は一方的な服薬「指導」ではなく、患者目線に立った丁寧な説明、患者の意思を尊重した服薬「支援」を実践すべきだと考える。

中田薬店 ゆう薬局
中田 裕介

肺炎の予防をどうするか

medecina 12月号

肺炎は予防可能な疾患であり、ワクチンや生活習慣病改善を通じて発症リスクを減らせる。肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンは、成人肺炎予防の中核を担い、特に高齢者や基礎疾患保有者に推奨される。禁煙や口腔ケアも重要であり、地域や施設での実践が重要である。Patient journeyの考え方に従うと、まず患者自ら気が付く必要がある。肺炎は身近な病気である、肺炎は予防しうることは対象者が自発的に気が付くことは難しい。例えば世界肺炎デーのような啓発イベント、パンフレットの配布や、市民公開講座、CMなどが肺炎のリスクや予防に対する気づきにつながる可能性がある。そして、その次は情報探索のフェーズに入る。例えば、慢性疾患で通院している患者に対する外来通院時の肺炎球菌ワクチンの情報提供等、さまざまな診療機会では医療者は患者に必要な情報をもたらすことが可能である。そして、診断と治療/予防に関しては、肺炎の予防行動を求める受診者に、適切にそのリスクや適応を評価し、最適なワクチン接種を実施できるかなど、医療者が十分な知識を持っていることが重要になるだろう。

慶應義塾大学病院感染制御部
上 義典

妊婦のアセトアミノフェン使用と
児の神経発達症のエビデンス

治療 1月増刊号

2025年、トランプ政権は「妊娠中のアセトアミノフェンは自閉症の原因である」とし、世界的な混乱を招いた。妊娠中曝露という現在の主要論点が本格化したのは、その後の前向き出生コホート研究からである。2010年代から妊娠中のアセトアミノフェンと児の神経発達症の関連を示唆する観察研究は複数報告されている。2021年に、欧州コホートの観察結果に加えて生物学的メカニズムの知見を統合した結果を根拠にBauer・LiewらはNat Rev Endocrinol（世界的な医学誌）に「予防的行動の勧告」を掲載し、議論が大きくなった。著者らは「体内曝露が胎児発達を変えうる」「懸念するに足りるだけの知見がある」と明言した。トランプ政権の発言を契機に、米国産科婦人科学会、米国精神医学会、英国・EU・豪州の医薬品規制当局、WHOなどが「妊婦のアセトアミノフェン服用と自閉症との関連は証明されていない」「妊婦の鎮痛薬として第一選択である」「適正使用で妊娠中も安全」との立場を示した。この騒動は科学誌Natureでも取り上げられ、スウェーデンのAhlqvistらの研究とともに、筆者の研究も紹介され、自身も渦中に巻き込まれている。

国立成育医療研究センター
大久保 祐輔

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

★【日薬幹旋図書】学校と学校薬剤師 2025 年度版 ～広がる活動、求められる役割～

【編集】日本薬剤師会【発行】薬事日報社【発行日】2025年11月
【版型/頁】B5型/300頁【定価】4,290円(税込)【幹旋価格】3,850円(税込)
深刻化する若年層の薬物問題やコロナ禍を経て大きく変化した学校環境、ICT教育の進展など、現代の学校が直面する課題や急速に変化する教育環境に対応するため、学校薬剤師の役割はますます重要になっている。
本書は、学校薬剤師が関わる学校保健(保健管理、保健教育)に必要な知識を集約しており、従来の環境衛生管理にとどまらず、薬物乱用防止教育、医薬品の適正使用指導など、拡大する学校薬剤師の職務を包括的にカバーする実務書。

★【日薬幹旋図書】治療薬ハンドブック 2026

【編者】堀 正二、菅野 健太郎、門脇 孝、乾 賢一、林 昌洋【発行】じほう
【発行日】2026年1月【版型/頁】B6変型判/1,888頁
【定価】4,950円(税込)【幹旋価格】4,400円(税込)
「腎機能」欄が全面リニューアル。
医薬品の腎機能別至適投与量がさっとわかる大好評書籍「腎機能別薬剤投与量POCKET BOOK」の情報が「治療薬ハンドブック 2026」に掲載。
腎機能低下患者への注意度の高さ(重要度)やクレアチニンクリアランス値による至適投与量がひと目でわかる。
アプリがさらに便利に。
薬剤詳細画面に「同規格」タブが追加。これにより、表示されている薬剤と同じ成分・規格単位の医薬品を一覧で確認でき、ジェネリック医薬品やオーソライズドジェネリックの有無、それぞれの薬価などがひと目でわかる。

★【日薬幹旋図書】治療薬マニュアル 2026

【編集】上野文昭、越前宏俊【発行】医学書院【発行日】2026年1月
【版型/頁】B6判/2,976頁【定価】5,610円(税込)【幹旋価格】5,190円(税込)
圧倒的な添付文書情報量!副作用、重要な基本的注意、併用禁忌・注意、作用機序、投与期間上限など、必要な情報を網羅。妊婦・授乳婦リスク分類や専門医による「臨床解説」(適応外使用等)など添付文書以外の情報も充実。後発医薬品や新薬を含む、ほぼすべての医療用医薬品を収録。PC・スマホで利用できる「付録電子版」付き。

★【日薬幹旋図書】今日の治療薬 2026

【編集】伊豆津宏二、今井靖、桑名正隆、寺田智祐【発行】南江堂【発行日】2026年1月
【版型/頁】B6判/1,440頁【定価】5,500円(税込)【幹旋価格】4,950円(税込)
48版目となる医療用医薬品情報集のベストセラー。領域ごとに、薬物療法の“今”を概説した「解説」と、臨床で“今すぐ使える”薬剤情報を凝縮した「便覧」で構成。添付文書だけではわからない、同種・同効薬使い分けのヒントになる「図で見る薬理作用」「同効薬インデックス」「同種薬比較」、さらに妊婦・授乳婦、小児、腎障害患者への薬剤情報など、臨床の支えとなる確かな情報が詰まった一冊。

Book Information

★【日薬幹旋図書】薬価基準点数早見表 令和8年4月版

【発行】じほう【発行日】2026年3月【版型/頁】A5判/986頁

【定価】4,180円（税込）【幹旋価格】2,310円（税込）

薬価基準収載医薬品を、「内用薬」「外用薬」「注射薬」「歯科用薬」の投与経路別に、商品名の50音順に配列し、主要点数早見表（薬剤部分のみ）、薬効別分類表を収録した医療事務必携の書籍。局方品目の銘柄名、請求に使用できる略称なども本文に掲載。統一名収載品目の製品も各銘柄名から検索が可能。診療報酬上評価される後発医薬品や、先発医薬品、準先発品、経過措置品目などにマークを付してわかりやすく表記。

★【日薬幹旋図書】保険薬事典 Plus+ 令和8年4月版

【編著】薬業研究会/編【発行】じほう【発行日】2026年3月

【版型/頁】A5判/1,032頁【定価】5,280円（税込）【幹旋価格】4,730円（税込）

同一成分の剤形や規格単位ごとの薬価を調べられるだけでなく、「適応・用法」情報も確認することができ、さらに適応外使用に係る公知申請が認められているものについても記載。また、ジェネリック医薬品の適応・用法違いの確認においても最適で、一般名からも商品名からも検索できる医療用医薬品リストの好評定番書籍。

★【日薬幹旋図書】薬効・薬価リスト 令和8年版

【編著】医薬情報研究所/制作【発行】じほう【発行日】2026年4月

【版型/頁】B5判/1,130頁【定価】7,370円（税込）【幹旋価格】6,600円（税込）

レセプト業務向けに、薬価基準収載医薬品の薬価、効能・効果、用法・用量、禁忌・併用禁忌、保険の扱い（厚生労働省保険局通知の概要）を1冊に収録。「内用薬」「外用薬」「注射薬」「歯科用薬剤」の投与経路別に商品名の50音順に掲載し、後発医薬品、先発医薬品、準先発品などにわかりやすいマークを付している。投与日数に制限のある内用薬・外用薬一覧付で、「保険メモ」（厚生労働省保険局通知の概要）も掲載、さらに各製品の「YJコード」と「レセ電コード」を記載。

★【日薬幹旋図書】投薬禁忌リスト 令和8年版

【編著】医薬情報研究所【発行】じほう【発行日】2026年4月

【版型/頁】B5判/1,130頁【定価】4,840円（税込）【幹旋価格】4,400円（税込）

“投与しない”“授乳中止”などの禁忌事項がある薬剤のみをピックアップし、製品名50音順に掲載しているので一度引きで確認できる。併用禁忌の欄では、表組を採用、“↑”“↓”の記号を用いて表現を簡潔にし、見やすくまとめている。重大な副作用は、症状のみを列記し、発現頻度は具体的な数字があるものだけをピックアップ。巻末には「飲食物・嗜好品等と医薬品の相互作用一覧」等の付録を収録。

★【日薬幹旋図書】調剤報酬点数表の解釈 令和8年6月版

【発行】社会保険研究所【発行日】2026年6月【版型/頁】未定

【定価】5,280円（税込）【幹旋価格】4,510円（税込）

薬局関係者必携、保険調剤のすべてを収載した定本で調剤報酬の算定・請求に必要な情報を徹底網羅。調剤報酬の算定・請求に必要な情報を、実務上活用しやすいよう編集し、法令上の根拠とともに示している。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

- (1) 医薬品情報の提供 (2) 「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3) 医薬品に関するお問い合わせ
(4) 消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (5) ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室及びドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。お気軽にご利用ください。

○会員の利用方法

医薬品等に関するご質問は、電話、ファクシミリで受付けています。また、情報センター所蔵図書
の閲覧、文献調査、オンラインデータベース・インターネット利用等の目的で直接お越しいただく
場合は、係の者が対応致しますので、なるべく事前にご連絡下さい。

TEL：098-963-8931 FAX：098-963-8937

沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

2025・2026年版

「アンチ・ドーピング 使用可能薬リスト」公開のご案内

公益財団法人 日本スポーツ協会 (JSPO) のホームページにて、2025・2026年版「アンチ・
ドーピング 使用可能薬リスト」(有効期間：2025年12月1日～2026年12月31日) が公
開されております。前回版(2025年版。2025年1月1日発行)から、販売中止となった医薬
品を削除、新しいあるいは使用頻度の高い医薬品を追加する等の修正を行うとともに、2026年
禁止表国際基準(世界アンチ・ドーピング機構 [WADA]) の内容に伴い改訂した最新のリスト
です。ぜひご活用ください。

また、本リストは例示であり他にも使用可能な医薬品があります。リストで確認できない場合
は、「Global DRO※1」や「薬剤師会ドーピング防止ホットライン※2」をご活用ください。

なお、市販薬については製品名が完全に一致しているかを必ずご確認ください。

※1 Global DRO (禁止表国際基準にもとづいた検索サイト)

<https://www.globaldro.com/JP/search>

※2 沖縄県薬剤師会ドーピング防止ホットライン

沖縄県薬剤師会ホームページ> アンチドーピング関連

試験検査センターからのお知らせ

1 計画的試験を実施しています

令和7年度 計画的試験を以下の項目で実施しています。

①ベラパミル塩酸塩錠の定量試験 ②漢方薬の細菌試験

試験検査センター利用契約を結んでいただいている薬局へ封書にて、検体提出などについてご案内しました。提出期限は1月31日です。検査終了後、成績書をお送りしますので、管理日誌に記載お願いいたします。

2 日薬 薬事衛生連絡協議会・技術研修会（東京にて開催）へ参加しました

令和7年11月26日に東京の日本薬剤師会にて開催された薬事衛生連絡協議会・技術研修会へ参加しました。日本薬局方の第19改正や国際調和活動、CBD製品の分析法など試験に関する様々な情報を得る機会となりました。

3 今月の雑耳学

【日本薬局方における確認試験・純度試験】

今回は、日本薬局方における確認試験・純度試験について解説します。

「**確認試験**」とは、医薬品または医薬品中に含有されている主成分などをその特性に基づいて確認するための試験である。「**純度試験**」とは、医薬品中の混在物を試験するために行うもので、その混在物の種類及びその量の限度を規定する。この試験の対象となる混在物はその医薬品を製造する過程または保存の間に混在を予想されるものまたは有害な混在物などである。

（第十八改正日本薬局方より引用）

例示として医薬品各条の無水エタノールとエタノールの**確認試験・純度試験**を解説します。

まず無水エタノールとエタノールの**確認試験**には赤外吸収スペクトル測定法が用いられます。

フーリエ変換赤外分光光度計を用いて対象試料のスペクトルと参照スペクトルを比較することで成分を同定します。無水エタノールとエタノールのスペクトルはほぼ同じ形状となりますが、1600cm⁻¹付近の吸収の有無で両者を判別可能です。

続いて無水エタノールとエタノールの**純度試験**には、「溶状」、「酸またはアルカリ」、「揮発性混在物」、「その他の混在物（吸光度）」、「蒸発残留物」の5項目があります。

「溶状」は本品に水を加えて混和させることで水と混和しない混在物を確認します。

「酸またはアルカリ」はフェノールフタレイン試液による比色法で混在物を確認します。

「揮発性混在物」はガスクロマトグラフィーを用いてメタノールやアセトアルデヒド、アセタールやベンゼンなどの揮発性混在物が基準値以下であることを確認します。

「その他の混在物（吸光度）」は紫外可視吸光度測定法を用いて混在物由来の異常なスペクトルがないか確認します。

「蒸発残留物」は本品を蒸発させ残留物の重量で混在物の量を確認します。

日本薬局方には医薬品ごとに確認試験や純度試験の他にも定量法や特定の試験など様々な機器や試薬を用いた試験方法が記載されています。



ひきつづき利用契約推進中！

会員のための検査センターをモットーに頑張っています。

※利用契約の詳細は、以下の連絡先に連絡下さい。

連絡先：試験検査センター 電話：098-963-8934 Mail：siken@okiyaku.or.jp

転載記事

日本薬剤師会会員数、沖縄県薬剤師会が唯一の2桁増！

2026年1月21日水曜日

PHARMACY NEWSBREAK 3006号



日薬会員数、沖縄で2桁増

若手病薬向けキャンペーンなど実施

先月末に公表された2025年10月末時点の日本薬剤師会の会員数報告によると、45都道府県で前年度から会員数が減少していた一方、沖縄県が唯一の2桁増となった。沖縄県薬剤師会の前濱朋子会長は、じほうの取材に対し、チェーン企業からの入会者増加や、若手病院薬剤師向けのキャンペーン実施など、組織強化に向けた努力の積み重ねの成果だと述べた。

25年度の日薬会員数は9万9666人。24年度から1671人減少し、10万人の大台を割った。都道府県別に見ると、45都道府県で減少し、増加したのは沖縄（24人増）と滋賀（1人増）のみだった。

● 25年10月末時点の日薬会員数

| 都道府県 | 会員数 | 対前年度 | 都道府県 | 会員数 | 対前年度 | 都道府県 | 会員数 | 対前年度 |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 北海道 | 4263 | -102 | 福井県 | 496 | -3 | 山口県 | 2549 | -5 |
| 青森県 | 1346 | -18 | 山梨県 | 806 | -1 | 徳島県 | 807 | -16 |
| 岩手県 | 1677 | -34 | 長野県 | 2188 | -42 | 香川県 | 1257 | -37 |
| 宮城県 | 1392 | -21 | 岐阜県 | 1350 | -11 | 愛媛県 | 2014 | -1 |
| 秋田県 | 1522 | -32 | 静岡県 | 2404 | -42 | 高知県 | 786 | -22 |
| 山形県 | 1123 | -44 | 愛知県 | 4052 | -12 | 福岡県 | 4394 | -47 |
| 福島県 | 1269 | -42 | 三重県 | 2174 | -17 | 佐賀県 | 985 | -4 |
| 茨城県 | 1783 | -45 | 滋賀県 | 1099 | 1 | 長崎県 | 1395 | -14 |
| 栃木県 | 1105 | -19 | 京都府 | 3507 | -1 | 熊本県 | 2062 | -24 |
| 群馬県 | 1192 | -34 | 大阪府 | 7475 | -217 | 大分県 | 1512 | -2 |
| 埼玉県 | 2468 | -44 | 兵庫県 | 7694 | -223 | 宮崎県 | 1459 | -37 |
| 千葉県 | 2677 | -64 | 奈良県 | 960 | -2 | 鹿児島県 | 1916 | -14 |
| 東京都 | 6532 | -111 | 和歌山県 | 908 | -13 | 沖縄県 | 1225 | 24 |
| 神奈川県 | 3171 | -90 | 鳥取県 | 778 | -18 | 特別会員 | 617 | -153 |
| 新潟県 | 1821 | -30 | 島根県 | 994 | -29 | 合計 | 99666 | -1671 |
| 富山県 | 947 | -12 | 岡山県 | 1922 | -47 | | | |
| 石川県 | 815 | -22 | 広島県 | 2778 | -31 | | | |

前濱氏は、地域別の分析を行ったところ、チェーン企業からの入会者が多い傾向にあったと説明。また、23年度から実施している、40歳以下の病院薬剤師を対象に入会金無料、年会費半額とするキャンペーンが周知されてきたことも要因に挙げた。学校薬剤師など、地域貢献活動への参加を目的に入会する動きもあるという。

沖縄県薬によると、認定薬剤師の育成を支援する県の事業では、薬剤師会会員であることが対象条件となっていることから、若手の病薬の入会が毎年、少人数ながらあるという。また、沖縄は人口10万人当たりの薬剤師数が全国最下位で、慢性的な薬剤師不足が続いているという課題認識が会員間で共有されているとも説明。1つの施策で大幅に増加を見込むことは難しいため、薬局開設者が自身の薬局の勤務薬剤師に入会を働きかけることも含め、地道な取り組みを継続的に進めているとしている。

[許諾番号20260122_01]

株式会社じほうが記事利用を許諾しています。



「落語」

今回リレー随筆のバトンを受け取りました、備瀬愛実と申します。

テーマは自由ということなので、ここ数年で好きになった落語についてご紹介したいと思います。

きっかけは、知人に誘われて寄席に足を運んだことでした。興味本位で訪れた「国立劇場寄席」では、落語をはじめ、何も書いていない紙にハサミを入れ即興でイメージを作り出す紙切り、撥や鞠、傘を使って皿や茶碗を回す太神楽曲芸、そして漫才など、多彩な演芸が上演されていました。初心者私でも飽きることなく楽しめる内容で、一気に引き込まれてしまいました。

特に印象的だったのが落語です。正直なところ、始まる前は「江戸時代の文化だし、聞いても理解できないかも」と不安に思っていました。しかし、落語家はまず時事ネタや軽妙な小話で笑いを誘いながら、自然と本題の演目へと移っていきます。扇子や手ぬぐいを巧みに使い、一人で複数の登場人物を演じ分けるその姿は、まさに芸術そのものでした。場面の移り変わりや人物の感情が見事に表現され、話の世界にどんどん引き込まれていきます。聞き手の想像力を刺激するその力に、すっかり魅了されてしまいました。

この時は4つの演目が上演され、人情噺、滑稽噺、怪談などバラエティに富んだ内容でした。笑わせるだけでなく、しみじみと心に残る話もあり、落語の奥深さに感動しました。

その後も年に1～2回は寄席に足を運んでいます。通ううちに「古典落語」と「新作落語」という言葉も覚えました。古典落語は、江戸から明治時代に生まれた演目の中から、時代を超えて語り継がれてきた普遍的な物語です。滑稽話や感動的な人情話などがあり、格式と味わい深さが魅力です。一方、新作落

みさと虹薬局
備瀬 愛実



語は大正時代以降に作られたもので、現代社会や日常生活を題材にしたものが多く、時に笑いながらも考えさせられるような内容が特徴です。古典と比べると、わかりやすく親しみやすい面白さがあります。

印象に残っているのは、古典落語の代表作「芝浜」です。あらすじは、毎日働かずにぐうたらしている魚屋の男が嫁にせつつかれて働きに行き、その道中、芝浜で大金の入った財布を手に入れます。夫はその大金をあてに仲間とどんちゃん騒ぎをした挙句そのまま酔って寝てしまい、起きると財布は無くなっていて、焦る夫に女房はその財布の存在を「夢」と言って否定し、真面目に働くきっかけにしようとする、という話です。人情の温かさが描かれており、笑いとともに深い教訓を伝えてくれる作品でした。

また、おすすめの落語家は「ためしてガッテン」の司会をしていた立川志の輔さんです。古典、新作ともに素晴らしく、ユーモアにあふれており、テンポのよい話ぶりは圧巻で、観客をあっという間に物語の世界へ引き込んでくれます。よく沖縄で上演されているようなので、機会があればぜひ足を運んでみてください！



志の輔落語の演目



寄席の紙切り
お題「花火」を1～2分で仕上げる

次号には、みさと虹薬局の中塚 泰子 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

第73回 暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう

女性薬剤師部会
副部長 狩俣 イソ



「沖縄ぬちぐすい事典 尚弘子監修」でイシャナカシグサの名が目につきました。和名をコヘンルーダと言い、沖縄一、成分的には世界一とも言われる薬草とのことです。初めて聞く名前なので、早速調べてみました。

コヘンルーダ：イシャナカシグサ

学名 *Ruta chalepensis* L.

科名 ミカン科 Rutaceae

属名 ルタ属 *Ruta*

使用部位 葉、茎、花

有効成分 アルカロイド、カフェタンニン、フロクマリン類、サポニン、フラボノイド、精油



【コヘンルーダの特徴】

コヘンルーダ、沖縄産は「小片ルーダ」「医者泣かせ草」と呼ばれる。昔から沖縄本島北部に自生しているミカン科の顕花植物で、地中海原産、高さ60～90cmまで成長する多年草。葉は、青灰色を帯びたものと黄色みの強いもの、斑入り葉のものなどがあるが、複数の節に分かれ、さらに小さな小葉に分かれている。対生し、二回羽状複葉で、サンショウを少し甘くしたような香りがある。丸みを帯びたなめらかな葉がレース状に茂る。花期6～7月で、茎頂に黄色の小花が散房花序につく。花序は花の房で、それぞれ4～5枚の鮮やかな黄色の花弁があり、縁は巻き込み、縁飾りが付けられている。果実はざらざらとした球形の蒴果で、尖った裂片に分かれている。

【コヘンルーダの歴史・用途】

沖縄では古くから重宝されており、コヘンルーダ茶など健康飲料として利用されている。大和本草やマトボソウの考柱本（白井光太郎・1932）の記述した本には、古くに渡来したヘ

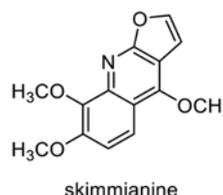
ンルーダをコヘンルーダと呼び、明治維新前後に渡来したものをヘンルーダと呼ぶ。コヘンルーダには、花弁の縁に毛状細裂がある。両者は微妙な形態を除いてほとんど差はない。伝統的に発熱や炎症など多くの病気の治療に使用されている。

【ヘンルーダ *Ruta graveolens*】

ヘンルーダは、生薬名では芸香ウコウという。しおりに使うと本の虫食いを防ぐと言われた。「眼鏡のハーブ」と呼ばれるほど視力を高める効果があると信じられていた。内服薬としては、主に駆風、通経（月経の改善）、鎮静、鎮痙、消炎、抗ヒステリー、駆虫薬などとして使用されるが、通経作用があるので妊婦には禁忌。外用薬としては、軟膏あるいはガーゼや布に冷ました煎じ液を含ませて、痛風やリウマチの痛み、打ち身や捻挫などに使用され、虫刺されやしもやけにも応用される。

アルカロイドのアルボリニン・スキミアニン、フラボノイド配糖体のルチン、フロクマリン類のベルガプテン、コクサギニンなどを含む。全草に精油（メチルノニケトン、メチルヘブチルケトン、ピネン、シネオール）を含み特異な芳香がある。

【スキミアニン *Skimmianine*】

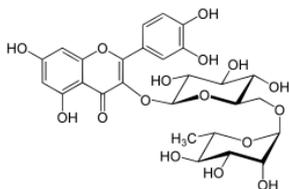


スキミアニン

実験検証の結果、スキミアニンは細胞生存率に影響を与えることなく、濃度依存的に多核破骨細胞の形成を阻害することが明らかになった。また、破骨細胞関連遺伝子の発現も抑制された。スキミアニンはERp57駆動の力

ルシウム振動 / カルシニューリン / Nfatc1 シグナル伝達を抑制することで破骨細胞形成を抑制し、**骨粗鬆症治療の有望な代替療法**となる可能性が示された。

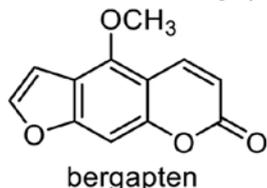
【ルチン Rutin】



ルチンは薬草として用いられていたミカン科のヘンルーダから発見された柑橘フラボノイド配糖体の一種。化合物名は単離されたヘンルーダの学名 *Ruta graveolens* による。

ルチンは強力な**抗酸化作用**を持つ。毛細血管の強化による出血予防、生活習慣病（高血圧、動脈硬化、脳卒中など）の予防、血流改善、心疾患リスクの低減に効果が期待される。ビタミンCの吸収促進により、コラーゲン生成促進や美肌効果も高まる。目の健康維持、筋肉分解の抑制、血糖値の安定化、糖尿病予防にも役立つとされる。

【ベルガプテン bergapten】



ベルガプテン BG

・BG 単体での主な効能

抗がん作用: 膵臓がん細胞の増殖を強力に抑制しアポトーシスを誘導する。

アルツハイマー AD病への効果: 神経炎症を抑制し、アミロイドβの沈着と神経炎症を軽減、認知機能改善の可能性が示唆されている。BGはMAPキナーゼシグナル伝達経路を阻害することで神経炎症反応を抑制し、AD病理を緩和する可能性がある。

抗菌・抗炎症作用: 関節リウマチ、神経炎症 その誘導体にも抗菌・抗炎症作用が期待できる。

・ベルガモット精油（ベルガプテン含有）の効能

精神面: 不安やストレスを和らげ、気分を明るくリフレッシュさせる、リラックス効果。
身体面: 消化促進、食欲増進、自律神経の調整、抗菌・抗ウイルス作用、ストレスによる肌荒れ改善など。

重要な注意点：光毒性（光感作）

ベルガプテンは光毒性を持つため、ベルガプテンを含む精油（通常のベルガモット精油など）を肌に塗布した状態で日光やUVに当たると、シミや炎症を引き起こす可能性がある。

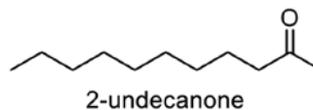
【コヘンルーダの精油の化学組成】

2-ウンデカノン (77.18%)、2-デカノン (8.96%) および2-ドデカノン (2.37%) であった。2-ウンデカノンは花から得られる精油特有の成分 (100%) であった。プレゴンは茎の精油にのみ (約 32.11%) 検出され、カンファーは葉の精油にだけ (2.46%) 検出された。精油の成分の同定は、ハーブの薬理活性の理解に役立つ。

【生薬α-ピネンによるBDNF発現誘導の研究】

BDNF（脳由来神経栄養因子）遺伝子の発現レベルは90分α-ピネン群の嗅球と60分α-ピネン群の海馬で有意に増加したことから、α-ピネンの作用には嗅球と海馬のBDNFが関与していること、及び脳部位により作用時間に差があることが分かった。α-ピネンはドーパミン神経を活性化して運動亢進を誘発する可能性が示唆された。これらの結果は、匂い分子の影響が嗅覚刺激と脳内移動の両方を介していることを示唆している。

【2-ウンデカノン：メチルノニルケトン】



2-ウンデカノンは、香料の中間体や溶剤として利用されている。

主に抗炎症作用、特に喘息による気道炎症や微粒子 (PM2.5) 誘発性の腎臓炎症を緩和する効果が研究されており、NF-κB 経路を阻害することで炎症反応を抑えることが示されている。微粒子誘発性の炎症において、**細胞内の不要なミトコンドリアを除去するオートファジーの一種ミトファジーを誘導する効果**も示唆された。

参考：薬草・野草のページ、KKウチダ和漢薬、Academia Care Net、ニューロテックメディカル、熊本大学薬学部薬用植物園 植物データベース、東邦大学薬学部生物学科、富山県薬剤師会

薬連だより

第47回自由民主党沖縄県支部連合会女性局大会参加

日時：令和7年12月13日（土）11:30～13:00

会場：東洋飯店 那覇店



<次第>

1. 開会の挨拶
2. 女性局長挨拶
新垣あやこ 豊見城市議会議員
3. 令和7年活動報告
4. 令和7年決算報告
5. 令和8年活動方針
6. 令和8年活動計画
7. 令和8年予算
8. 大会宣言
9. 役員承認及び新役員紹介
10. 表彰式
11. 閉会の挨拶

この度、第47回自由民主党沖縄県支部連合会女性局大会に初めて参加させていただきました。

南城市長選挙や名護市長選挙をはじめ、今後も選挙が続きますので、ご協力をお願いするとともに、頑張ってまいりましょうとの事でした。

また、女性で立候補や政治に興味のある方を募集中とのことでした。

表彰式では5名の方が表彰を受けました。

活発に活動されている看護連盟の方々にもお話を伺いました。議員の方々との勉強会を開催されているとのこと、大変刺激になりました。さらに、多職種連携に関する話題が上がり、医師連盟、薬剤師連盟、看護連盟等が合同で勉強会や今後の社会への取り組み、方向性を議論できる場を設けていくべきとの話がされました。

沖縄県薬剤師連盟
副幹事長 鈴鹿 玲子



参加者の皆様は、沖縄県がより良くなること、そして女性が活躍できる社会を目指し、熱心に活動されている様子でした。

今回の参加を通じて、沖縄県薬剤師連盟が政治とどのように連携し、その力を活かしていくべきかを考える貴重な機会をいただきました。このような機会を与えてくださり、心より感謝申し上げます。

沖縄県薬剤師会においても、政治力の重要性について広く認識していただけるような発信や活動を、今後展開していきたいと思いました。

薬連だより

政幸だより

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸

日新製薬の山形工場を視察

2025年10月1日、自民党厚生労働部会の薬事に関する小委員会委員長の田畑裕明衆議院議員とご一緒に、日新製薬様の山形工場を訪問し、無菌製剤専用の第8工場と錠剤とカプセル剤を製造する荒谷工場を視察させていただきました。

第8工場は2017年に竣工した無菌製剤専用工場で、点眼剤や注射剤の製造を行っておられます。ポリエチレンボトルの注射剤はガラスアンプルに比べて使いやすいため、製造方法に興味がありました。注射薬の製造には巨

額の設備投資を必要とするため、他社からの製造委託案件が増加しているとのことでした。その結果、多品目かつ小ロット生産が増え、資材の入れ替え作業に時間を要しているとお聞きしました。荒谷工場は2013年に竣工した固形製剤工場であり、一般製剤に加えて高生理活性製剤の製造が行われていました。

いずれの工場も人為的な誤りを最小限にすることを目的に、製造管理、品質管理、製造実績データ、空調管理、品質イベント情報管理にシステムが導入されていました。それぞれのシステムを連携させることで部門間の情報共有が可能となり、異常があった場合、タイムリーな対応が可能です。実際の作業はすべてタブレットを用いて入力する管理体制が整備されていました。

現場では人材確保が最も深刻な課題となっていました。天童地域では製造業を中心に人材獲得競争が激しく、慢性的な人手不足が続いており、計画していた人員の確保が追いついていません。これは同社のみならず、国内のジェネリック医薬品業界全体に共通する問題とお聞きしました。

今回の視察を通じ直面する課題は「人材確保」「設備投資」「需給調整」の3つがポイントだと思いました。特に人手不足はいたるところで発生している問題であり、医薬品供給体制の持続可能性にも直結する問題です。企業努力を支えるためにも、積極的な支援が必要であることを改めて認識しました。



薬連だより

オレンジ日記

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



「強い経済」の実現と国民のいのちと暮らしを守るために

年が変わり受験生にとってはシーズン真っ盛りのこの頃、何かと慌ただしい年度末を間近に控え、如何お過ごしでしょうか。

昨年12月26日の「仕事納め」の日、年内最後の閣議が開かれ、来年度（令和8年度）予算案が決定しました。国の基本的活動に用いられる一般会計は約122兆3,100億円を計上し、今年度（令和7年度）よりも7兆円余りの増額となりました。

医療・介護等の社会保障関係費は約0.76兆円増の39兆600億円となり、令和8年度診療報酬にあつては令和8年度と令和9年度の2年度分の平均としてプラス3.09%を確保し、施設類型（病院、医科診療所、歯科診療所、保険薬局）ごとの費用構造や経営実態を踏まえた改定を行うこととなりました。

社会保障関係予算のポイント（財務省ホームページ「令和8年度予算政府案」）

https://www.mof.go.jp/policy/budget/budger_workflow/budget/fy2026/seifuan2026/index.html

今回の予算編成にあたっては、主たる原資となる税収の伸びが当初から期待されていましたが、社会保障関係費については、例年に違わず年度当初から、年々増加する社会保障費について「財政健全化」や「社会保障の持続可能性」を強く訴える意見と、物価高対策や賃上げ実現が公定価格の下では困難であり経営が逼迫しているとの主張との間で厳しい協議・調整が行われました。

一連の医療・介護等分野の物価・賃上げ対

策に関しては、令和6年度診療報酬改定以降の経済情勢の下での物価・賃上げへの対応状況や経営状況の深刻さが増すに連れ、6月の「骨太方針2025」の策定に向けた党内議論において自民党議員の多くが危機感を持って粘り強く議論を戦わせて、高齢化による増加分に相当する伸びに「経済・物価動向等を踏まえた対応に相当する増加分を加算する」と書き込むことで、今後の予算編成に関する議論の起点とすることができました。

その後、高市政権の下で、「生活の安全保障・物価高への対応」を始め3つの柱から成る『強い経済』を実現する総合経済対策～日本と日本人の底力で不安を希望に変える～」を策定し、昨年12月には「医療・介護等支援パッケージ」を盛り込んだ令和7年度補正予算の成立によって、報酬改定の時期を待たずに経営の改善及び従事者の処遇改善につながる補助金を措置することで改定効果を前倒しすることができました。

続けて令和8年度予算案の編成に向けて力を緩めることなく、前述の「骨太」を礎に自民党内の部会・調査会での議論、とりまとめ文書の党幹部への提出、さらには医療・介護・障害福祉サービスを担う関係団体と共に党幹部や政府への申入れ等を行いました。

これまでの取組を実際のものとするため、補正予算の執行状況を注視し、追加的措置の検討も行いながら、通常国会での令和8年度予算の早期成立に向けて取り組んでまいります。

転載記事

本会・本連盟の古謝玄太副会長が、沖縄県知事選挙に立候補の意思を固める。



古謝玄太氏

金城委員長は会合の後、記者会見を開き「実際に知事選を戦い抜く現実性、組織づく

りや共闘への姿勢、多様な人たちと協力していけるかどうかという点を重視して評価を実施した」と説明した。選考委の決定を伝えられた古謝氏は会見に同席し「委員会と連携しながら県民の声を幅

広く受け止める体制づくりに取り組む。暮らしを前に進める県政を実現するために一つ一つ積み重ねて責任ある行動をしていく」と語った。米軍普天飛行場移設に伴う名護市辺野古の新基地建設につ

(3面に関連)

秋の県知事選に向けて経済団体などをつくる保守系の県知事選挙候補者選考委員会（金城克也委員長）は11日、那覇市内で会合を開き、那覇市副市長の古謝玄太氏（42）の擁立を決定した。古謝氏は立候補の意思を固めており、出馬に向けて準備を進める。今後、自民党と連携し、公明党や日本維新の会、国民民主党、参政党などに支援を呼び掛ける予定だ。

古謝氏が立候補へ 知事選 保守系、選考委が擁立

いては「これからしっかりと考えていきたい」と述べるにとどめた。

選考委は経済団体や医療系団体などで2025年11月に発足。自薦・他薦を含めて立候補希望者を公募し、5人に絞り込んでいた。名護市辺野古の新基地建設反対でまとまる「オール沖縄」勢力は、現職の玉城デニー知事（66）の擁立を決めた。複数の関係者による

琉球新報
令和8年1月12日（月）掲載

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

転載記事

2026年1月14日水曜日

PHARMACY NEWSBREAK 3001号



沖縄県知事選、那覇副市長の古謝氏が出馬へ 県薬副会長、保守系選考委が擁立

今年9月の任期満了に伴う沖縄県知事選で、経済団体などをつくる保守系の県知事選挙候補者選考委員会は13日までに、薬剤師資格を持つ那覇市副市長の古謝玄太氏(42)の擁立を決めた。

古謝氏は同日までに自身のSNSを更新。正式な出馬表明は改めて行うとした上で、「大学時代から志していた『誰もが挑戦できる沖縄』、そして、政治の役割である『明日に希望が持てる社会』をつくるべく、全力で邁進していく所存だ」と意欲を示した。

古謝氏は那覇市出身。東京大薬学部を卒業後、2008年に総務省に入省し、長崎県財政課長などを歴任した。22年7月の参院選沖縄選挙区に自民党新人で立候補し落選。同年12月から那覇市副市長、23年6月からは県薬剤師会副会長を務めている。

[許諾番号20260114_01]

株式会社じほうが記事利用を許諾しています。

お知らせ

沖縄県薬剤師連盟の各SNSをご覧ください！

This block contains a photograph of seven members of the Okinawa Pharmaceutical Association standing behind a banner that reads '沖縄県薬剤師連盟' (Okinawa Pharmaceutical Association). Below the photo are two social media promotion cards. The left card is for Instagram, showing the handle '@okinawa.renmei' and a QR code. The right card is for Facebook, showing the name '沖縄県薬剤師連盟' and a QR code. Both cards include icons for 'Like/Follow', 'Message', and 'Search'.

当連盟の活動をご覧のうえ、ぜひ、いいね、シェアをお願いいたします。

転載記事

琉球新報 令和8年1月12日(月) 掲載

玉城氏と一騎打ちへ

知事選 古謝氏出馬へ

経済団体などをつくる保守系の県知事選挙候補者選考委員会が那覇市副市長の古謝玄太氏(42)の擁立を決めた。名護市辺野古の新基地建設反

単眼 複眼

もともと古謝氏は知事選出馬の意欲を周囲に語っており、有力視されていた。約350人の署名を集めた若手経営者から出馬要請され、資金面や支援組織の体制なども含めて用意周到に進めてきた環境づくりが結実した。



保守系の県知事選挙候補者選考委員会(左から)古謝玄太氏、金城克也委員長、米須直明副委員長。11日、那覇市的那覇商工会館所

選挙協力拡大へ動き活発化

対でまとまる「オール沖縄」勢力からは現職の玉城デニー氏(66)が立候補する見通しで、秋の知事選に向けて軸となる者が出そろった。両勢力とも選挙協力の枠組み拡大を目指して動きを活発化させている。(一面に関連)

「県民党」

選挙では委員に自民県連の議員が入らないなど「自民色」を薄めた候補者選考の形式を取った。背景には「自民党だけでは勝てない」(島袋大東連会長)という考えがある。「県民党」(金城克也選考委員長)を掲げることで、他党支持層や無党派層に支持を広げる狙いだ。40代で若年層の人脈も強い古謝氏を擁立することで「今までと違う選挙(選挙・選考関係者)」を展開できると期待されている。

金城委員長は選考中の段階から公明党や日本維新の会、国民民主党、参政党などへの働きかけを始めている。候補者が決まり、各党との協議を本格化させる。

自民県連関係者は「オール沖縄がピークだった頃とは政治状況が違う。ウイングの広げ方によっては、現職の知事に対して保守が巻き返す可能性がある」と語った。

取り込み

保守系の中心となる自民、対するオール沖縄の両勢力とも、知事選で有利な構図をつくるために他の政党や団体の取り込みを試みる。

国政で自民との連立を解消した公明党の関係者は「自民との協力も今まで通りではない。だが、急にオール沖縄に行くこととない」と語る。連立解消後も県内の選挙では自民と同じ候補者を推薦することが多い。推薦を見送った選挙でも、オール沖縄とは足並みをそろえておらず「自主投票」にとどまる。

辺野古「スタンス考える」

古謝氏会見要旨

保守系の県知事選挙候補者選考委員会の金城克也委員長、古謝玄太氏らの記者会見での主なやり取りは次の通り。

投票結果の内訳は。金城氏 内訳は話すべきではない。全会一致で決まったと理解していた。

協力を求める政党は。金城氏 参政、維新、公明、国民民主、自民党には選挙結果が決まったらぜひ協力をしてくれと話している。決まったので、再度、協力を要請していく。

ことほしないはずだ」と指摘。「そのために衆院選などで自公協力で示点があることを数字で示す必要がある」と語った。

高市早苗首相が早期の衆院解散に踏み切れば、衆院選で各政党がそれぞれ党勢拡大を目指す見込みだ。衆院選で協力体制が整えば知事選に向けた前例となる一方、利害が食い違う場合には摩擦が生じる恐れもある。衆院選が今後の選挙協力を占う試金石となり得る。(明真南斗)

古謝氏 大学時代からいすれば沖縄に戻って県知事を志して誰もが挑戦できる沖縄をつくりたいという思いを持ってきた。若者にとどまらず子供や高齢者らさまざまな立場の人が明日に希望が持てる社会づくりを、一つのビジョンとしながら政策や支援体制を考えていきたい。

金城氏 直近ではない。「県民党的立場で選挙をしないと勝てない」という声があった。参院選を終結する立場にはないが、応援した候補は負けた。政党を中心とした今までの戦い方では勝てないだろう。

古謝氏 非常に重く、難しい問題なので、どういふスタンスを取っていくかは、これからしっかりと考えていきたい。

金城氏 非常に重く、難しい問題なので、どういふスタンスを取っていくかは、これからしっかりと考えていきたい。

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

転載記事

琉球新報 令和7年12月16日(火) 掲載

古謝玄太氏に出馬要請 知事選へ「次世代のつどい」

若手経営者や起業家、学生らでつくる「げんたに沖繩の未来を託す次世代のつどい」は15日、那覇市内で古謝玄太那覇市副市長(42)に來秋の知事選に出馬するよう要請した。宮里早香代表(薬正堂社長)が要請書を手渡した。

古謝氏は「家族や職場、支援者らと相談しながら判断していきたい」と述べた。一方で大学生時代を振り返り「沖繩で挑戦できる環境をつくるのが知事が担う一つの使命ではないかと考え(当時)志を決めた」とも語った。

宮里代表は「世代や立場を越えて声を聞きながら、医療・福祉、経済・スタートアップ、国と地方自治を立体的に捉え、民間の挑戦を後押しできるリーダーシップが不可欠だ」と話した。福地組の福地一仁社長が共同代表を務める。約350人が賛

同していると説明した。來秋の県知事選に向けては、保守系候補者を選ぶ経済団体などの選考委員会が21日まで希望者を募っている。複数の関係者によると、古謝氏自身も意欲を示しており、選考が有力視されている。(明真南斗)



古謝玄太氏(右から5人目)に知事選出馬を要請する「げんたに沖繩の未来を託す次世代のつどい」の宮里早香共同代表(同6人目)ら15日、那覇市東町

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

会報原稿募集のご案内

広報委員会



おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します)。

☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp

転載記事

北部地区薬剤師会の取り組みが紹介されました。

2026年1月20日 火曜日

PHARMACY NEWSBREAK 3005号



厚労省事業で地域フォーミュラリ普及へ

沖縄県北部地区薬、多職種研修会や GL 配布

沖縄県の北部地区薬剤師会は、厚生労働省の「地域医薬品提供体制構築推進事業」のモデル事業として、地域フォーミュラリの普及・拡大に取り組む。医療従事者向けの研修会を開催するほか、実施ガイドライン（GL）を医療機関・薬局に配布する。

レセプトデータの分析も予定しており、推奨する医薬品の銘柄の絞り込みに道筋を付けたい考えだ。

じほうの取材に応じた浅沼健一会長は、「マンパワーの限られている地域薬でも、関係者の協力の下、地域フォーミュラリを主導することは可能だ」と述べ、他地域への横展開に期待を寄せた。

北部地区薬は、医薬品卸の営業所がないなど、地域の医薬品流通の課題解決策として、地域フォーミュラリに着目。三師会を中心に委員会を組織し、2024年12月に3領域から運用を開始した。その後も着々と対象領域を増やし、現在は▽スタチン系脂質異常症治療薬▽歯科鎮痛薬▽インフルエンザ治療薬▽PPI・P-CAB▽抜歯時抗菌薬▽前立腺肥大症治療薬▽ARB▽ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬▽ARBとジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬の組み合わせ▽第2世代抗ヒスタミン薬一の10領域にまで広がっている。

●レセプトデータの活用も

厚労省事業では、すでに実施している地域フォーミュラリをより発展させる施策として130万円の予算を組み、B申請（モデル事業）で採択された。具体的な施策として、医師・歯科医師・薬剤師を対象にした研修会を企画し、地域フォーミュラリの周知を進める。また、地域にある120の医療機関・薬局に対し、日本フォーミュラリ学会が作成した「実施GL」を郵送し、実施の意義について理解を促す。このほか、地域フォーミュラリを検討する委員会の開催費用にも充てる。さらに、レセプトデータの使用料も計上しており、分析結果を今後の検討の参考にしたい考えだ。

浅沼氏は、北部地区では医薬品の流通に限られる一方、離島住民などで「明日まで待つ」ことが困難な場合もあるため、地域フォーミュラリで1領域当たり2～3種類の銘柄まで絞り込むことが理想だと指摘。そのためには、レセプトデータを分析し、地域の流通実態を明らかにすることが重要になるとの考えを示した。現在、地区薬では、運営する「医薬品備蓄センター」で事務職員が各薬局への「急配」に対応しているが、「地域で流通する医薬品」を集約すれば、センターの効果的・効率的な運用にもつながると見通している。

浅沼氏は今回、他地域での横展開を見据えたモデル事業として取り組むことについて、同じような医薬品提供体制の課題を感じている地域はあるはずと指摘。「決してわれわれは余裕があるわけではないが、スピード感を持って地域フォーミュラリの運用を開始できた」と強調した。その上で「地域フォーミュラリは、存在することで大きなメリットを生み出す。われわれの取り組みが、他地域を勇気付けるものになればいい」と述べた。

[許諾番号20260120_01]

株式会社じほうが記事利用を許諾しています。

転載記事

会員の活動が紹介されました

沖縄タイムス 令和7年12月16日 (火) 掲載

日本発の医療NGO活躍

県女性の翼カンボジア研修報告①

又吉智賀子



開業2日目で歓迎ムード一色のカンボジアの新空港「テチヨ国際空港」に到着、あまりの広さと豪華さに驚きました。これが国内総生産（GDP）成長率5%超えの国なんだと実感しました。2014年に国際平和の創造、特にアジア太平洋地域の平和の構築・維持への貢献が評価され、第7回沖縄平和賞を受賞したジャパンハートことも医療センターを視察しました。「日本発祥の国際医療NGOがなぜカンボジアに？」との疑問は、カンボジアの歴史を学び理解できました。1970年代後半の波尔・ポト政権下での知識層（政治家や医療者、教師

希望と活気に満ちた国民

など）の大虐殺や内戦により医療は崩壊。医療をはじめ国の復興には海外からの支援が不可欠でした。

講師の嘉数真理子医師は沖縄県出身で、神白麻衣子院長も沖縄勤務経験があり、とても親近感が湧きました。病室はほとんどが大部屋で仕切りがなく、大家族のようです。手術前の怖さや薬の副作用のつらさなども、みんなとなら乗り越えられると思えるのでしよう。嘉数医師は「手術の内容は説明して納得してもらおう。子どもちゃんとは話は理解できます」と話します。常に患者と真摯に向き合い、信頼関係を構築する様子が見えます。

また「医療だけでは救えない。水道や道路、電気などのインフラ整備や政治、経済の安定と教育が重要」とも話しました。現在、ジャパンハート病院では小児がん患者の生存率を2割から6割ま

で高め、積極的な人材育成で持続可能な医療支援を目指しています。

カンボジアで印象的だったのは、皆さんが常に笑顔で感謝し、「今日より明日は良くなる」と希望的で活気に満ちあふれていることです。また、現地ガイドの「国境付近での紛争時は国や家族を守るために戦う覚悟がある」という言葉にハッとしました。隣国と陸続きで常に緊張感があり、祖国に対する誇りも伝わってきました。

個人の尊厳や、国・家族・命を守るために何ができるかを共に考える事が男女共同参画の第一歩だと改めて実感しました。そして子どもや女性の不安を取り除き、生き抜く力を育む支援をしたいと思えます。

◇ 県女性の翼（垣花悦子会長）の第42期8人は9月、海外研修でカンボジアを訪れた。視察や交流から感じたことを報告してもらう。

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

転載記事

会員薬局が紹介されました

沖縄タイムス 令和7年12月12日（金）掲載

オンラインで服薬指導

人口格差 振興策を問う

⑤

第2部 展望

「体調はどうですか。前回と同じく、20日分のお薬を出しますからね」

那覇市のすこやか薬局鶴原店で9月、薬剤師の新田邦宏さん(63)が画面越しに和やかな会話を交わっていた。

会話の相手は、南大東村の島民。「連携店舗」と呼ばれる現地の拠点と結んでオンラインによる服薬指導を行い、処方箋も沖縄本島からここに届ける。薬剤師のいない「薬局」で薬がもらえる全国的にも珍しい取り組みだ。他に与那国町で実施している。

もともと両島には、それぞれ一つずつ薬局があった。しかし運営していた旧I&H（兵庫県）が別会社に買収されたことに伴い、今年5月末での撤退が決定。医療提供体制が根本から揺らぎかねない

薬局撤退

事態になった。
薬局の引き継ぎを打診されたのが、県内ですこやか薬局40店舗以上を運営する調剤薬局大手の薬正堂（沖縄市）だ。とはいえ、もともと薬剤師が不足しがちな上、離島に薬剤師を派遣することもでのやり方では採算が見込めなかった。



薬局がない地域では、診療所内で医師が薬を処方するケースもあった。

南大東・与那国に連携店舗

「入もある。しかし診療所も多忙な上に、在庫の中から出せる薬の種類は限られる。薬局撤退の期日が迫り、最終的には薬正堂が支援に乗り出すことを決めた。」

光明となったのが、新型コロナウイルスの流行で2020年にオンライン服薬指導が解禁されたこと。もともとは感染を防ぐための臨時的な措置だったが、利便性が高く普及した。すこやかHD未来創造室の坂本政文室長は「離島やへき地とオンライン服薬指導は親和性が高い」と話す。

患者が自宅から服薬指導を受ける手法も一案としてあったが、島にはパソコンやスマートフォンに慣れていないお年寄りが多く、自宅への配送は追加の送料がかかり患者の負担になる。機器の操作や通信環境、決済手続きなどの壁もあった。

そこで考え出したのが、旧薬局施設を連携店舗として活用する手法だ。

診療所で診察を受けると、処方箋はファクスやアプリで本島のすこやか薬局に送られ、薬剤師は連携店舗に来た住民にオンラインで服薬指導する。ここなら機器の操作は現地のスタッフが手伝ってくれたり、窓口で現金払いできたりと、お年寄りも利用しやすい。オンラインと対面の長所をそれぞれ取り入れた形だ。

処方箋は日本トランスオーシャン航空（JTA）の協力を得て貨物機へ優先的に搭載してもらい、おむね翌日に両島に届く。自宅ではなく連携店舗にまとめて送ることで配送期間を短縮。スタート直後の6月は南大東で285枚、与那国で260枚の処方箋に対応した。

課題は採算性。店舗の賃料やスタッフの人工費のほか、薬の配送費も薬正堂が負担し、現状では赤字だ。今後は送料の公的補助や診療報酬の見直しを求めたり、連携店舗を役場や郵便局に置かせてもらったりすることも視野に入れているという。

「薬の提供を途絶えさせてはいけない」という使命感でチャレンジした。地元企業として、地元の課題解決に貢献したい」と坂本室長。持続可能な離島医療の実現に向け、模索を続ける。
(政経部・大川藍)

南大東島の島民にオンラインで服薬指導する薬剤師の新田邦宏さん(63)が、那覇市・すこやか薬局鶴原店

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

転載記事

前濱朋子会長のお母様が紹介されました。

琉球新報 令和8年1月29日（木）掲載

戦火越え、たんす「里帰り」

90年ぶり沖縄刑務所へ

許田千恵子さん(89)寄贈

受刑者によって製作された和たんすが時を超え、約90年ぶりに沖縄刑務所に「里帰り」した。たんすは戦前に、刑務所から松田俊子さん（1997年に死去、享年86）に「婚礼家具」として渡ったもの。保管していた娘の許田千恵子さん（89）が那覇市で昨年、沖縄刑務所に寄贈した。戦火を逃れ、家族の歴史と共にそばにあったたんす。那覇市西支所での感謝状贈呈式で、千恵子さんは「小学生から『きょうだい』のようにすっとたんすと一緒だった。預かってもらえてうれい」と万感の思いを込めた。



許田千恵子さんが沖縄刑務所に寄贈し、沖縄矯正展で展示された和たんす（2025年12月13日、宮野南市の琉球コンベンションセンター）

たんすは受刑者が刑務される。表面の木材は当時作業で製作する製品で、1 最高級の県産セシダン。扉934年ごろに完成したと、引き出しの鍵穴には法務省の紋章「五三桐」の彫金細工が施される。

受刑者の更生を目指す「教養」に携わる真教寺（那覇市西）の住職と松田家につながるがあり、婚姻した俊子さんの元に渡ったとみられる。

千恵子さんが生まれた後、日本はアジア太平洋戦争に突き進む。天妃国民学校の教員だった父・賀直さん（享年34）は44年8月、学童の引率で対馬丸に乗っ



（左から）松田賀直さん、賀直さん、俊子さん（右）松田千恵子さん提供

母の婚礼家具、歴史と共に



沖縄刑務所の中村志郎所長（右）から感謝状を受け取る許田千恵子さん（中央）と、娘の上原朋子さん（15日、那覇市横川の那覇拘置支所）

た。船は悪石島沖で米潜水艦が撃沈。賀直さんは奄美大島南部の古仁屋（現・瀬戸内町）の海岸に漂着後、息を引き取ったとされる。千恵子さんは母と祖母のちに琉球新報のカメラマンになる弟・賀勝さんの4人で、父より先に宮崎へ疎開していた。当時、小学2年生だった。わらを敷き詰めた倉での暮らしたが、家主は豊かで「不自由は感じなかった。他の方は苦勞されていたはず」と振り返る。

たんすは沖縄に残されていた。戦前の松田家には年季奉公として働いていた若い女性がいて、たんすは国頭村奥間出身の女性とともに、北部疎開していた。約3年の疎開生活を経て終戦後、4人で沖縄に戻った。戦で焦土と化した故郷。「トラックに乗せられ（中城村）久場崎から山原まで移動した」とおぼろげに覚えている。

母・俊子さんは国頭中学校で教員になり、コザ高や琉球政府文教科局などを経て那覇高で定年を迎えた。その背中を追うように中学の教員も経験した千恵子さん。約30年前に母を亡くし、たんすは家に置くには大きすぎると処分も考えた。だが、母の転勤と共にたんすはいつも近くにあった。「狭い家に4人で住み、大きなたんすにくっついて寝ていた」

そう懐かしみ、悩んだ末にたんすが作られた沖縄刑務所に引き取ってもらおうと考えた。昨年10月、沖縄刑務所に手紙を出し寄贈が認められ、12月には宮野南市での九州矯正展で展示された。手紙を受け、たんすの受け取りを決めた沖縄刑務所の中村志郎所長は「たんすは当時の受刑者の技術と勤勉の結晶。戦火を乗り越え姿を保ち続けた歴史的価値がある」と寄贈に感謝した。千恵子さんの娘・上原朋子さん（52）は「沖縄中を転々とし、最後に『里帰り』できて良かったね」とたんすをねぎらい、「今後は貴重な資料として受け継いでもらえたらうれい」とほへんだ。（西田悠）

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

令和7年12月

- 1月○松本純先生の旭日大綬章受章祝賀会 横浜ベイホテル東急 前濱会長
- 1月○令和7年度第3回医療保険委員会 県薬研修室
- 2火○**令和7年度第1回適正服薬等に関する研修会** 県医師会館 阿部専務理事、吉田理事、事務局：松堂
- 4木○沖縄県UIターンガイダンス（九州医療科学大学）九州医療科学大学 沖縄県薬務生活衛生課：喜屋武千早、事務局：大城事務局長・平安山
- 4木○令和7年度地域医薬品提供体制構築推進事業 地域医薬品情報共有システム説明会 県薬研修室 盛本理事、喜屋武理事、事務局：比嘉
- 8月○令和7年度第8回業務執行理事会 県薬会議室
- 9火○九州厚生局長来訪（新任あいさつ） 県薬会議室 前濱会長、阿部専務理事
- 11木○令和7年度第1回試験検査センター委員会 県薬研修室
- 12金○**令和7年度第3回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会** 県薬ホール・Zoom 講師：渡邊暁洋氏（兵庫医科大学 危機管理医学講座 特任助教）
- 13土○令和7年度第2回沖縄県認知症疾患医療連携協議会 沖縄県総合福祉センター 保健福祉委員会：中尾滋久
- 13土○令和7年度第9回理事会 SORAHOTEL
- 14日○**令和7年度第4回女性薬剤師部会研修会** 県薬研修室
- 15月○沖縄県薬剤師会百周年記念事業 第1回記念式典・祝賀会実行委員会 県薬会議室
- 17水○令和7年度第1回県医療提供体制協議会 県庁 前濱会長
- 17水○令和7年度第2回地域医薬品提供対策小委員会 県薬会議室
- 18木○沖縄県薬剤師会百周年記念事業実行委員会第1回全体会議 県薬ホール
- 21日○令和7年度第9回学校薬剤師部会役員会 県薬研修室
- 21日○令和7年度第2回学校薬剤師部会研修会 県薬研修室
- 22月○令和7年第3回沖縄県保険者協議会 沖縄県庁 阿部専務理事
- 23火○沖縄県社会保険診療報酬支払基金事務局長来訪 県薬会議室 大城事務局長、長嶺主任
- 23火○**令和7年度第1回青年薬剤師部会主催研修会** 県薬研修室
- 25木○令和7年度薬事功労者厚生労働大臣表彰状等の伝達表彰式 県庁 受賞者：村田理事 同席：前濱会長・大城事務局長
- 25木○美ら島レスキュー2025第1回打ち合わせ 県薬会議室・Zoom 姫野常務理事、知念理事、鈴鹿理事、坂口結斗、長嶺主任

令和8年1月

- 5月○令和7年度第9回業務執行理事会 県薬会議室
- 8木○初薬師 県薬神殿
- 8木○株式会社スズケン沖縄社長来訪 県薬会長室 前濱会長、阿部専務理事、大城事務局長
- 8木○沖縄県歯科医師会 新年祝賀会並びに令和7年度受賞合同祝賀会 ザ・ナハテラス 前濱会長、古謝副会長
- 9金○令和8年沖縄県小児保健協会新年会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 前濱会長
- 10土○沖縄県看護協会 受賞祝賀会並びに新年会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 前濱会長、古謝副会長
- 10土○令和8年沖縄県医師会新年祝賀会・医事功労者表彰式・受賞祝賀会 琉球大学病院長なら

- びに琉球大学医学部長退任・就任激励会 ロワジュールホテル那覇 古謝副会長
- 10土○令和7年度第10回理事会 県薬研修室
- 13火○ジェイドルフ製薬株式会社（社長・工場長）来訪 県薬会長室 阿部専務理事、大城事務局長
- 14水○日本薬剤師会令和7年度第4回都道府県会長協議会 日本薬剤師会 前濱会長
- 14水○日本薬剤師会 新年賀詞交歓会 明治記念館 前濱会長
- 15木○美ら島レスキュー2025図上訓練 県庁 災害薬事コーディネーター：鈴鹿理事、又吉智賀子、坂口結斗
- 15木○第3回那覇市地域保健感染症分科会 那覇市保健所 阿部専務理事
- 15木○令和7年度第2回沖縄県後期高齢者医療制度運営懇話会 沖縄県後期高齢者医療広域連合会議室 佐藤常務理事
- 16金○美ら島レスキュー2025図上訓練 県庁 災害薬事コーディネーター：鈴鹿理事・又吉智賀子・坂口結斗、長嶺主任
- 18日○**令和7年度薬事功労受賞者合同祝賀会・新年会** ダブルツリー byヒルトン那覇首里城
- 21水○令和7年度沖縄県感染症対策連携協議会 市町村自治会館 阿部専務理事
- 22木○沖縄県振興審議会委員の就任依頼に係る事前打ち合わせ 県薬会議室 前濱会長、阿部専務理事、大城事務局長、沖縄県保健医療介護部 薬務生活衛生課：中村薬務専門監・米村わか
- 22木○**令和7年度在宅訪問薬剤師座学研修会** 県薬ホール
- 24土○沖縄県栄養士会 令和8年新年会並びに表彰受賞祝賀会 ノボテル沖縄那覇 古謝副会長
- 25日○沖縄県臨床検査技師会 令和8年祝賀会ならびに新年会 ノボテル沖縄那覇 古謝副会長
- 25日○**令和7年度薬薬連携会議** 県薬ホール
- 26月○令和7年度第4回広報委員会 県薬会議室・Zoom
- 28水○令和7年度第2回沖縄県国民健康保険運営協議会 県庁 宮城常務理事
- 28水○**令和7年度アンチ・ドーピング研修会** 県薬ホール 講師：笠原大吾・黒島新、吉田理事、事務局 松堂
- 29木○薬局DX 基盤サービス「N-Bridge」説明会 県薬会議室 阿部専務理事、盛本理事、西川裕、事務局：長嶺主任・比嘉
- 29木○令和7年度第1回財務委員会 県薬会議室
- 29木○**令和7年度第4回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会** 県薬研修室・Zoom 講師：金城隆展氏（琉球大学病院 地域・国際医療部 特命助教 臨床倫理士） 事務局：大城事務局長・金城・比嘉・川平
- 30金○沖縄県医薬品登録販売者協会新年会 東洋飯店那覇店 阿部専務理事
- 30金○令和7年度第3回災害対策委員会 県薬会議室・Zoom
- 31土○令和7年度学校薬剤師九州ブロック連絡会議 桜の馬場城彩苑 前濱会長、学校薬剤師部会：知名常務理事・新垣紀子部会長
- 31土○**令和7年度第5回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会** 県薬研修室・Zoom 講師：古武孝仁氏（ふたば漢方薬局） 事務局 川平

沖縄県薬剤師連盟

令和7年12月

13土○自由民主党沖縄県支部連合会 第47回女性局大会並びに懇親会 東洋飯店那覇店 前濱会長、鈴木副幹事長

令和8年1月

- 5月○ニシメ恒三郎 新春の集い 南風原町中央公民館 名嘉幹事長、黒島新
- 7水○島尻あいこ 新春の集い 名護市市民会館 屋嘉比康太北部地区薬剤師会事務局長
- 9金○自民民主党沖縄県支部連合会 令和8年新春の集い パシフィックホテル沖縄 前濱会長、神村相談役
- 9金○2026 公明党沖縄県支部「賀詞交歓会」 ホテルモーリアクラシック沖縄 江夏監事
- 10土○コクバ幸之助 新春の集い 沖縄県市町村自治会館 盛本総務、神村相談役
- 15木○日本薬剤師連盟令和7年度第2回都道府県薬剤師連盟会長会 AP日本橋 前濱会長
- 15木○自由民主党沖縄県支部連合会移動政調会 沖縄ハーバービューホテル 阿部常任総務
- 28水○國場幸之助決起大会 パレット久茂地前交差点 前濱会長
- 30金○第51回衆議院議員選挙沖縄第一選挙区コクバ幸之助第2回選対会議 コクバ幸之助選挙事務所 阿部常任総務 大城事務局長
- 31土○宮崎政久総決起大会 浦添市産業振興センター 大城事務局長

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
(香典・生花等の手配があります)

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願ひします。

【連絡先】 沖縄県薬剤師会事務局 (上原・大城) : 098-963-8930



誌上ギャラリー（裏表紙）について

令和7年誌上ギャラリー大賞

第328号（令和7年5・6・7月号）掲載 **飯塚 雄矢**氏の撮影写真「**沖縄県久高島ロマンスロード**」

令和7年誌上ギャラリー優秀賞

第329号（令和7年8・9・10月号）掲載 **平良 博文**氏の撮影写真「**夕焼けに負けじと輝く二日月**」

おめでとうございます！ これからも会員の皆様からの多くの作品をお待ちしております!!

編 集 後 記

ダージリンのエクスペリエンスに参加しました。私の紅茶師匠が満を持しての企画、主催。

紅茶だけでなくその国の文化や習慣、歴史的背景も学ぶ興味深いセミナーでした。本場インドのダージリンを数種類ほど堪能し、会場ホテルの特別なセイボリー…美味な一日でした。恥ずかしながら、この歳になっても知らないことがまだまだたくさんあって。しかし、「知らないことを知る」、そこに喜びを感じています。と、ここまで書いて実は私、コーヒー党なんです。（苦笑）
（クララ）

AIに悩み事や困りごとを相談するとびっくりするぐらい優しい言葉で返事が返ってくる。まるで人間が返事をしてくれているような錯覚に陥る。いや、人間よりもきめ細やかで優しいのである。日本でもAIと結婚した男性が話題になったらしいが、世界中にはAIとの会話のやりとりの虜になってしまった人がゴマンといること。さらに自分の好みに合わせた理想のAIが作れるらしいので、対話型AIアプリを通してAIと愛の言葉を交わしている人が世界中に数百万人といらしい。

何かと腹の立つ人間社会よりは優しいAIの中に逃げたくなるが、AIはどこまでいってもAI、一緒に行動はしてくれない。一緒にご飯も食べてくれない。まだまだ行動するのが大事な人間社会の中で頑張るだけ頑張っただけ泥臭く動き回るのが私には似合っているようだ。
（ピアナ）

今回も不妊治療シリーズで「採卵」についてお話しさせていただきます。採卵とは、体外受精・顕微受精をする卵子を採取することです。まず、卵子（卵胞）をたくさん育てる自己注射を12日間します。注射の手技は慣れたものですが、自分自身に注射するのは最初はとても緊張しました。この12日間で、体重は4kg増え、足はとても浮腫み、倦怠感やメンタルの不調など様々な症状がでて大変でした。採卵当日は、ミダゾラムとペンタゾシン注で眠りに入り、起きたら処置が終わっていたのでホッとしたことを覚えています。ただ、処置に使用する採卵針は長さが30cmもあり、膣から卵巣まで針を刺して卵子を採取する処置だと知って、後から怖くなりました。採卵は身体的にも精神的にも決して楽なものではありませんが、今まさに自分自身と向き合っている最中だと感じています。

医療に携わる立場として、治療を受ける側の不安や負担を改めて実感している日々です。
（アリゴリ）

毎年恒例、第39回NAHAマラソンに出場してきました。

当日の天候は晴れ→曇り。スタート時点では雲一つない快晴だったので昼ぐらいにはとんでもない暑さになるのでは？と心配しましたが途中から曇ってきて風も冷たかったので走りやすい気候でした。

今年は昨年の反省も生かし、前半は飛ばし過ぎず水分もしっかり摂りながら、スタートから34kmぐらいまでは一定のペースで歩かず止まらず行けました。ただ、調子が良かったのもここまで35kmあたりから前腿に違和感が出始め、ペースを緩めたり走り方を変えたりしながら騙しだまし進んでいましたが、37km付近で急に両腿が痙攣を起し、豪快に攣りました(泣) そこからはペースが上がるはずもなく沿道の方々のサポート(冷却スプレーや氷でのアイシング)を受けながら歩いたり走ったりしながら何とか奥武山公園までたどり着き、かろうじて自己ベストの4時間20分51秒でゴール。

昨年達成できなかった自己ベストを達成できたことは収穫ですが、後半の失速は毎年の課題です。次こそは最後まで走り切る！！

2026年のNAHAマラソンは第40回の記念大会です。今から始めれば約1年の練習期間があります。マラソンに興味がある方はぜひ記念にチャレンジしてみたいかかでしょうか？
(ハンバーグ)

日々私たちは様々な選択肢の言葉の中から選択しながら会話をしています。その中で「何を」言うかは大事ですが「誰が」言うかと言うのも大事な要素であるということを実感したお話を今回はさせていただきます。

ある時、父に気になる症状があり家族で受診を勧めていたのですが、なかなか受診せず頭を悩ませていました。その時、当時2歳の娘がひと言「じいじ！びよーいん、いっしょにいこーか」と。すると翌週にすぐに受診し、結果パーキンソン病という診断になりました。幸い初期だったので早期治療が来ています。主治医曰く「薬だけではなく、喉の筋肉が衰えないようにリハビリが大事です、ゆんたくをたくさんしてください、あとは何か楽しみなことがあると良いです。」と。3歳になった娘は「じいじ高い高いして」「じいじおにごっこしよう！」と。寡黙な父ですが孫といるととても楽しそうに笑いますし、要望にも応えていて良いリハビリになっているとも思います。

なにより娘がとても楽しそうにしている、その無邪気な言葉かけや笑顔のおかげで私たちはいつも救われていると思うこの頃でした。
(ぼんず)

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kawahira@okiyaku.or.jp

■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937

■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932

■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-6026

おきなわ薬剤師会報 第331号 令和8年2月18日発行

◇次号は、令和8年5月中旬頃発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 前濱朋子

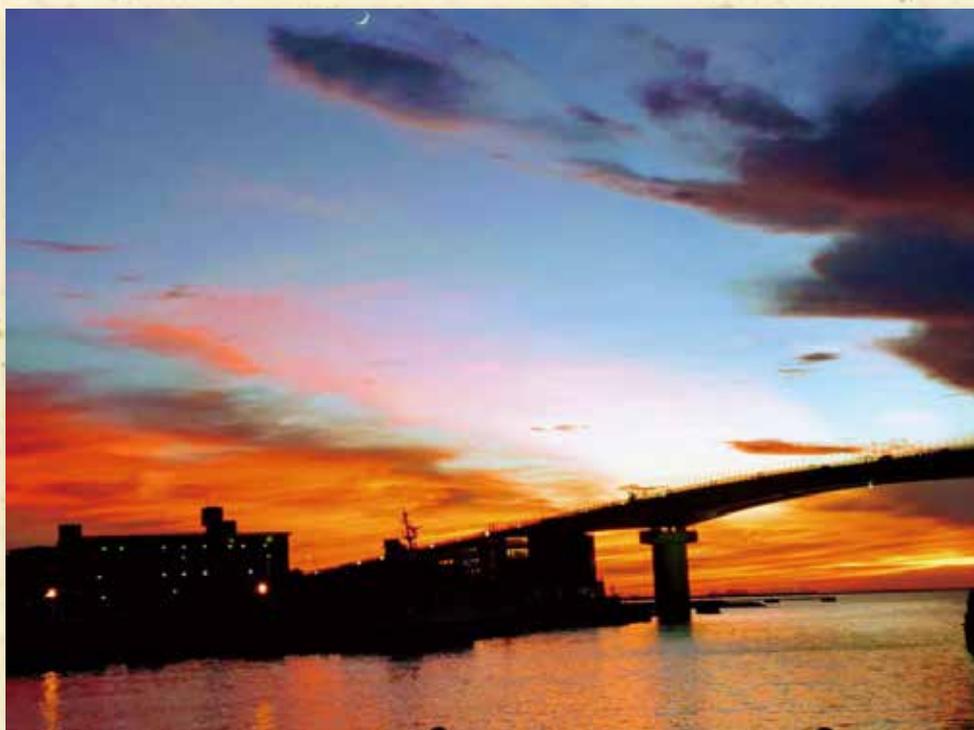
編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／池間記世・運天芳生・宮本直樹・古謝有沙・前野こずえ
久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／下地睦夫
八重山地区通信員／城野智哉 事務局／大城喜仁・川平真央 印刷：株式会社 東洋企画印刷

令和7年 誌上ギャラリー大賞



「沖縄県久高島ロマンスロード」photo by 飯塚 雄矢氏(会営薬局とよみ)
第328号掲載(令和7年5・6・7月号掲載)

令和7年 誌上ギャラリー優秀賞



「夕焼けに負けじと輝く二日月」photo by 平良 博文氏(アルファ薬局)
第329号掲載(令和7年8・9・10月号掲載)